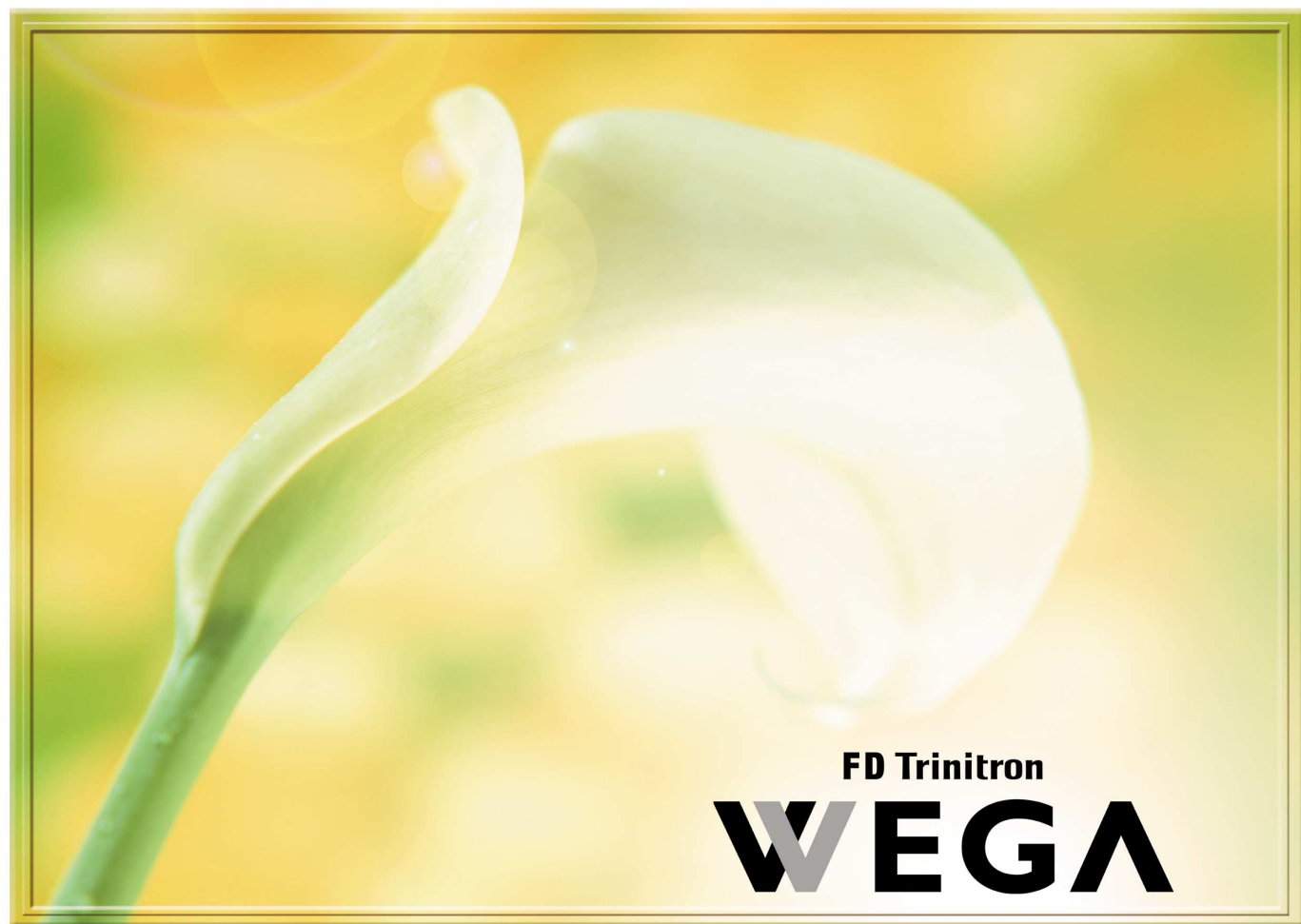
4-083-860-**12**(1)

KV-28DX750
KV-32DX750

FD Trinitron
WEGA

トリニトロン カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みの上、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

この取扱説明書でのBS放送の表記について

BS
従来からのBSアナログ放送(NHK衛星第一／第二、NHKハイビジョン、WOWOW)です。
例：BS放送、BSチャンネル、BSアンテナ、BSチューナー、BSチューナー内蔵ビデオなど

BSデジタル
2000年12月に本放送が開始されたBSデジタル放送です。
例：BSデジタル放送、BSデジタルチャンネル、BSデジタルチューナーなど

ハイビジョン放送
従来のBS9チャンネル(MUSE方式)の放送です。
BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン放送(HD放送)ではありません。

テレビの接続と準備

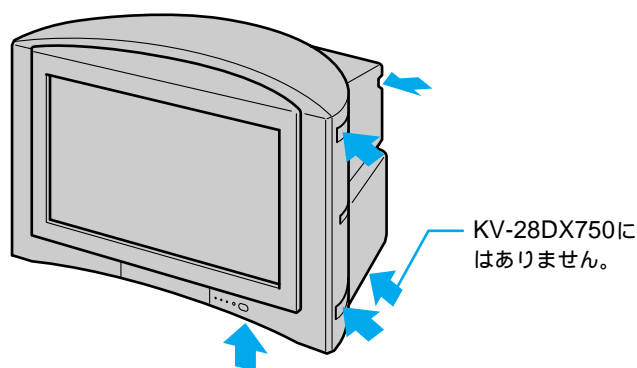
他機との接続

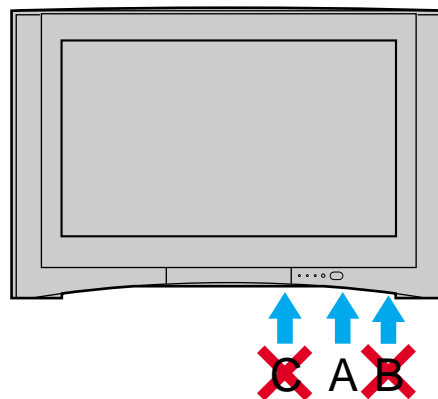
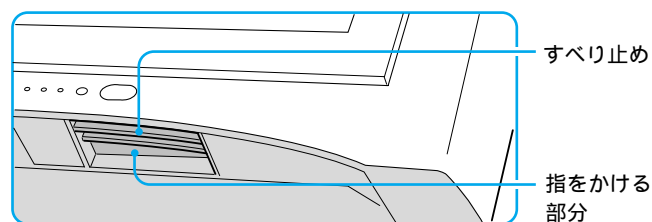
その他

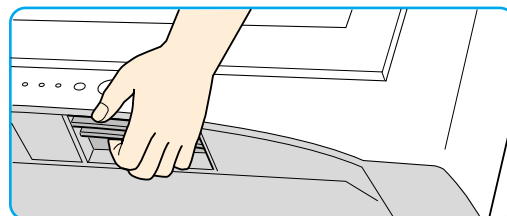
ご使用になる前に

テレビを運ぶとき

テレビを持ち運ぶときは、下の図の矢印部分（⬆）を必ず持ってください。
それ以外の部分を持つと、設置時にテレビとスタンドの間に手や指などをはさんで、けがの原因となることがあります。

持つところは、下の図のように片側5か所ずつ（KV-28DX750は4か所ずつ）あります。
必ず2人以上で運んでください。
ブラウン管は、特に正面側が重いので、倒れないように十分注意してください。

テレビ前面部分を持つときは

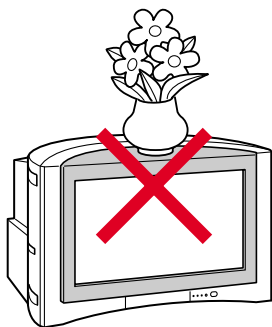
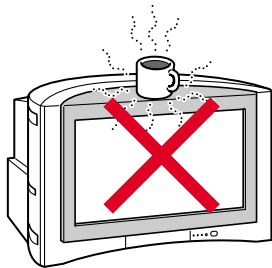
Aの部分を必ず持ってください。

Aの部分を持つときは、指先ですべり止めの位置を確認してください。

テレビを真下から見たとき（正面右側）

手のひらをすべり止めにあてて、しっかり持ってください。

A以外の部分（BやC）は、持たないでください。次のようなことがあり危険です。

- B 設置時にテレビと床やスタンドとの間で手や指などをはさんで、けがの原因となることがあります。
- C 扉がはずれることがあります。

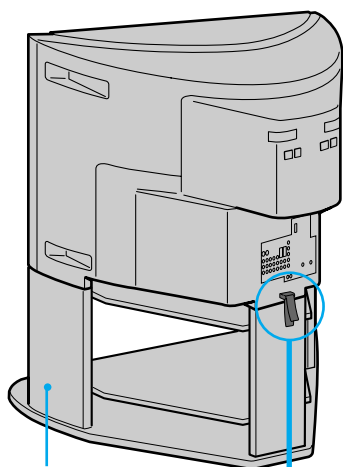
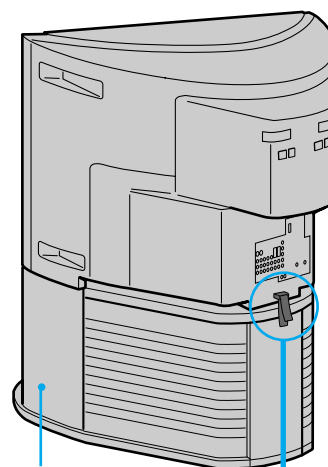
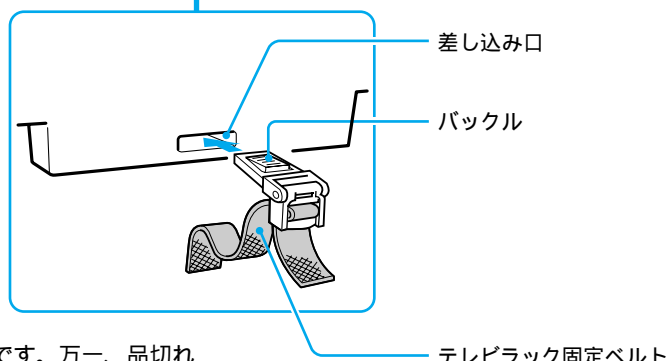
テレビ天面と前面の光沢塗装について

テレビの天面と前面は、光沢感のある仕上がりになっています。塗装表面の変色や変質、傷の原因になることがあるため、次のことを守ってください。

- テレビに物をぶつけない。
- テレビの上に熱くなったコーヒーカップや、花瓶など重い物を置かない。
  内部に水が入ると、火災や感電の原因になることがあります。

テレビの転倒を防ぐために

お子様が、テレビスタンドなどに載せたテレビに登ったり、テレビを押したりすると、テレビスタンドなどから、テレビが落ちる恐れがあります。
以下の方法にしたがって、テレビの転倒を防いでください。

専用のテレビスタンドを使うときは

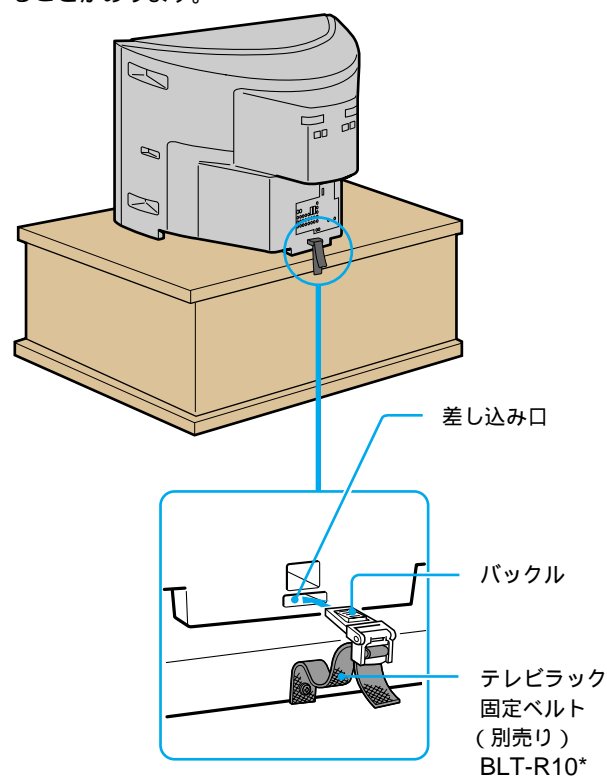
テレビスタンドに付属しているテレビラック固定ベルトのバックルを、テレビ後面の差し込み口にカチッと音がするまで差し込んでください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

テレビは壁から10cm以上離して設置してください

壁から10cm以上離して置いてください。風とおしをよくするためです。壁などに近づけ過ぎて、空気の対流が悪くなると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。また、通風孔がふさがれると、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

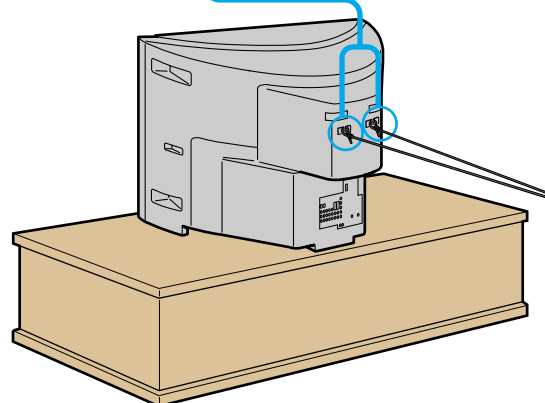
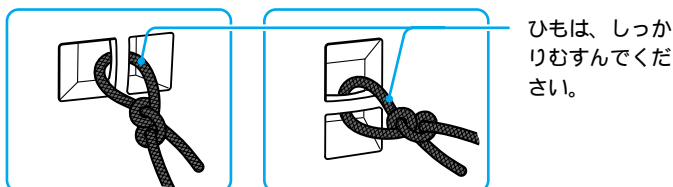
市販のテレビスタンドやラックを使うときは

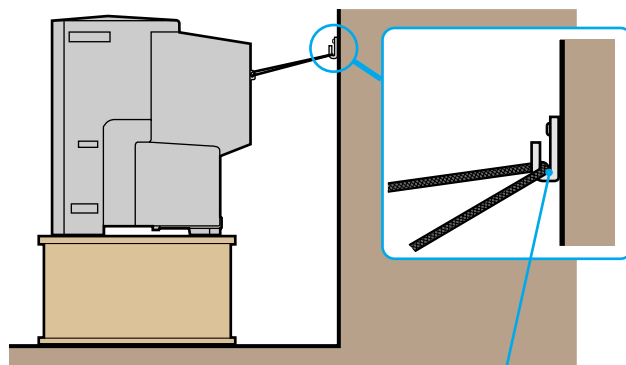
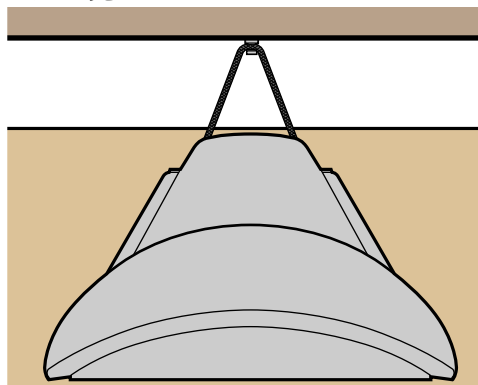
別売りのテレビラック固定ベルトBLT-R10で固定してください。
テレビラック固定ベルトのバックルを、テレビ後面の差し込み口にカチッと音がするまで差し込んでください。
市販のスタンドやラックに設置する場合は、テレビの底面よりも広くて水平なスタンドやラックをお使いください。また、耐重量や載せられるサイズも必ずご確認ください。
詳しくは、本機やテレビスタンド、ラックをお買い上げいただいたお店に、ご相談ください。

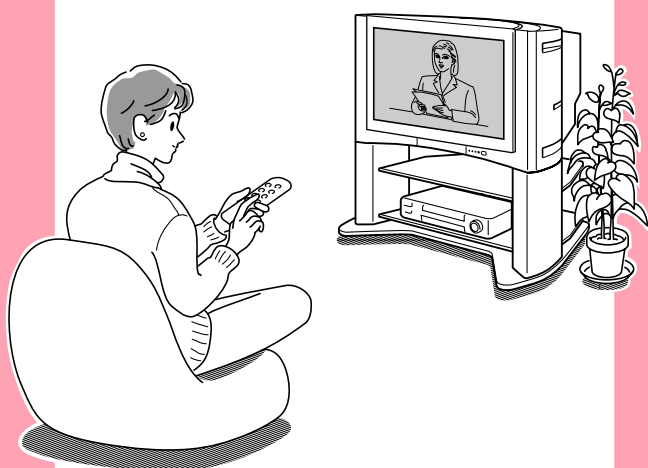
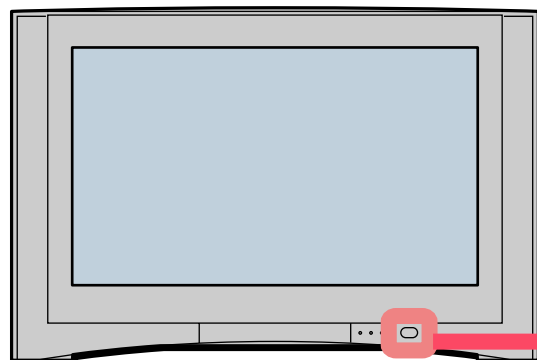
ご注意
段差やデコボコ、うねりがある台に置かないでください。
キャビネットの変形やきしみの原因になり、テレビが破損することがあります。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

市販のひもやクサリなどで固定するときは

丈夫なひもやクサリなどを、テレビ後面の2つの穴に通して、壁や柱などに固定してください。
詳しくは、本機やテレビスタンド、ラックをお買い上げいただいたお店に、ご相談ください。

① 丈夫なひもやクサリなどを、テレビ後面の穴に通して、しっかり付ける。

② 壁や柱などの安定した場所に、①で取り付けたひもやクサリなどを、しっかり固定する。

横から見たところ

上から見たところ

見る

ここでは、通常のテレビやBS放送をはじめ、ビデオやテレビゲームなどテレビにつないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。
映像に合った明るさに設定したり、節電しながら見たり、ワイド画面や2画面・多画面で見たりするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

テレビ / BS放送を見る

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。
もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。

チャンネル数字ボタンには、暗い場所でも操作しやすいように、ほのかに青白く光る蓄光材が入っています。そのため、太陽光や明るい照明の下などに約10分間以上置くと光が蓄えられ、暗くなると数時間光り続けます。暗い場所に放置したときは、光りません。

ちょっと一言

- スタンバイ/オフタイマーランプが点灯しているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル+/−ボタン、インデックスボタン、デジタルチューナーコントロールボタンを押すと自動的にテレビの電源も入ります。
- 省電力のため、放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。放送局の信号によっては「オートシャットオフ」機能が働かないことがあります。

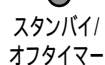
1 テレビの電源を入れる。

地磁気*などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が約10秒前後で映ります。

* 地球が一つの大きな磁石となって発生する磁場で、方位磁石が南北を示すのも地磁気によるものです。色むらの原因になることがあります。

スタンバイ/オフタイマー

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは
リモコンの電源スイッチを押す。

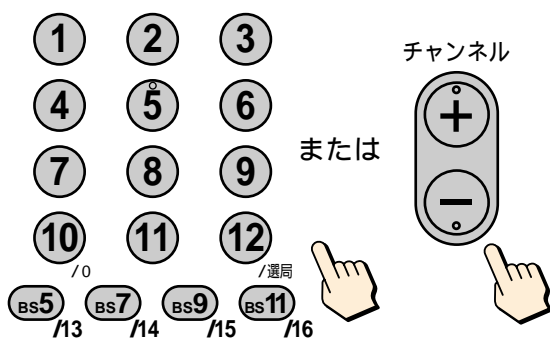
電源

スタンバイ/オフタイマー

スタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは
テレビ本体の電源スイッチを押す。

2 チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

チャンネル+/−ボタンでもチャンネルを選べます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
/0 /選局
BS5 /13 BS7 /14 BS9 /15 BS11 /16

または

チャンネル + −

BS放送は以下のチャンネルになります。

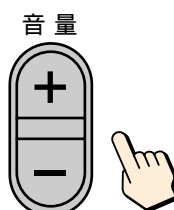
見たい放送	押すボタン
WOWOW（BS5）*1	BS5 /13
NHK衛星第一（BS7）	BS7 /14
ハイビジョン放送（BS9）*2	BS9 /15
NHK衛星第二（BS11）	BS11 /16

*1 BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れてください。なお、WOWOWは、別途WOWOWと受信契約し、専用のBSデコーダー（WOWOW）が必要です。

*2 BS9ボタンを押してハイビジョン放送を見るには、別売りのMUSE-NTSCコンバーターが必要です（☞77ページ）。通常のテレビ放送（NTSC）と同じ画質で、見ることができます。

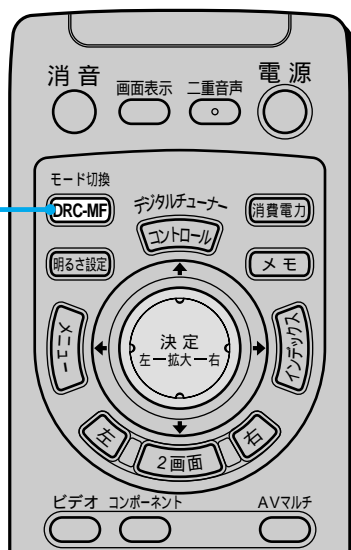
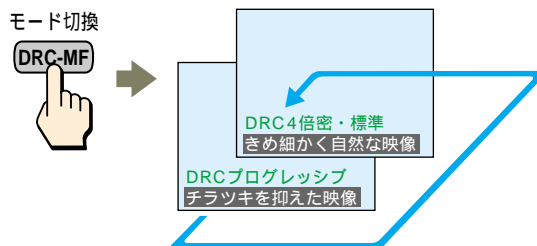
3 音量+/−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

映像に合ったリアル高画質で見る [DRC-MFモード切換ボタン]

このテレビ搭載の高画質回路「DRC-MF」(デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション) で、大画面で気になる画像の粗さをなくし、きめ細かくて質感のあるリアルな画像を楽しめます。
通常ご覧になるときは、お買い上げ時の設定であるDRC4倍密 (標準) モードのまま、お楽しみください。よりきめ細かく自然な映像をお楽しみいただけます。静止画の文字などのチラツキが気になるときは、DRCプログレッシブモードに切り換えてください。

DRC4倍密 (標準) モード
通常のNTSC映像を4倍の情報量で映し出し、きめ細かく自然な映像にします。

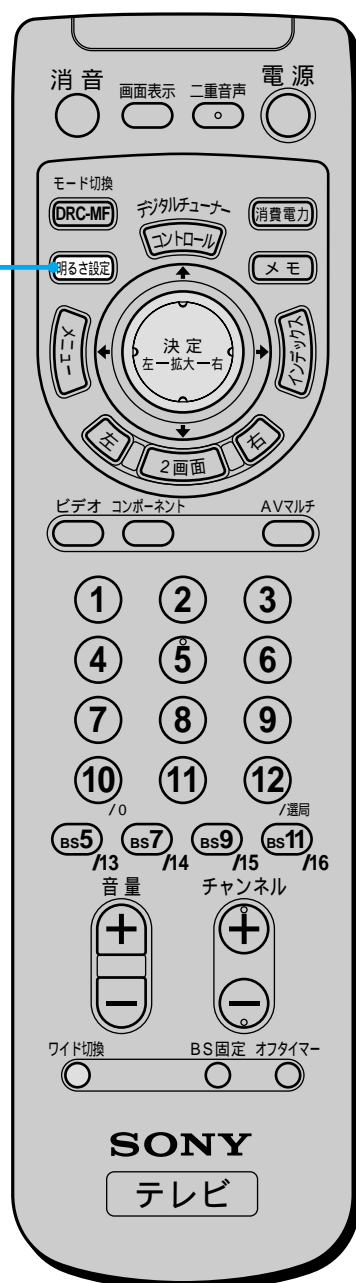
DRCプログレッシブモード
順次走査 (プログレッシブ) を行い、チラツキを抑えた映像にします。

DRC-MFモード切換ボタンをくり返し押す。

この画像のときは	この画面表示を選ぶ
テレビやBS放送、ビデオなどの一般的な映像を見るとき	
静止画の文字やグラフィックス、細かい横線などが多い映像で、部分的な映像の揺れやチラツキが気になるとき	

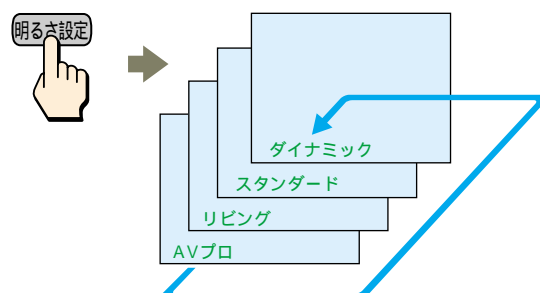
ちょっと一言
メニュー画面でも操作できます。「(画質/音質)」メニューで「DRC-MF」を選び、「DRC4倍密・標準」か「DRCプログレッシブ」を選んでください。

ご注意
以下のときは、DRC-MFモード切換ボタンは働きません。
－2画面
－インデックス画面
－メモ画面
－AVマルチ入力でCGゲームモードが「入」のとき
－AVマルチ入力端子、コンポーネント1、2 (D4映像) 入力端子、およびコンポーネント3入力端子につないだ機器から525i (480i) *以外の信号を受信しているとき

* 詳しくは、「映像信号フォーマット」(☞91ページ) をご覧ください。

部屋の明るさに合った映像を選ぶ
[明るさ設定ボタン]

明るさ設定ボタンを押すだけで、部屋の明るさに合った映像を選べます。また、「リビング」や「AVプロ」を選ぶと、より細かく画質を調整できます（☞29ページ）。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「リビング」を選ぶことをおすすめします。

明るさ設定ボタンをくり返し押す。

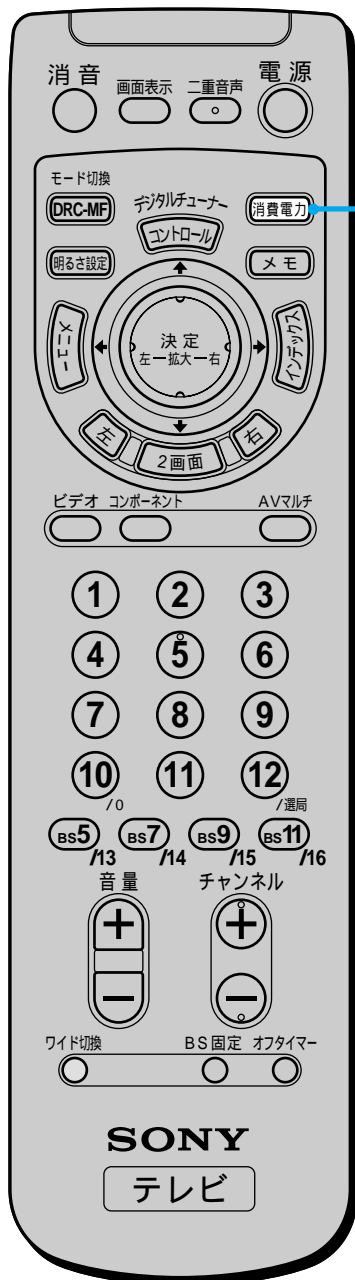
1回押すと、現在の明るさ設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように切り換わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像になります。

スタンダード
明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある映像になります。

リビング
明るさや色あい、色の濃さなど基本的な調整ができます（☞29ページ）。「標準」では、標準的な部屋の明るさに合わせた適度なコントラストのある映像になります。

AVプロ
色温度や黒補正など、よりきめ細かな調整ができます（☞29ページ）。「標準」では、コントラストと輪郭強調を抑えて、オリジナルにできるかぎり忠実な、DRC（☞10ページ）の性能をより引き出した映像になります。

節電しながら見る [消費電力ボタン]

節電しながら見ることができます。

消費電力ボタン

消費電力ボタンを押す。

節電中になります。

消費電力：減

節電をやめるには

もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力:標準」と表示されます。

さらに節電するには

節電レベルの大小を選べます。
「消費電力：減」のときのみ、以下の手順で「消費電力減レベル：大」を選ぶと、さらに節電できます。
「消費電力：標準」で行っても節電効果はありません。

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **↑/↓で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **↑/↓で「消費電力減レベル」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **↑/↓で「小」（お買い上げ時の設定）または「大」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言

- 「消費電力:減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力:減」のままになります。
- メニュー画面でも操作できます。「（各種切換）」メニューで「消費電力」を選び、「標準」または「減」にしてください。
- 明るさ設定ボタンで「リビング」または「AVプロ」を選んでいるときは、「消費電力:減」でも、画質を調整できます（☞29ページ）。ただし、「ピクチャー」や「明るさ」を上げると節電にならなくなる場合があるため、おすすめしません。

ワイド画面を楽しむ

自動でワイド画面にする［オートワイド］

通常のテレビ放送も、ワイドクリアビジョン放送や映画など横長サイズの映像も、下のイラストのように、テレビが最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。これをオートワイド機能と言います。下の例では、お買い上げ時の設定*を示しています。

* お買い上げ時は、オートワイド「2」で、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されています。ただし、AVマルチ入力（☞22ページ）のときは、オートワイド「1」に設定されています。

オリジナルの映像（映像の種類）	画面モード	オートワイドの映像

- **通常のテレビやBS放送（画面横縦比4:3）**

違和感少なく画面いっぱいに拡大します。

- **ワイドクリアビジョン放送（横縦比16:9）**
- **ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画（横縦比1.85:1）**
- **横縦比情報の入ったDVDソフトの映像（ID-1方式）**

画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）

- **シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画（横縦比2.35:1）**

画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。

- **横縦比情報の入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS1方式）**

天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。

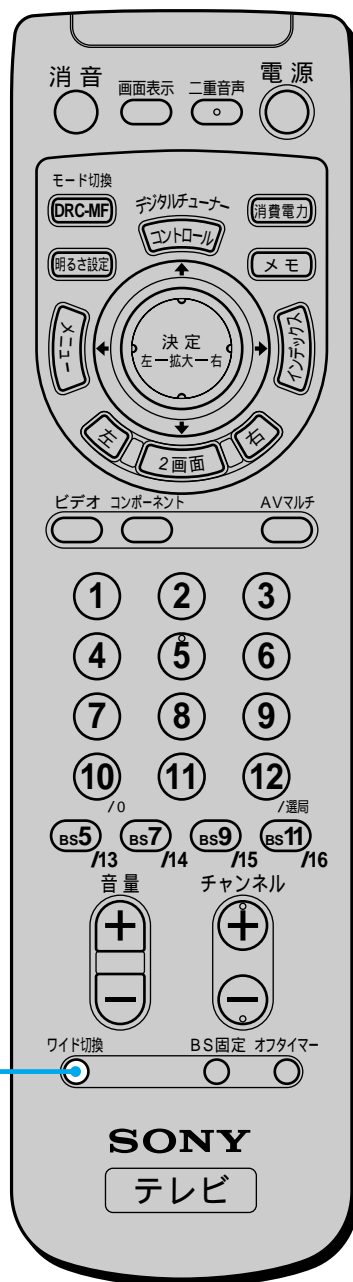
- **オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ノーマル」（お買い上げ時は「ワイドズーム」）に設定したとき（☞25〜27ページ）**

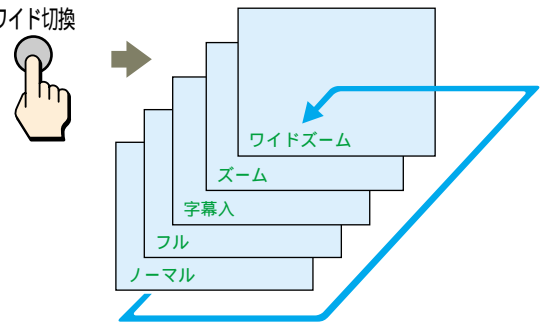
拡大せずに、横縦比4:3のままの映像になります。

次のページにつづく

ワイド画面を楽しむ（つづき）

手動でワイド画面に切り換える［ワイド切換ボタン］

オートワイド機能とは別に好きな画面モードを手動でも選べます。また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

ワイド切換ボタンをくり返し押す。

1回押すと、映像のサイズや種類に応じて、テレビが最適な画面モードをすばやく選んで表示します*。その後、押すたびに、次のように画面モードが変わります。画面モードの詳しい説明については、☞13ページをご覧ください。

* 「画面モード」メニューの「オートワイド設定」が「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定しているとき（☞27ページ）は、ワイド画面にならないで、画面横縦比4:3の映像のまま（「ノーマル」のまま）になります。

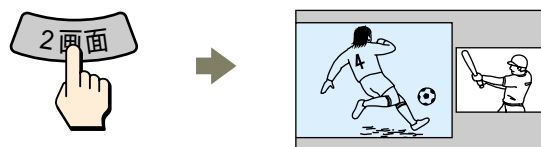
ちょっと一言

手動でワイド画面を楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞27ページ）。

2画面で見る [2画面ボタン]

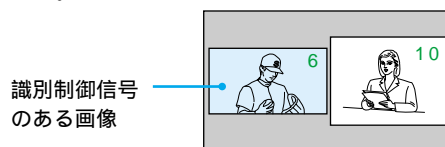
左右の画面サイズを変えて、2つのチャンネルを同時に見ることができます。また、通常のテレビやBS放送と、テレビにつないだビデオなどの画像も同時に見ることができます。

2画面ボタンを押す。

もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 次の画像は、2画面で同時に見ることができません。
  – 同じテレビ（VHF/UHF）チャンネル
  – 同じまたは別々のBSチャンネル（BSチューナー内蔵ビデオでBS放送を受信し、その画像をテレビのビデオ入力に選べば、表示できます。）
  – 同じ入力の画像（ビデオ1とビデオ1など）
  – コンポーネント入力同士の画像の組み合わせ
  – コンポーネント入力とAVマルチ入力の画像の組み合わせ
- コンポーネント入力端子とAVマルチ入力端子からの映像は左画面にのみ表示されます。
- 2画面のまま電源を切り、再び電源を入れると1画面に戻ります。

画質やワイド画面についてのご注意

- 2画面では、オートワイド機能は働きません。ただし識別制御信号のある画像は判別してワイド画像のまま表示されます。

- 2画面は、左右それぞれ別々の回路で信号処理しています。そのため、映像や音質など左右画面の間に多少の差があります。

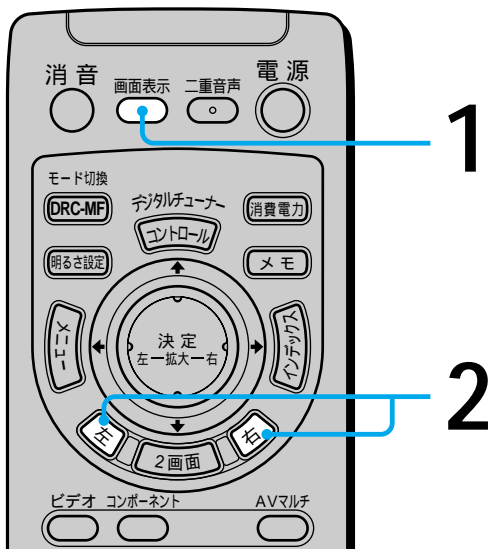
録画についてのご注意

- 2画面の映像は録画できません。BS/ビデオ出力端子からは、通常は左画面の映像/音声を出力します。BS固定時（☞34ページ）は、固定したBSチャンネルの映像/音声を出力します。ただし、コンポーネント入力端子につないだ機器の画像は、常に出力しません。また、お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の画像は、出力しない設定になっています（☞61ページ）。

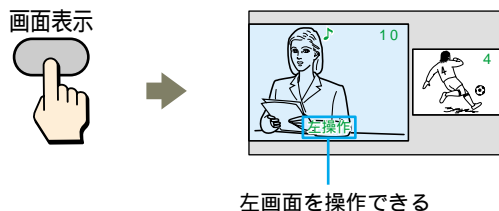
次のページにつづく

2画面で見る［2画面ボタン］（つづき）

操作する画面を選ぶ［左/右ボタン］

チャンネルや入力を選んだり、音量を調節できる画面（操作画面）を選びます。
2画面を表示した直後は、左画面が操作画面になっています。また、操作画面の音声がスピーカーから出ます（ヘッドホンの音声は☞18ページ）。

1 画面表示ボタンを押して、操作画面がどちらになっているか確認する。

2画面を表示した直後は、左画面が操作画面になっています。

左画面を操作できる

2 操作したい画面が「操作画面」になっているときは

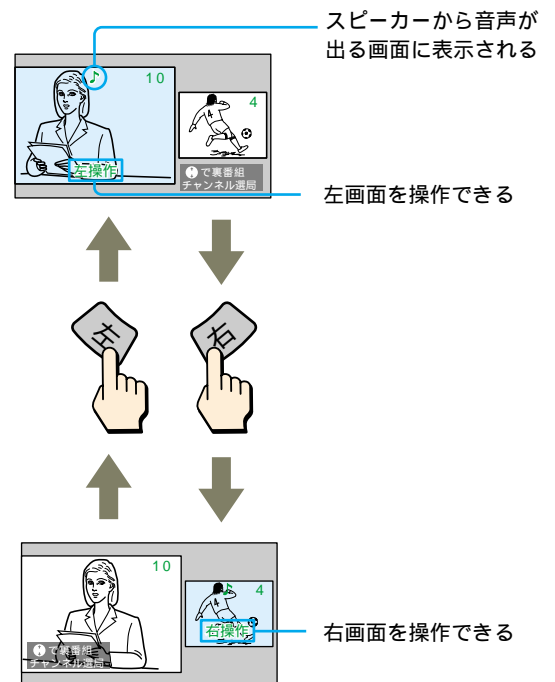
そのまま、チャンネルや入力を選んだり、音量を調節したりしてください。

操作したい画面を変更したいときは

操作したい側のボタン（左/右ボタン）を押す。
操作画面が入れ換わります。

スピーカーから音声が出る画面に表示される

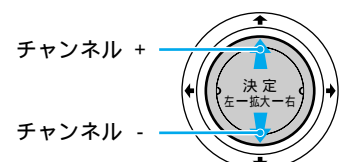
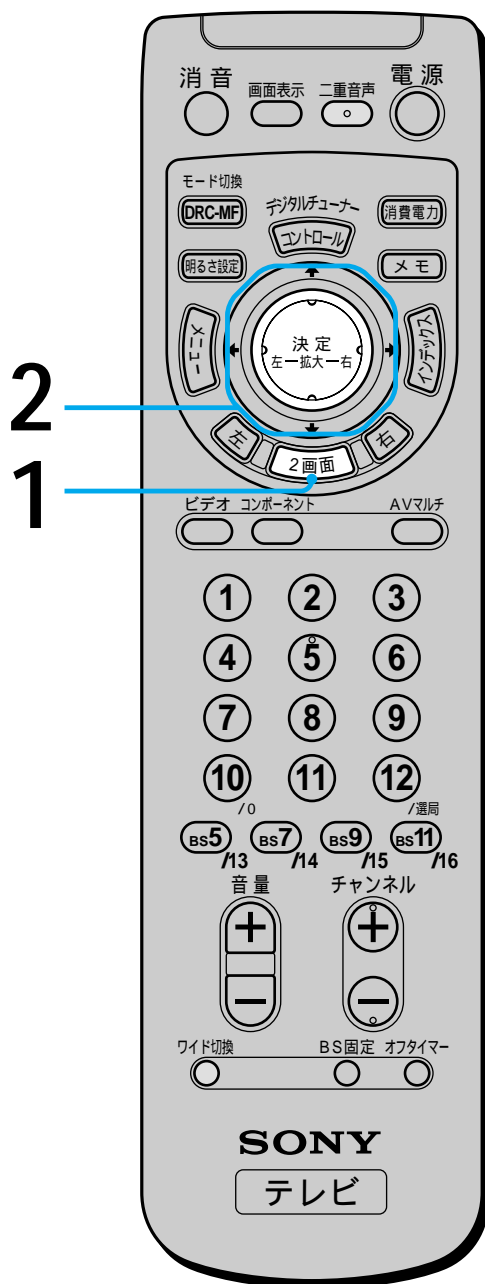
左画面を操作できる

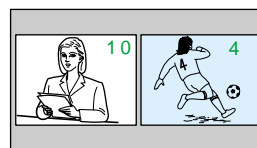
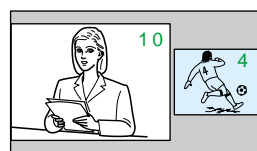
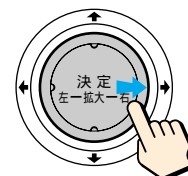
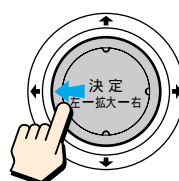
右画面を操作できる

ちょっと一言
- メニュー画面でも操作できます。「(2画面)」メニューで「操作入替」を選び、「左操作」か「右操作」にしてください。
- 操作画面（ヘッドホンモード「1」のとき☞18ページ）またはスピーカーから音声が出ている画面（ヘッドホンモード「2」のとき☞18ページ）で放送が終了すると、自動的に消音します。1画面に戻してから、終了していないチャンネルを選ぶと音が出ます。また、省電力のため、操作画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

2画面でチャンネルを選ぶには

どちらの画面もそれぞれ別々にチャンネルを選べます。

画面表示ボタンを押して、操作画面を確認し、チャンネルを切り換える。

チャンネルを切り換えたい画面	押すボタン
操作画面（「左操作」または「右操作」と表示される操作画面です）	1〜12、BS5/13、BS7/14、BS9/15、BS11/16 または チャンネル＋/－
操作画面でない画面	チャンネル＋ / チャンネル－

画面サイズを変える［左拡大/右拡大］

1 2画面になっていなければ、2画面ボタンを押す。

2 大きくする側に←/→を押し続け、希望のサイズになったら指を離す。

ちょっと一言

左右の画面サイズを変えたときは、その大きさをテレビが記憶するため、再び2画面にしたときに、その大きさで表示します。

次のページにつづく

2画面で見る［2画面ボタン］（つづき）

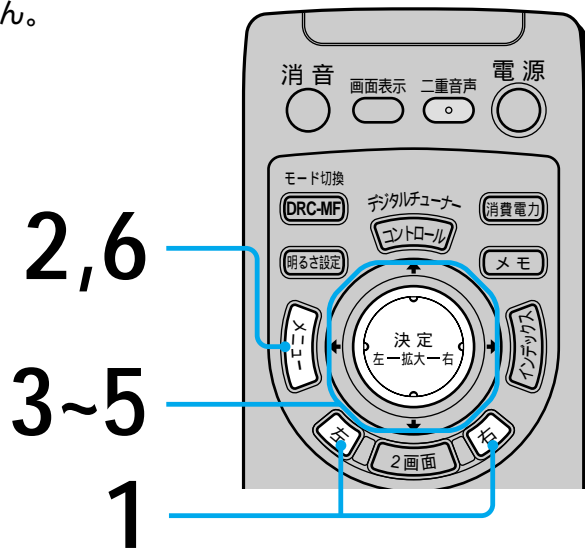
2画面でヘッドホンの音声を選ぶには

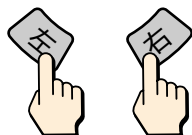
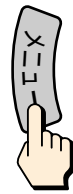
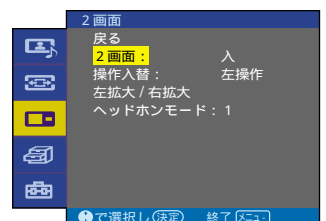
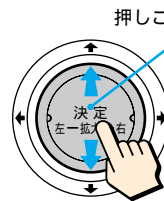
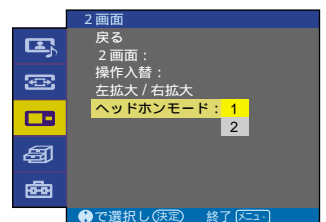
スピーカーから音声を出さずにヘッドホンで聞いたり、ヘッドホンとスピーカーで左右画面の音声を別々に出したりできます。ヘッドホンモードを設定してください。

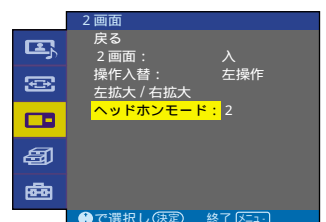
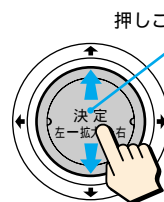
ヘッドホンモード「1」にすると

操作画面の音声がヘッドホンから聞こえます。スピーカーからは音声は出ません。
左/右ボタンを押すと、ヘッドホンの音声も切り換わります。

ヘッドホンモード「2」にすると

ヘッドホンとスピーカーから左右それぞれの画面の音声が別々に出ます。
設定後は、左/右ボタンを押して操作画面を切り換えても、ヘッドホンの音声は切り換わりません。

1 ヘッドホンモードを「2」に設定するときは、左/右ボタンを押して、スピーカーで音声を聞く画面を選ぶ。

（「1」に設定するときは、この操作は不要です。）

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「(2画面)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「ヘッドホンモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「1」または「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「2」を選んだときは、ヘッドホンからはスピーカーとは逆の画面の音声が出ます。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

ヘッドホンモード「2」に設定して一度2画面モードを終了して、再度2画面モードにすると、ヘッドホンモードは「1」に戻ります。

ちょっと一言

ヘッドホンを抜くと、「ヘッドホンモード」の設定によって、次の音声がスピーカーから出ます。
–「1」のとき:ヘッドホンで聞いていた音声
–「2」のとき:そのままのスピーカーの音声

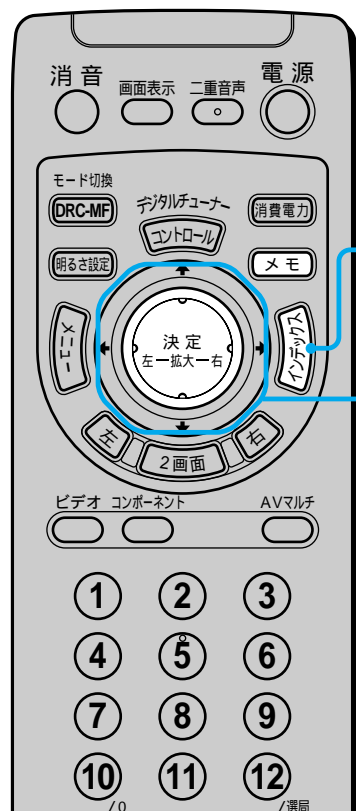
チャンネルを一覧表示する［インデックスボタン］

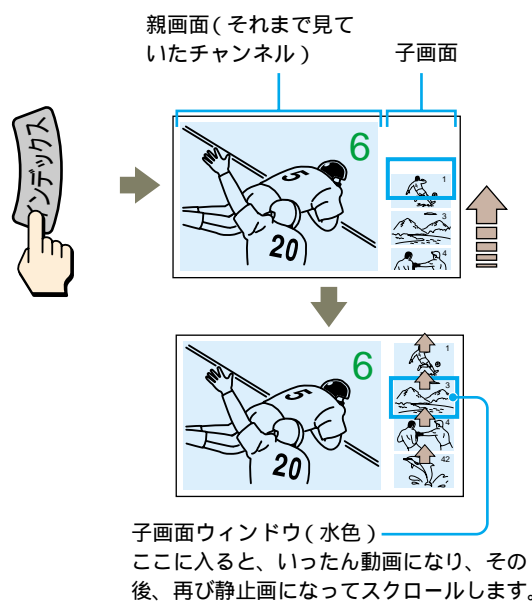
見ているチャンネルを高画質で大きく表示したまま、あらかじめ受信設定したすべてのチャンネルが下から上へ（または上から下へ）順々にゆっくり動いて表示されます（スクロール表示）。スクロールしている小さい画面から、見たいチャンネルを選べます。番組内容のチェックやチャンネル選びが、よりスムーズに楽しくできます。

ご注意

インデックスボタンを押す前に、チャンネルを設定しておいてください（☞45ページ）。受信設定されたチャンネルのみがインデックス画面に出るためです。

ちょっと一言

スタンバイ/オフタイマーランプ点灯中にインデックスボタンを押すと、電源が入り、インデックス画面が表示されます。見たい番組が決まっていないときに便利です。

1 インデックスボタンを押す。

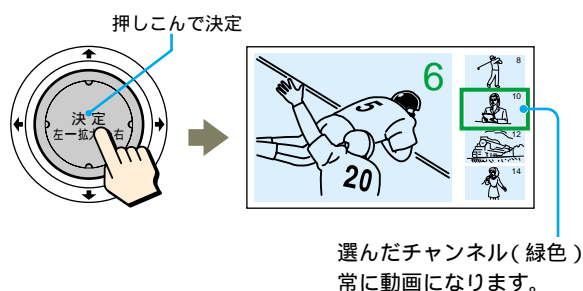
見ていたチャンネルが左側に表示され、右側に受信設定されているチャンネルが自動的に下から上にスクロールして表示されます。

スクロールの向きを上から下に変えるには

⬇を押します。

すばやくスクロールするには

⬆/⬇を押したままにします。

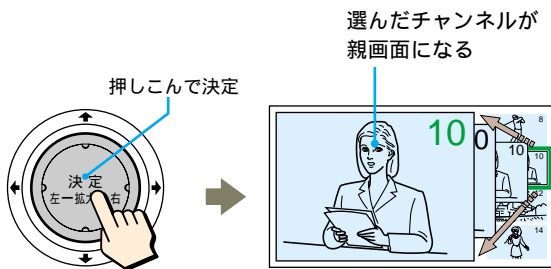
2 見たいチャンネルが子画面ウィンドウに入ったら、真ん中を押しこんで決定する。

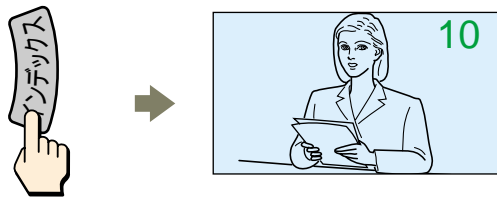
子画面ウィンドウの枠が水色から緑色に変わり、スクロールが止まります。

再びスクロールしたいときは、⬆/⬇を押します。

次のページにつづく

チャンネルを一覧表示する［インデックスボタン］（つづき）

3 **選んだ子画面ウインドウのチャンネルを親画面で見たいときは、もう1度真ん中を押しこんで決定する。**

選んだチャンネルがズームアップして、親画面になります。音声も切り換わります。

4 **インデックスボタンを押す。**

1画面になります。

途中でインデックス画面を消すときは

インデックスボタンを押すと、そのとき親画面で見ていたチャンネルの1画面になります。

ご注意

子画面ウィンドウの枠の色（水色・緑色）は、「色あい」や「ピクチャー」を調整すると、色が変わって見えます。

録画についてのご注意

- インデックス画面表示中に、チャンネルを選んだり、入力を切り換えたりすると、親画面がそのチャンネルまたは入力になります。
- 子画面ウィンドウが緑色のときは、子画面ウィンドウに入っているチャンネル以外は、更新されません。
- インデックス画面は録画できません。BS/ビデオ出力端子からは親画面の映像/音声のみ出力されます。

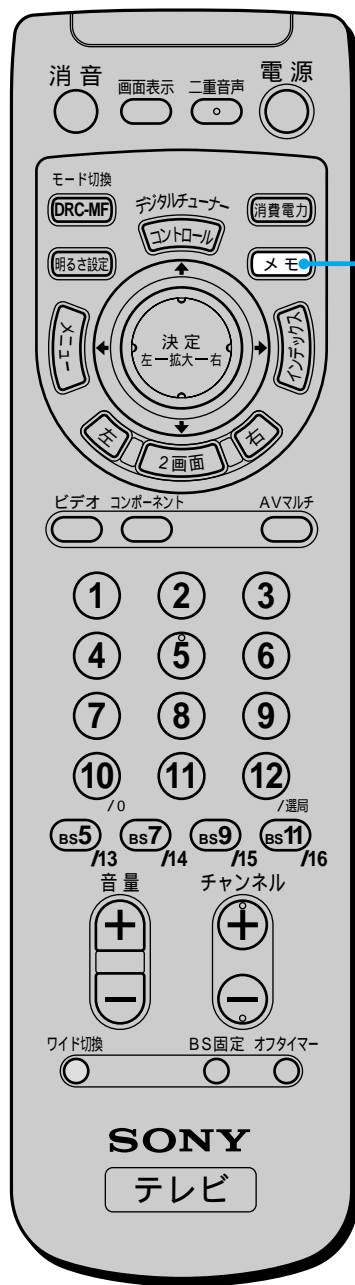
BSチャンネルについてのご注意

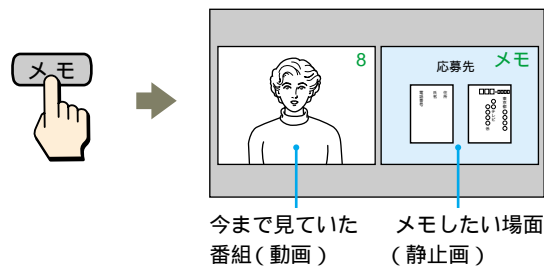
- BS固定時（☞34ページ）は固定されたBSチャンネルのみインデックス画面に表示されます。BS固定しておかないと、BS/ビデオ出力端子からの信号を録画中に、インデックス画面の操作をすると、出力される信号が切り換わることがあります。
- 親画面にBSチャンネルが映っているときは、BSチャンネルはそのチャンネルのみが、子画面にスクロール表示されます。
- 子画面ウィンドウが緑色で子画面ウィンドウにBSチャンネルが入っているときは、チャンネル+/–ボタンやチャンネル数字ボタンで他のBSチャンネルを選ぼうとしても、親画面は選ぼうとしたBSチャンネルには切り換わりません。
- 子画面ウィンドウが水色で子画面にBSチャンネルが映っているときに、他のBSチャンネルを選んで親画面にすると、子画面に残ったBSチャンネルは子画面ウィンドウに入っても、静止画のままになります。
- WOWOWはスクランブルがかかったまま表示されることがあります。

ちょっと一言

- 2画面のときにインデックスボタンを押すと、操作画面が親画面になります。ただし、「ヘッドホンモード」が「2」で（☞18ページ）、ヘッドホンをつないでいると、スピーカーから音声が出ている画面が親画面になります。また、途中でインデックスボタンを押すと、2画面に再び戻ります。
- 親画面で放送が終了すると、省電力のため、約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

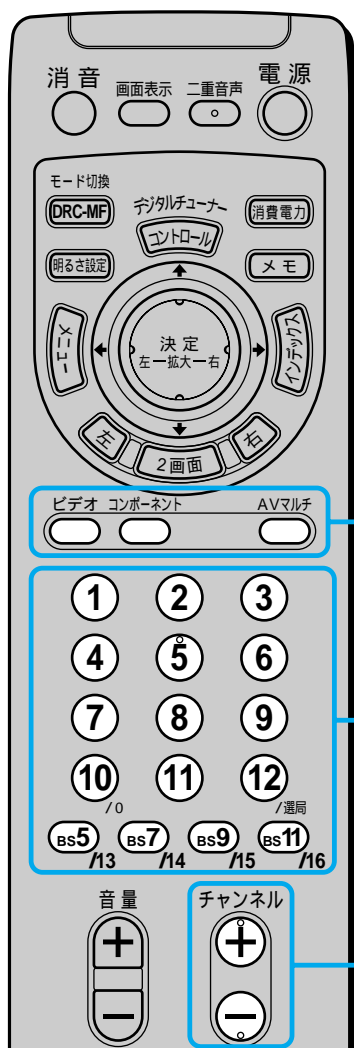
メモするために画面を静止させる［メモボタン］

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画で確認できます。同時に今まで見ていた番組もお楽しみいただけます。

メモしたい場面で、メモボタンを押す。

2画面になり、メモしたい場面が右に出ます。もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 2画面やインデックス画面を見ているときは、メモはできません。
- メモ中に、チャンネルや入力を切り換えると、1画面に戻ります。
- 省電力のため、左の通常画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

テレビにつないだ機器の画像を見る

入力を切り換えて、テレビにつないだビデオ機器やBSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー、テレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞56〜81ページをご覧ください。

ちょっと一言

- テレビ本体の入力切換ボタンをくり返し押しても、入力を切り換えられます。

  テレビ → ビデオ1 → ビデオ2 → ビデオ3 → ビデオ4 ↓
  ↑ AVマルチ Y/CB/CR ← AVマルチ RGB ← コンポーネント3 ← コンポーネント2（D端子） ← コンポーネント1（D端子）

- デジタルチューナーコントロールボタンを押すと、コンポーネント1入力端子につないだソニー製BSデジタルチューナーの画像にも切り換えられます。

1 入力切換用のボタンを押して、見たい画像を選ぶ。

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ	• ビデオ1入力端子 • ビデオ2入力端子 • ビデオ3入力端子 • BSデコーダー/ビデオ4入力端子*1	ビデオ1*2 ↓ ビデオ2*2 ↓ ビデオ3*2 ↓ ビデオ4（→ビデオ1に戻る）
コンポーネント	• コンポーネント1入力端子 • コンポーネント2入力端子 • コンポーネント3入力端子	コンポーネント1（D端子） ↓ コンポーネント2（D端子） ↓ コンポーネント3（→コンポーネント1に戻る）
AVマルチ	• AVマルチ入力端子 詳しくは、「AVマルチ入力端子につないだとき」（☞23ページ）をご覧ください。	AVマルチRGB ↕ AVマルチY/CB/CR

*1 お買い上げ時は、ビデオ4入力は選べない設定になっています。BSデコーダー/ビデオ4入力端子にビデオ機器などをつなぎ、「デコーダー/ビデオ」の設定を「ビデオ4」に変えると選べます（☞61ページ）。

*2 S1映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」〜「Sビデオ3」と表示されます。

2 接続している機器を操作する。

詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ画面に戻すときは

チャンネル数字ボタンまたはチャンネル＋/−ボタンを押す。

または

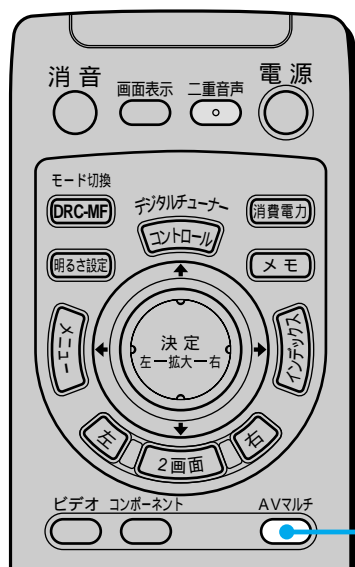
“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”を楽しむ

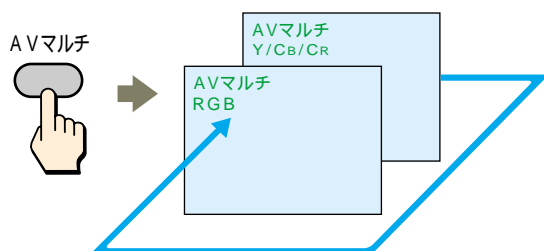
“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もあわせてお読みください。

AVマルチ入力端子につないだとき（☞73ページ）

RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な映像でゲームを楽しめます。

ご注意

ソフトウェアによっては、AVマルチ入力端子のRGB接続またはY/CB/CR接続に適していないものもあります。

AVマルチボタンをくり返し押す。

押すたびに、AVマルチ入力が、次のように切り換わります。

“ プレイステーション 2 ”を使うには

AVマルチボタンをくり返し押して、“ プレイステーション 2 ”の映像が出る入力（「AVマルチRGB」または「AVマルチY/CB/CR」）にする。

ご注意

下の表のように、“ プレイステーション 2 ”側の設定にテレビ側のAVマルチ入力を合わせてください。設定が異なっていると、映像が乱れたり、正しく表示されないことがあります。

“ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面で「コンポーネント映像出力」が	テレビ側のAVマルチ入力を
「RGB」のときは、	「AVマルチRGB」にする。
「Y Cb/Pb Cr/Pr」のときは、	「AVマルチY/CB/CR」にする。

“ プレイステーション ”(PS one) および“ プレイステーション ”を使うには

AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」を選ぶ。

“ プレイステーション 2 ”、“ プレイステーション ”(PS one) および“ プレイステーション ”の画面の左右位置を調整するには

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **↑/↓で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **↑/↓で画面の左右位置を調整する。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

次のページにつづく

“プレイステーション２”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”を楽しむ（つづき）

CGゲームモードの設定をするには

CGゲームモードを「入」にすると、CG（コンピューター・グラフィックス）の多いゲームに適した映像を楽しめます。また、CGゲームモードを「切」にすると、DVDの映画などの自然画に適した映像を楽しめます。ソフトに合わせて選んでください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「CGゲームモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

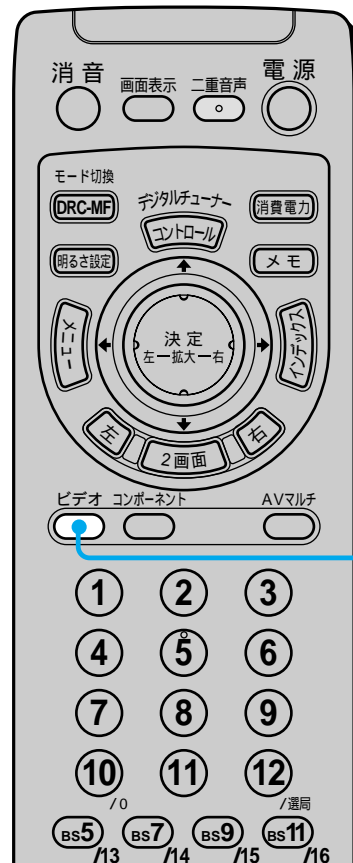
4 現在のAVマルチ入力（「RGB」または「Y/CB/CR」）が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。
現在のAVマルチ入力のみ選べます。

5 ↑/↓で「入」か「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

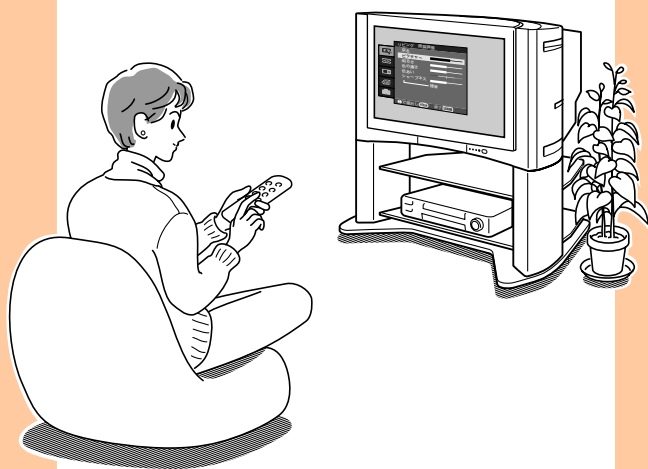
ご注意
- AVマルチ入力以外の入力を選んでいるときは、CGゲームモードの切り換えはできません。
- “プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”用のゲームソフトによっては、CGゲームモードを切り換えられないことがあります。

ちょっと一言
- AVマルチ入力端子は、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なる場合がありますが、テレビに影響はありません。
- AVマルチ入力端子につないだ機器の映像や、テレビの設定によっては、DRC-MFモード切換ボタン（☞10ページ）が働かないことがあります。
- 「AVマルチ画面位置」は、「AVマルチ」の映像でのみ、調整できます。
- 将来の“プレイステーション２”用の高解像度ゲームソフトなどには、このテレビは対応していません。
詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、テレビの画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ビデオ入力端子につないだとき（☞74ページ）

ビデオボタンをくり返し押す。
“プレイステーション２”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”などの映像が出る入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」）にする。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

ご注意
「CGゲームモード」の設定はできません。

調整する/設定する

ここでは、画質や音質、および画面の位置やサイズなどを調整する応用的な操作を説明しています。
BS放送をビデオに録画したり、予約録画したりするときの操作も説明しています。
また、テレビに内蔵されているタイマーを使って、自動的に電源を切ったりする操作も説明しています。

オートワイドの設定を変える

オートワイドの設定について

オートワイドの設定には、「1」と「2」があります。

オートワイド「1」
テレビ放送では、ワイドクリアビジョン放送や一部の放送局の通常放送（4:3映像）には、映像を判別するための識別制御信号*1が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。
このような識別制御信号を判断して、**忠実に再現する**のが、オートワイド「1」です。ただし、識別制御信号がないときに、手動で選んだ画面モードによっては、画面の周囲が黒くなったり、映像の一部が欠けたりすることがあります。

オートワイド「2」
次ページのように、識別制御信号の有無に関係なく、最適な画面モードに切り換えるのが、オートワイド「2」です。

お買い上げ時は、オートワイド「2」で、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されています。ただし、AVマルチ入力（☞22ページ）のときは、オートワイド「1」に設定されています。

*1 識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS1方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

オートワイドの設定を変える（つづき）

映像の種類による「1」と「2」の画面モードの違い

映像の種類	画面モード	
	オートワイド「1」	オートワイド「2」
通常のテレビやBS放送	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったテレビ放送*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
映像中に字幕が入った横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ズーム」
映像の外に字幕のある横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「字幕入」
ワイドクリアビジョン放送*3	「ズーム」	
横縦比を16:9（「ズーム」または「フル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS1方式）*3	「ズーム」または「フル」	
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS1方式）*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2

*2 メニューで設定します（☞27ページ）。お買い上げ時は「ワイドズーム」になっています。
*3 識別制御信号（☞25ページ）の入った映像です。

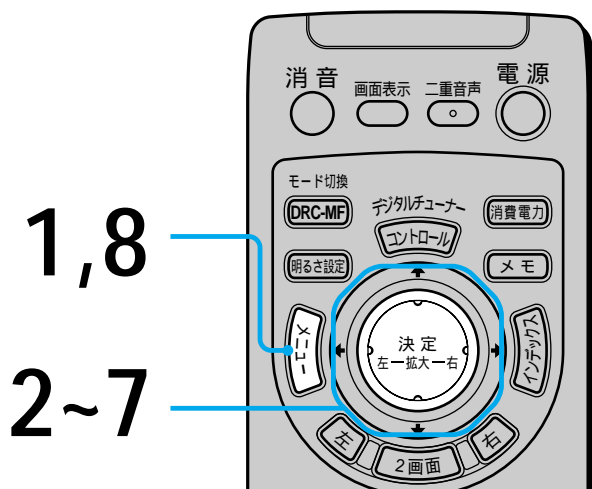
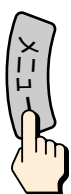
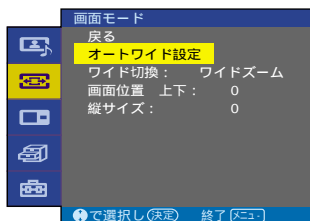
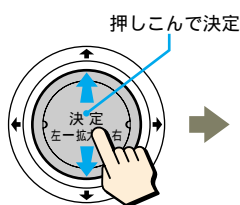
ちょっと一言
- ワイド切換ボタンで切り換えたあと（☞14ページ）などは、表のようにならないことがあります。
- オートワイドが働いているときにワイド切換ボタンを1回押すと（☞14ページ）、上記のオートワイド「1」、「2」にしたがって、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、識別制御信号の有無により、次のようになります。
  − 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  − 識別制御信号のない映像のときは、オートワイドを「2」に設定していても、オートワイドが働かなくなります。ただし、チャンネルや入力を変えたり電源を入/切したりすると、再び働きます。
- このテレビは、映画フィルムをより忠実でなめらかな動きの映像に再現します。これは、映画フィルムの信号の規則性を自動的に識別し、最適な信号処理を行うためです。

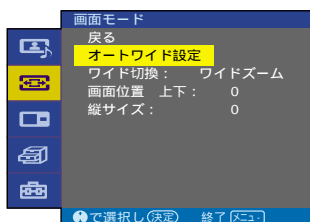
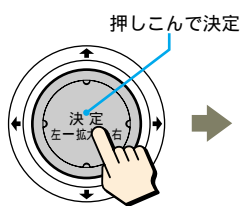
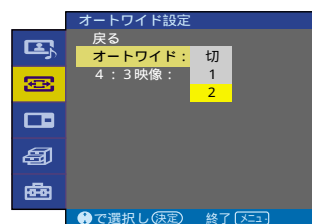
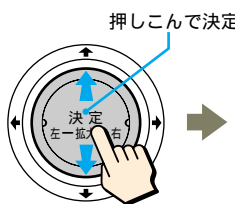
オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わるときは

- 識別制御信号のある映像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになる（☞13ページ）ためです。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面をテレビが判断している（☞13ページ）ためです。

ワイド画面についてのご注意
- このテレビは、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- このテレビを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、上下位置や縦サイズを調整してください（☞28ページ）。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

オートワイドを設定する/切る

オートワイドについての詳しい説明は、☞13ページをご覧ください。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 「オートワイド設定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

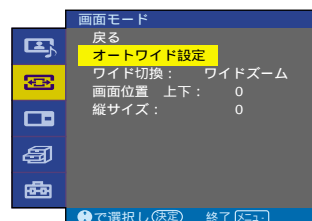
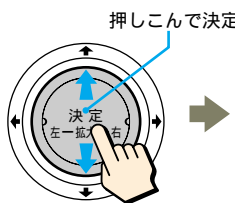
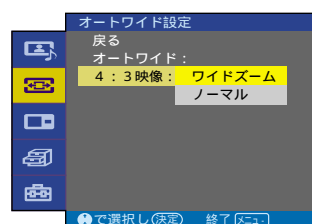
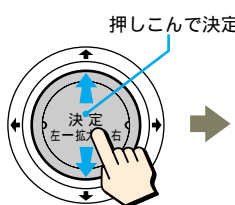
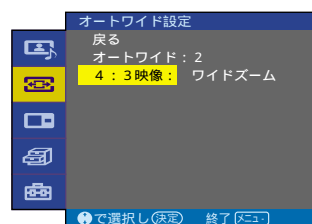
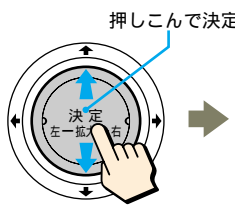
選ばれていないときは、↑/↓で選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「オートワイド」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

5 オートワイドを切るときは

↑/↓で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。

オートワイドを「1」に設定するときは

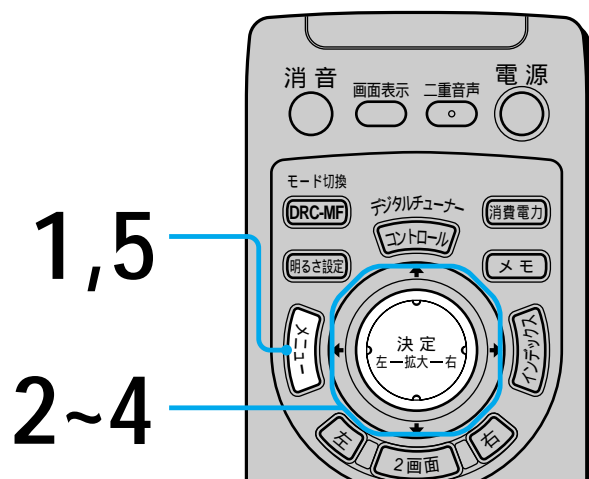
↑/↓で「1」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。

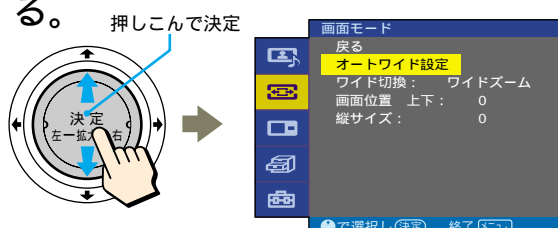
オートワイドを「2」に設定するときは

↑/↓で「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 オートワイド「2」のときは、↑/↓で「4:3映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 ↑/↓で「ノーマル」または「ワイドズーム」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

画面の上下位置/縦サイズを調整する

ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞13ページ）ごとに調整できます。
- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。

1 調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。

2 ⬆/⬇で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ⬆/⬇で調整したい項目を選ぶ。

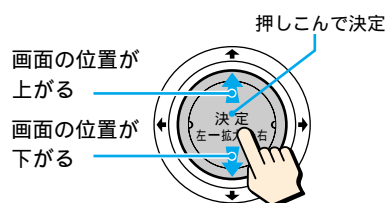
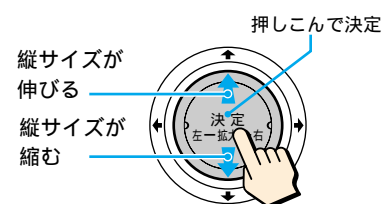
画面の上下位置を調整するときは

⬆/⬇で「画面位置　上下」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

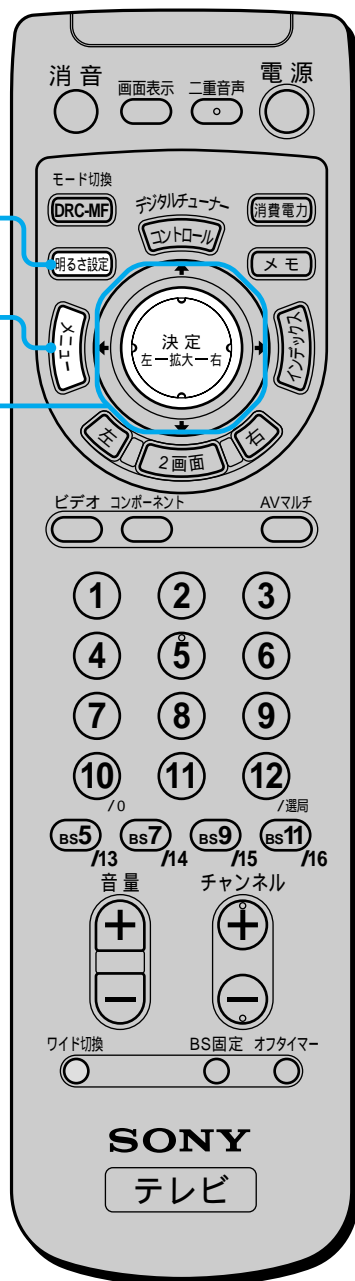
サイズを調整するときは

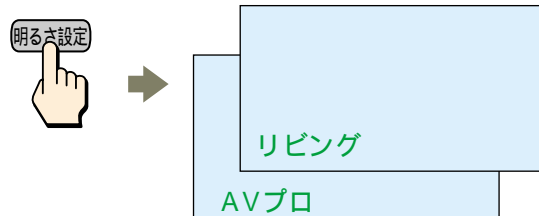
⬆/⬇で「縦サイズ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ⬆/⬇で調整して、真ん中を押しこんで決定する。

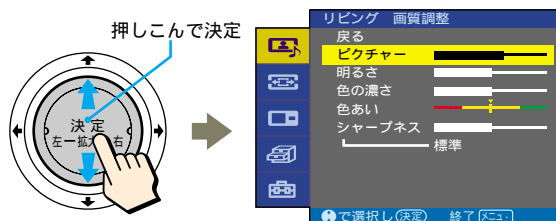
画面の上下位置を調整するときは

縦サイズを調整するときは

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

より細かく画質を調整する

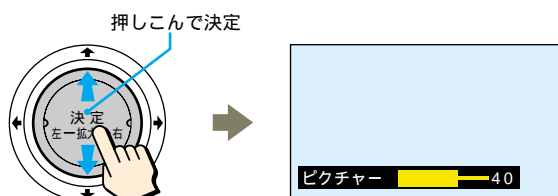
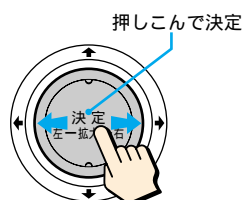
明るさ設定ボタンで「リビング」や「AVプロ」を選ぶと、画質をより細かく調整できます。画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送、BS放送は共通の設定になります）。

1 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「リビング」または「AVプロ」を選ぶ。

ご注意
「ダイナミック」と「スタンダード」（☞11ページ）では、画質調整できません。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「画質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

より細かく画質を調整する（つづき）

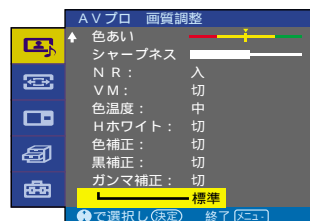
5 ↑/↓で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓←/→で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

「リビング」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

「AVプロ」でのみ調整できる項目

↓を押し続けて「シャープネス」の下まで移動すると、以下の項目が調整できます。

項目	説明	選べる設定
ノイズリダクション NR*	**通常は「入」にしておいてください。** 「入」:映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。 「切」:元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。	入/切
ベロシティモジュレーション VM **（速度変調）**	映像の輪郭を強調する。	強/中/弱/切
色温度	「高」から「低」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。	高/中/低
ハイパー **Hホワイト**	白の鮮明さを強調する。	入/切
色補正	美しく、健康的な肌色を再現する。	入/切
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。	強/中/弱/切
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。	強/中/弱/切

* 「NR（ノイズリダクション）」は、コンポーネント1、2（D4映像）入力端子、コンポーネント3入力端子、AVマルチ入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できません。

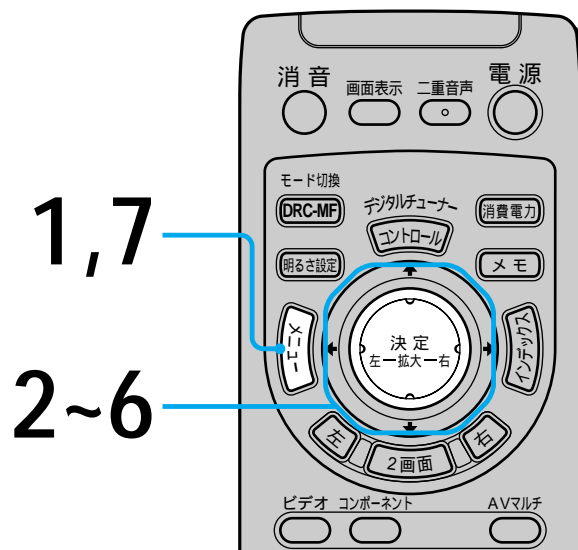
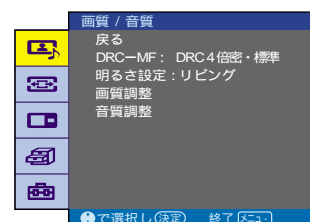
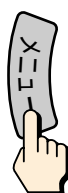
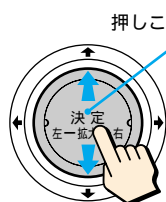
7 **他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。**

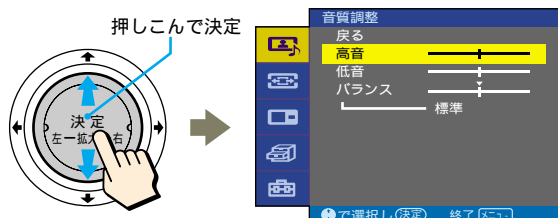
8 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

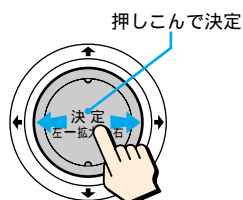
お買い上げ時の状態に戻すには

手順5で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

音質を調整する

音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送とBS放送は共通の設定になります）。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

次のページにつづく

3 ↑/↓で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓/←/→で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

手順4で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

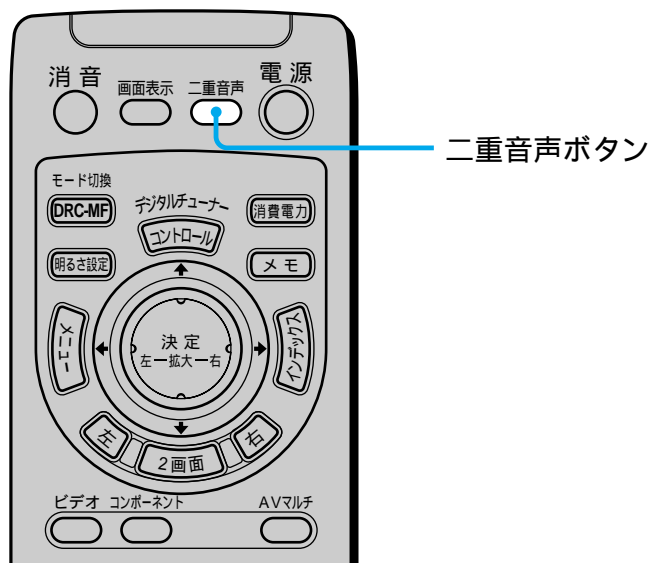
ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンで聞いているときに音質調整をすると、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

それぞれの音を聞き取りやすくするには（BBE機能）

音の明瞭感を高めて、メリハリのある聞きやすい音にするのが「BBE」機能です。
お買い上げ時は、「入」に設定されています。
「切」にして効果を少し弱めることもできますが、音量感が弱まるため、通常は「入」のままで使うことをおすすめします。

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **↑/↓で「BBE」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **↑/↓で「入」または「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

音声を切り換える
[二重音声ボタン]

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

二重音声ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。

画面表示	左側の音声	右側の音声
主	主音声	主音声
副	副音声	副音声
主/副	主音声	副音声

例:「主/副」を選んだとき

ちょっと一言

2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。

通常のテレビ（VHF/UHF）のステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **↑/↓で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **「オートステレオ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **↑/↓で「切」にして、真ん中を押しこんで決定する。**
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

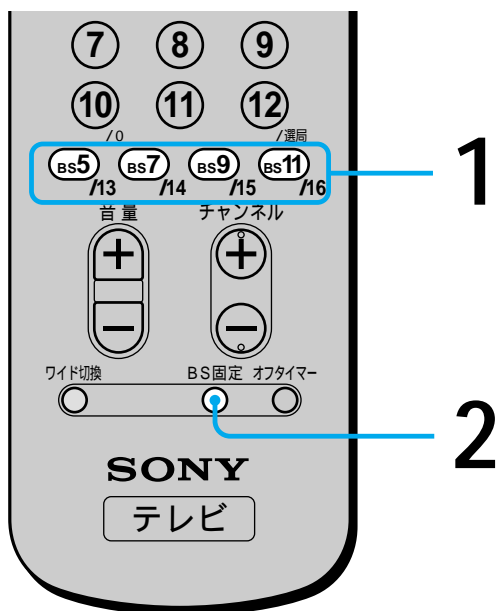
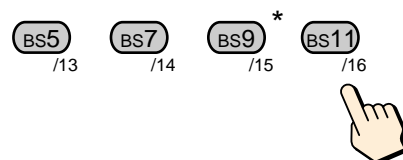
ちょっと一言

BS放送では放送内容により、以下の音質表示が画面右上に出ます。

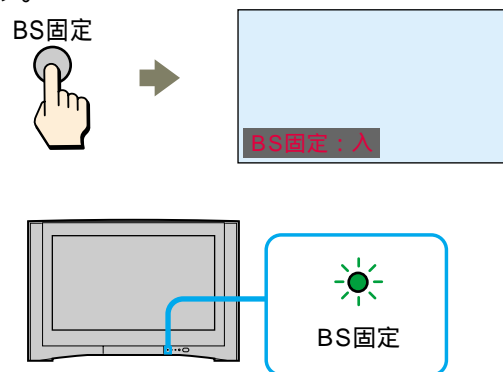
- 「A」: Aモード（FM放送とほぼ同じ音質）を受信。
- 「B」: Bモード（Aモードより高音質でCDとほぼ同じ音質）を受信。
- 「独立」: BS5チャンネルのSt.GIGA（独立音声放送）を受信。
- 「ステレオ」: ステレオ放送を受信。（通常のテレビ放送でも表示）

なお、AモードとBモードは、番組内容に応じて放送局側が使い分けて送信するものを、テレビが自動的に判別して受信するため、二重音声ボタンなどで切り換えることはできません。

BS放送を録画/予約録画する［BS固定ボタン］

このテレビ内蔵のBSチューナーで、BS放送をテレビにつないでいるビデオに録画できます。
また、録画するBSチャンネルを固定して、48時間以内の予約録画もできます。
あらかじめ、「ビデオをつなぐ」（☞60ページ）をしておいてください。

1 録画したいBSチャンネルを選ぶ。

* **ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を録画するときは**
MUSE-NTSCコンバーターをつなぐ必要があります（☞77ページ）。詳しくは、必ずMUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書をご覧ください。

2 BS固定ボタンを押す。

「BS固定：入」と表示され、BS固定ランプが点灯します。BSチャンネルとBS/ビデオ出力端子から出る信号が固定されて、他のBSチャンネルに切り換わらなくなります。

ちょっと一言
二か国語放送など二重音声放送のときは、二重音声ボタン（☞33ページ）で聞きたい音声を選べます。

3 S映像入力端子付きビデオのときは、ビデオ側で映像入力端子の信号を優先する設定にする。

テレビのBS/ビデオ出力端子は映像出力端子のため、ビデオ側でS映像入力端子の信号を優先する設定にしてあると、映像信号がビデオに入力されないため、録画されません。
詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

4 ビデオを「外部入力（ライン入力）」に切り換えて、録画を始める。

詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

見ながら録画するときは

BS固定したBSチャンネルで、そのままお楽しみください。他のBSチャンネルには、切り換わりません。

裏番組として録画するときは

BSを録画しながら、通常のテレビ（VHF/UHF）やビデオを見ることができます。見たいチャンネルやビデオ入力などを選んでください。
他のBSチャンネルには、切り換わりません。

予約録画するときは

ビデオで「外部入力（ライン入力）」を録画予約し、リモコンでテレビの電源を切る。
テレビの電源はスタンバイ状態になりますが、BSチューナー部の電源は48時間電源が入ったままになります（BS固定ランプが点灯）。

録画が終わったら/BS固定をやめるには

BS固定したチャンネルを選んでから、BS固定ボタンをもう1度押す。BS固定ランプが消えてBS固定が解除され、他のBSチャンネルを選べます。

ご注意

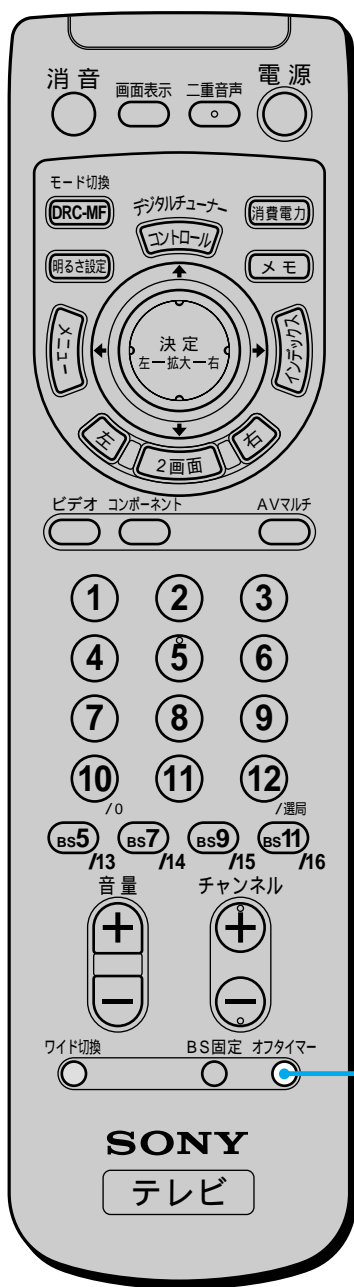
- テレビ本体の電源スイッチで電源を切ったり、電源コードを抜いたりすると、録画できなくなります。
- WOWOWなどスクランブル放送を録画するときは、BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れたままにしてください。

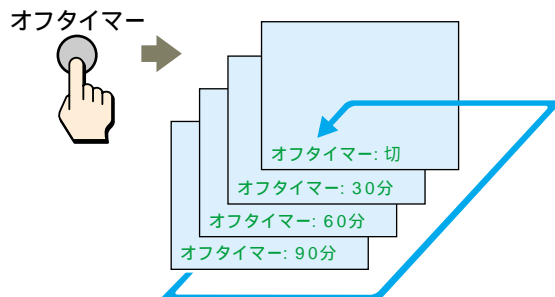
ちょっと一言

St. GIGAなど独立音声放送を録音するときは、「（各種切換）」メニューで、「TV/独立音声」を「独立」にしてください。また、BSデコーダー（WOWOW）でも独立音声を選んでください。

調整する／設定する

自動で電源を切る［オフタイマーボタン］

テレビをつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れます。

オフタイマーボタンをくり返し押す。

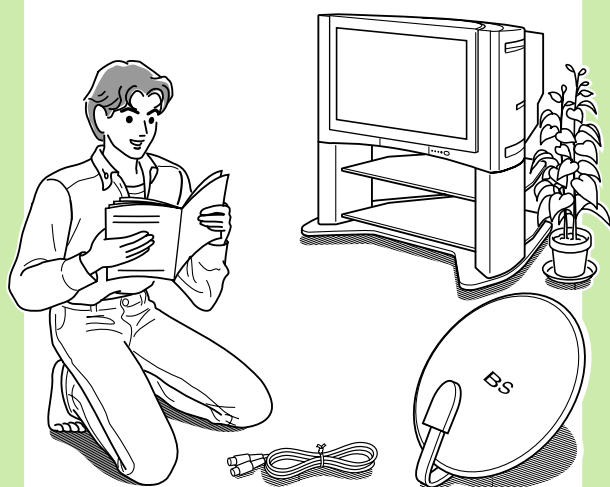
押すたびに、次のように時間が変わります。また、テレビ本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯します。

オフタイマーを途中でやめるには

オフタイマーボタンをくり返し押して、「オフタイマー:切」を選ぶ。

ちょっと一言

- オフタイマーが働いているときに、オフタイマーボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間（例:「オフタイマー:あと17分」）が表示されて、数秒後に消えます。
- 電源を入れ直したときは、「オフタイマー:切」に戻ります。
- メニュー画面でも操作できます。「(各種切換)」メニューで「オフタイマー」を選び、時間を設定してください。

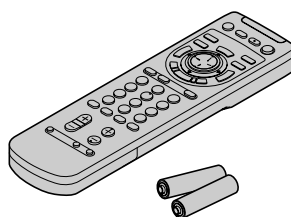
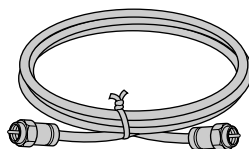
テレビの接続と準備

ここでは、テレビアンテナとBSアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定や、BS放送を見るための設定を説明しています。
手順1～5（☞40～52ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞56～81ページ）をご覧ください。

テレビを設置するときは、必ず、「地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する」（☞43ページ）を、行ってください。

地磁気などの影響により、画像が傾いたり、上下位置がずれたり、色むらなどが発生したりする場合があります。

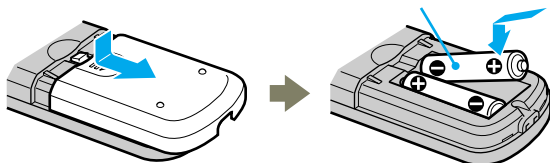
付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

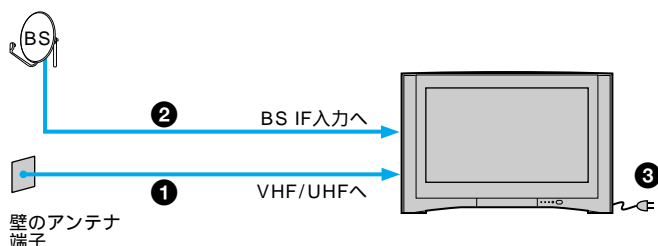
リモコン（1個）と単3形乾電池（2個）

アンテナ接続ケーブル（1本）

取扱説明書
安全のために
安全点検のおすすめ
ソニーご相談窓口のご案内
保証書
（各1部）

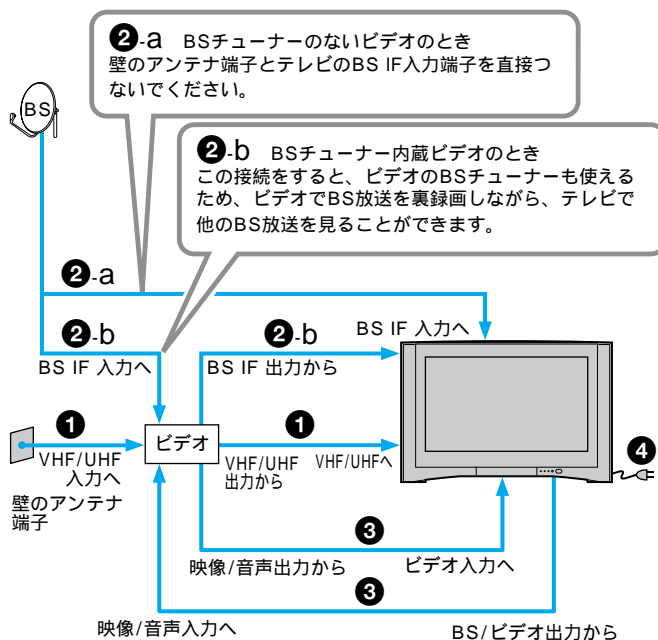
リモコンに電池を入れるには

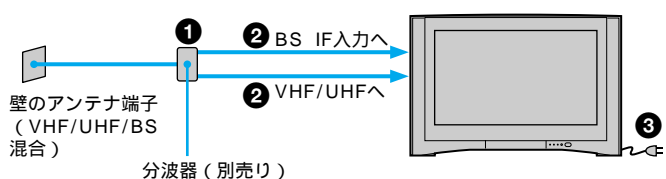
必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

テレビの接続と準備

接続と準備の早わかり

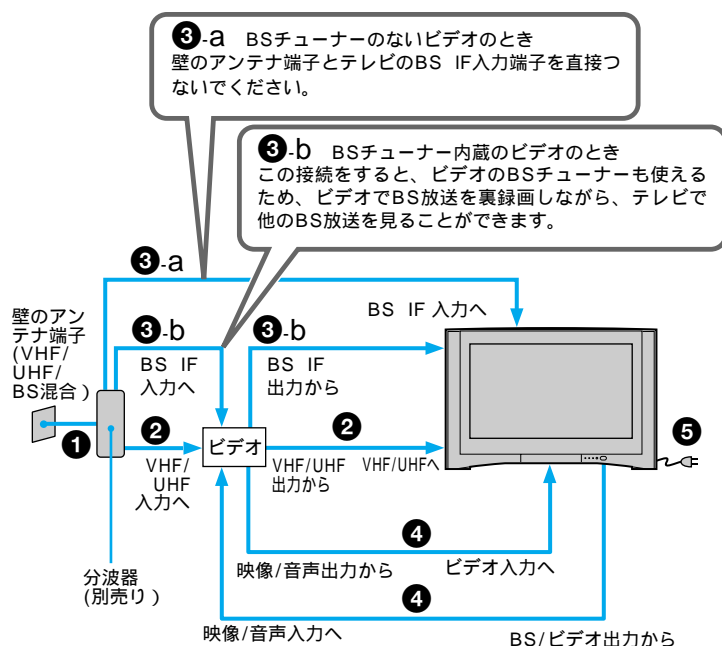
接続と準備のしかたは、放送の種類や接続する機器によって異なります。
ここでは代表的な組み合わせをあげていますので、参考にしてください。詳しくは（ ）内のページ、および接続するビデオなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。
BSアンテナの接続およびBSアンテナの設定は、BS放送を受信しないときは不要です。

テレビ

❶ テレビアンテナをつなぐ（☞40ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞42ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞45ページ）
❺ BSアンテナの設定をする（☞49ページ）

テレビ＋ビデオ

❶ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞60～63ページ、およびビデオの取扱説明書）
❷ BSアンテナをつなぐ
  ❷-a BSチューナーのないビデオのとき:
  BSアンテナをテレビにつなぐ（☞42ページ）
  ❷-b BSチューナー内蔵ビデオのとき:
  BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞42ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ ビデオをつなぐ（☞60～63ページ）
❹ 電源コードをつなぐ
❺ テレビチャンネルを設定する（☞45ページ）
❻ BSアンテナの設定をする（☞49ページ）

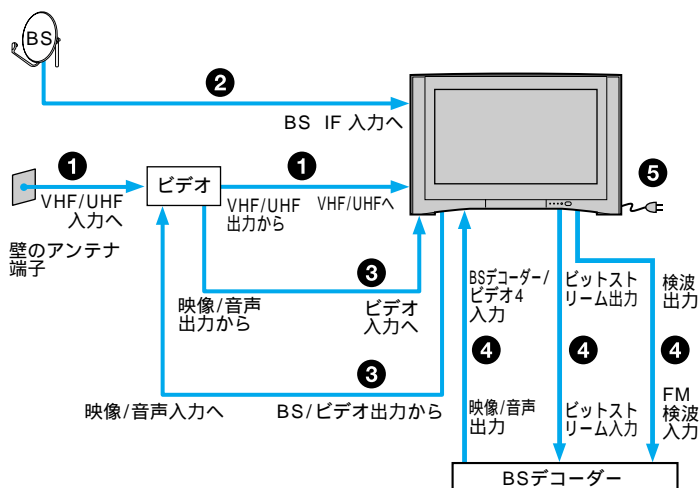
マンションなどの共同受信システム*1

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分波する（☞41ページ）
❷ 分波したVHF/UHFとBSの信号をテレビにつなぐ（☞41ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞45ページ）
❺「BSアンテナ電源」の設定を「切」にする（☞49ページ）

マンションなどの共同受信システム*1＋ビデオ

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分波する（☞41ページ）
❷ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞60～63ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ BSアンテナをつなぐ
  ❸-a BSチューナーのないビデオのとき: BSアンテナをテレビにつなぐ（☞42ページ）
  ❸-b BSチューナー内蔵ビデオのとき: BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞42ページ、およびビデオの取扱説明書）
❹ ビデオをつなぐ（☞60～63ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞45ページ）
❼「BSアンテナ電源」の設定を「切」にする（☞49ページ）

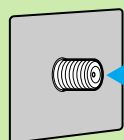
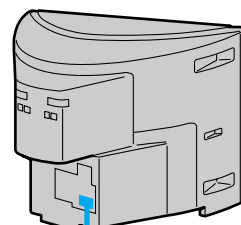
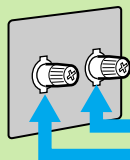
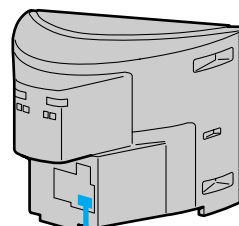
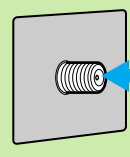
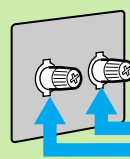
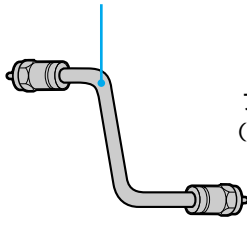
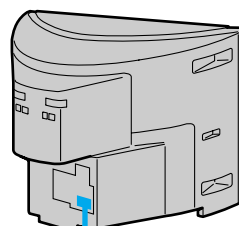
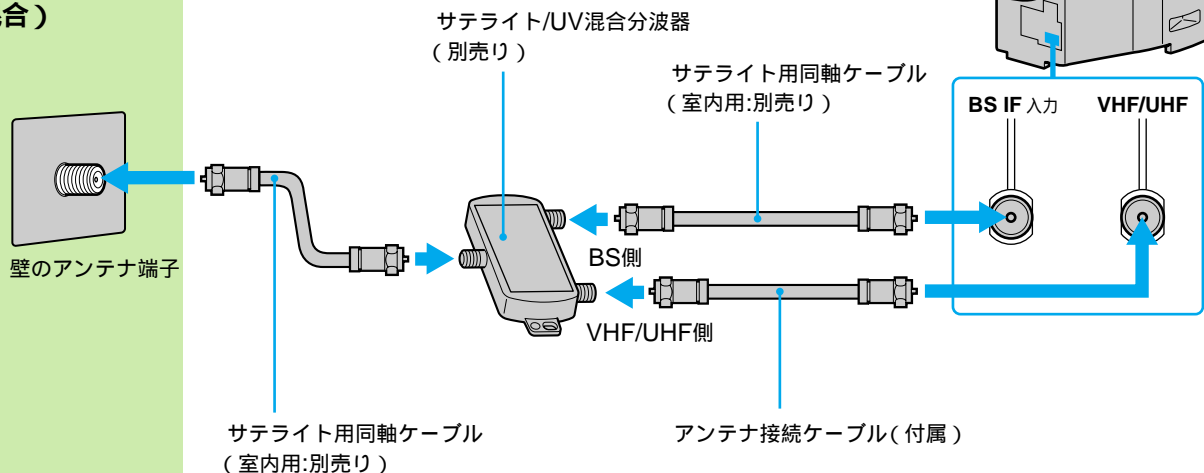
テレビ＋WOWOW＋ビデオ*2

❶ テレビアンテナをビデオを経由してからテレビにつなぐ（☞60～63ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞42ページ）
❸ ビデオをつなぐ（☞60～63ページ）
❹ BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（☞70～72ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞45ページ）
❼ BSアンテナの設定をする（☞49ページ）

*2BSチューナー内蔵ビデオのときの接続は、上の図とは異なります。「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ:BSチューナー内蔵ビデオのとき」（☞71ページ）の接続を行ってください。

ケーブルテレビ

ケーブルシステムによって接続や準備のしかたが異なります。ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

手順1:テレビアンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

このテレビには、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- テレビ後面のVHF/UHF端子への接続は、アンテナ線がフィーダー線または同軸ケーブルのどちらであっても、**必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

CSデジタル放送を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞68ページ）を行ってください。

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用:別売り）をつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2*またはEAC-BC4*など）を必ずお使いください。特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

ちょっと一言

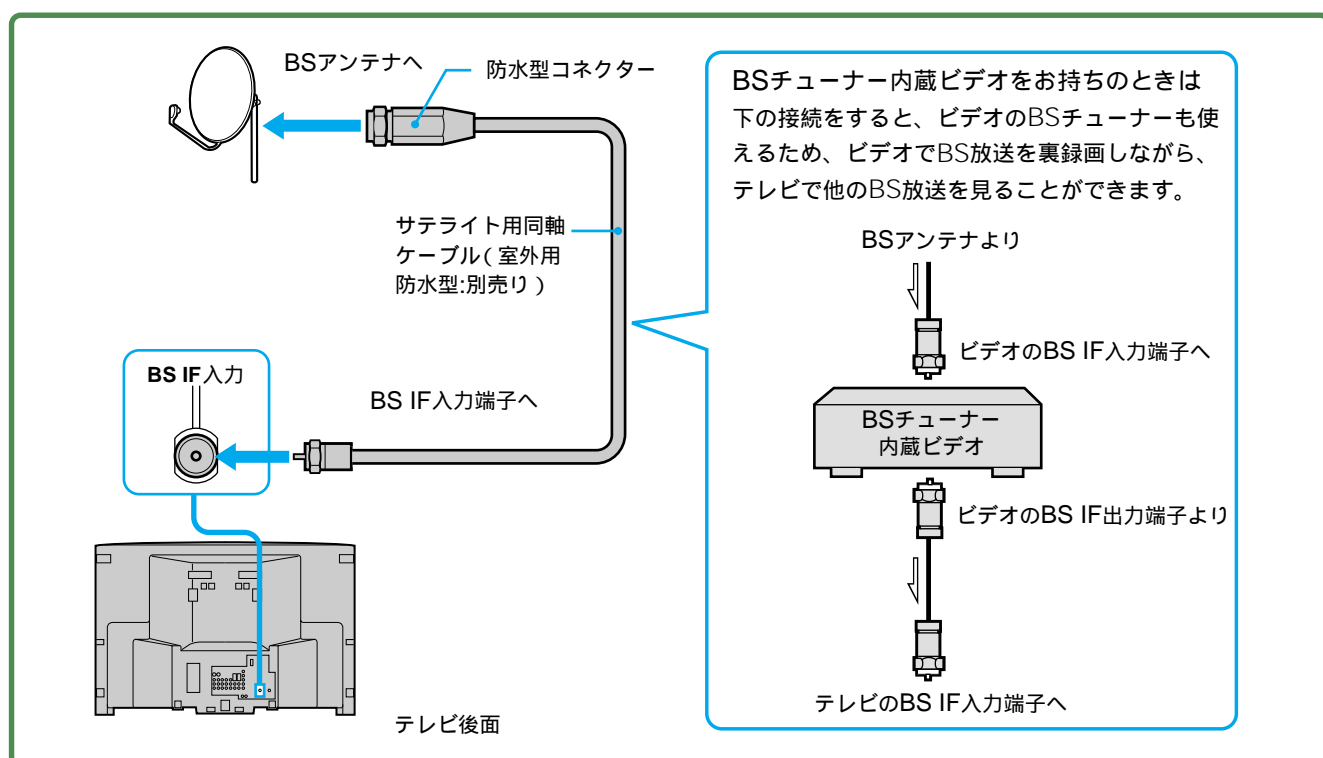
マンションなどの共同受信システムで、BS放送のアンテナレベルが低いときは、サテライトブースターをつなぐなど、信号の流れを見直す必要があります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に確認してください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

手順2: BSアンテナをつなぐ

BSアンテナをテレビに直接つなぎます。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS混合のときは、☞41ページをご覧ください。

テレビの電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

WOWOWをご利用になるときは、「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ」（☞70ページ）もあわせてご覧ください。

BS放送が正しく受信できないときや、「BSアンテナ電源を確認してください」という表示が出たら

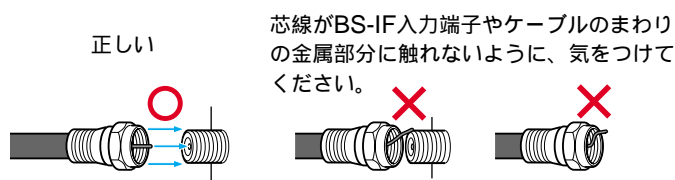
「(設定)」メニューで「BS設定」を選び、「BSアンテナ電源」を「切」にします。

1 いったんテレビの電源を切る。

2 以下のことを確認する。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS IF端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。

正しい

芯線がBS-IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れないように、気をつけてください。

- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS IF端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
  それでも表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

3 再び電源を入れた後「(設定)」メニューで「BS設定」を選び、「BSアンテナ電源」を設定する（☞49ページ）。

- BSアンテナをテレビにつないでいるときは、「オート」または「連動」にする。
- マンションなどの共同受信システムのときは、「切」にする。

ご注意

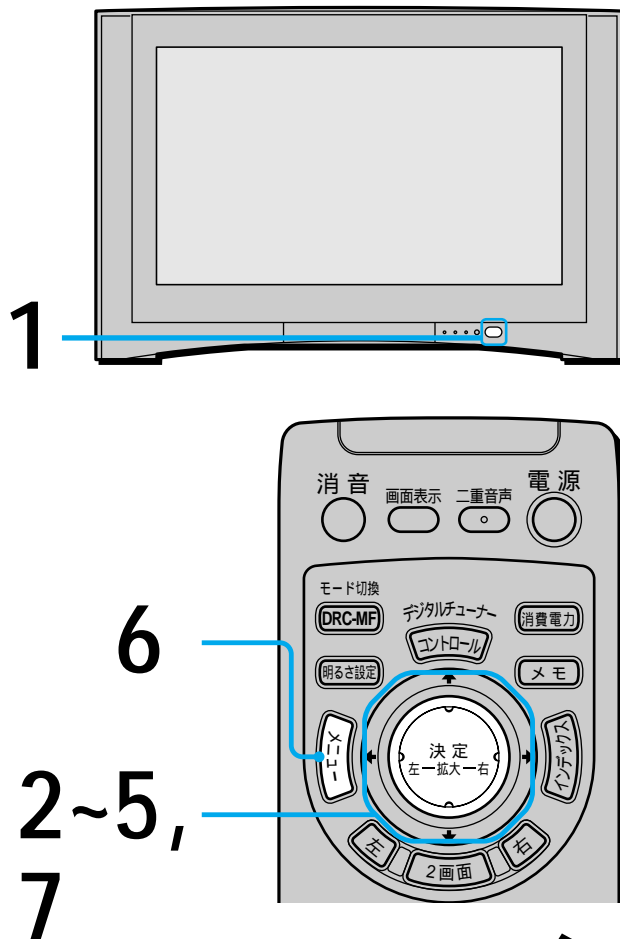
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。**BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型:SAK-C10/C20/C30*など
- 次のようなときはBSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – お住まいの地域またはBSを送信する放送衛星会社の地域が雷雨、強風などの悪天候のとき
  – BSアンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（BSアンテナの向きを調整してください。☞50ページ）
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2*またはEAC-BC4*など）を必ずお使いください。
  特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。
- BSアンテナをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。工具を使うと、端子を傷めることがあります。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

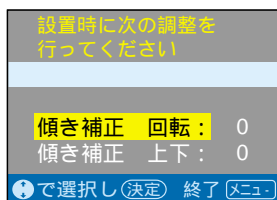
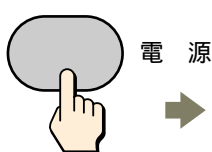
手順3:
地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する

初めてテレビの電源を入れると、「傾き補正」のメニューが表示され、地磁気など磁界によって発生する画像の傾きや画面上下位置のずれを補正できます。これらの症状は、テレビの故障ではありません。
お買い上げ時は、テレビアンテナやBSアンテナをつないでから、必ず画像の傾きや上下位置を補正してください。
お引っ越し後や、テレビの設置場所を変えたときも、必ずメニュー画面で補正し直してください。

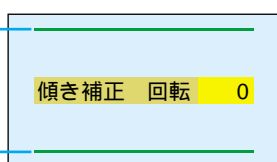
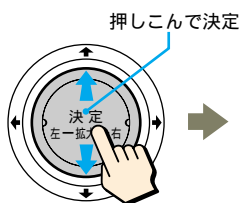
補正される前に確認してください。

- 外部のスピーカー（防磁型も含む）は、テレビから30cm以上離して置いてください。スピーカーの磁気により、うまく補正されなかったり、スピーカーから雑音が出たりするためです。
- 強い磁界（高圧電線や電車、鉄筋コンクリート、鉄製機材の近辺など）では、うまく補正されないことがあります。このときは、磁界の影響を受けない場所に設置されるか、ソニーサービス窓口やお買い上げ店などにご相談ください。

次のページにつづく

手順3: 地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する（つづき）

1 テレビ本体の電源スイッチを押す。

画面が正常に映っているときは

補正する必要はありません。手順6以降を行ってください。

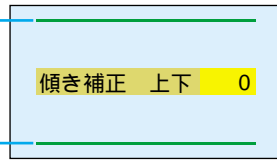
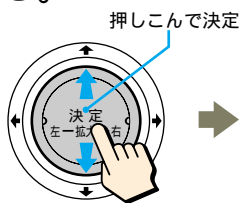
2 ↑/↓で「傾き補正　回転」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

画面上下のバーができる限り水平になるようにします。数値は−7～+7の範囲で変わります。

補正中の画面モードは、補正に適した「フル」になります。

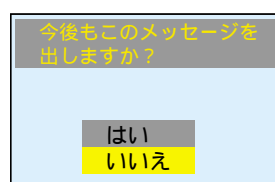
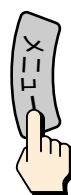
ご注意

調整をするときは、一度に大きく回転させないで、1段階ずつ数値を変えてください。

4 ↑/↓で「傾き補正　上下」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

画面の上下のバーが、画面の上下の端からできるだけ均等になるように、位置を補正します。数値は−5～+5の範囲で変わります。

6 メニューボタンを押す。

電源コードを今後抜き差しするたびに、「傾き補正」画面を表示させるかどうかを確認するメッセージが出ます。

7 「いいえ」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

テレビの設置場所を変えたときは

画像の傾きや画面上下位置のずれを補正してください。

1. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **「画像傾き補正」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **↑/↓で「傾き補正　回転」または「傾き補正　上下」を選び、決定ボタンを押す。**
   画像が傾いているときは「傾き補正　回転」を、画面の上下位置がずれているときは「傾き補正　上下」を選びます。補正中の画面モードは、補正に適した「フル」になります。
5. **操作終了後、メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

うまく補正しきれないときは、いったんテレビの電源を切り、設置の場所を変えるか、テレビの向きを変えてから、もう1度、傾き補正の手順を行ってください。

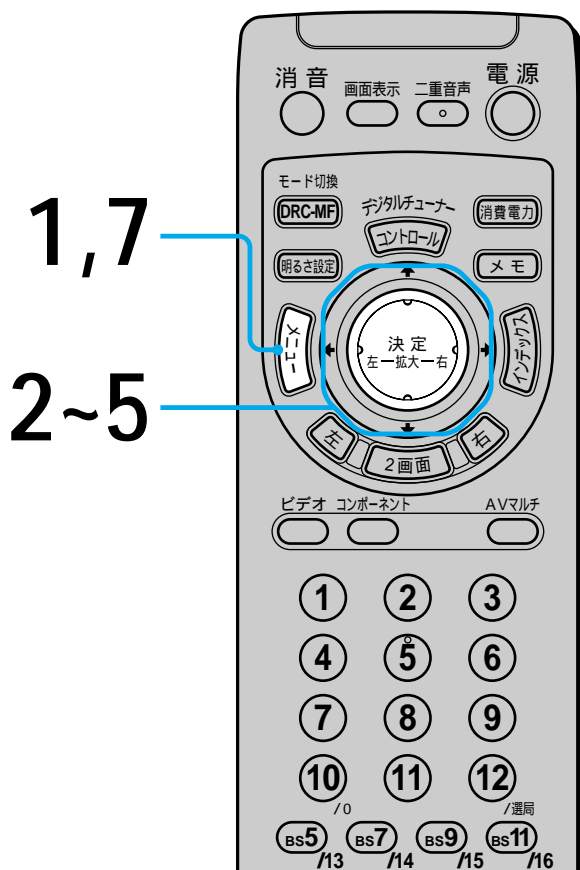
電源を切らずに移動したり、向きを変えたりすると、補正がうまくされなかったり、色むらを起こす原因になります。

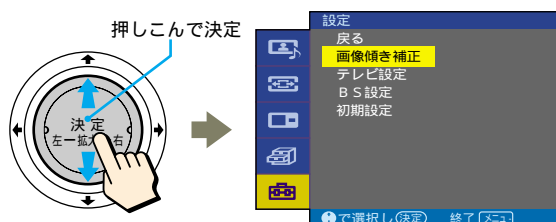
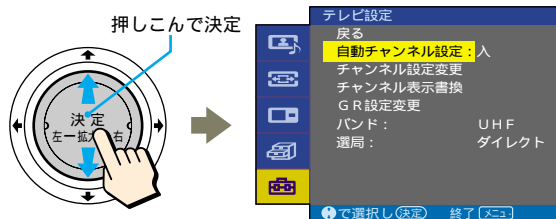
色むらが出たときは、移動したり、向きを変えたあとに、いったん電源を切って30分以上待ってから電源を入れてください。または、電源を入れたままで30分以上待ってから、いったん電源を切って、もう1度、電源を入れ直してください。

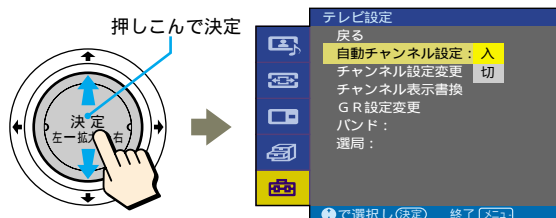
手順4:チャンネルを設定する

VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

自動設定する

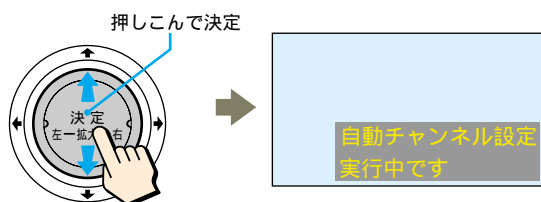
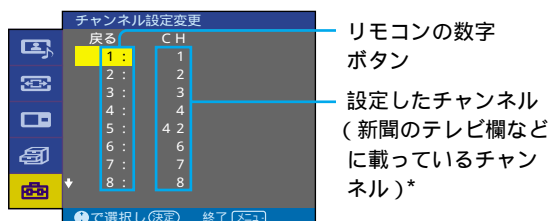
受信できるVHF/UHF放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。放送のある時間帯に行ってください。
BS放送はお買い上げ時にすでに設定されています。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞47～48ページをご覧ください。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **「自動チャンネル設定」が選ばれていていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。**

選ばれていないときは、↑/↓で選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

手順4:
チャンネルを設定する（つづき）

5 「自動チャンネル設定」が「入」になっていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

「切」になっているときは、↑/↓で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

* 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

6 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞47ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞54ページをご覧ください。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順5で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのメニューボタンを押す。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。このテレビでは、C13〜C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1 **ダイレクト選局になっていることを確認する（☞53ページ）。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **↑/↓で「バンド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **↑/↓で「CATV」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

8 **↑/↓でケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。**

9 **↑/↓で「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、真ん中を押しこんで決定する。**
ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例:C24

10 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意
- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞52ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
1〜12のチャンネル数字ボタンと、BS5、7、9、11のBSチャンネルボタンの合計16チャンネルのすべてを、手動で設定できます。

ご注意
BS5、7、9、11ボタンは、ボタン名と同じBSチャンネル用としてだけでなく、13、14、15、16チャンネルボタンとしても使えます。ただし、ボタン名と異なる他のチャンネルに設定し直すと、各ボタンを押しても、BS5、7、9、11チャンネルを直接選局できなくなります。

リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **↑/↓で変更したいリモコンの数字ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **↑/↓で設定したチャンネルを変更し、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、「(設定)」メニューで「テレビ設定」を選び、「バンド」を「CATV」にしてください。詳しくは、(☞46ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

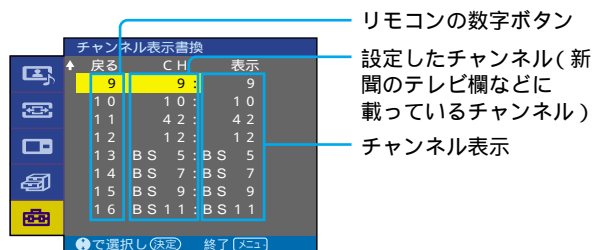
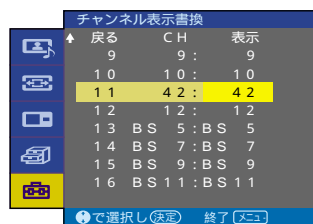
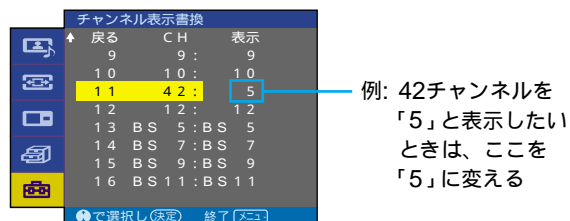
チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「チャンネル表示書換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で書き換えたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓でチャンネル表示を書き換え、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

- チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。
- BS放送のチャンネル表示は書き換えられません。

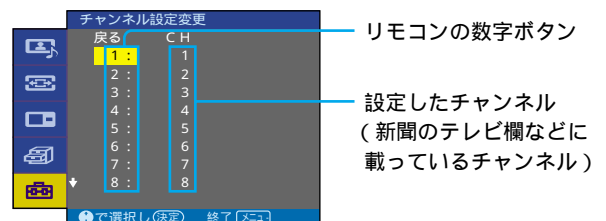
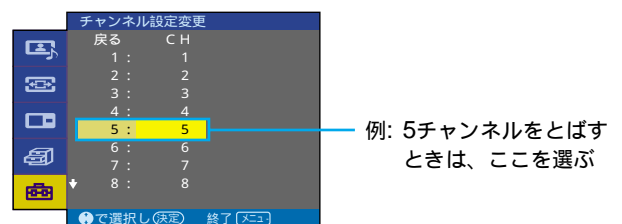
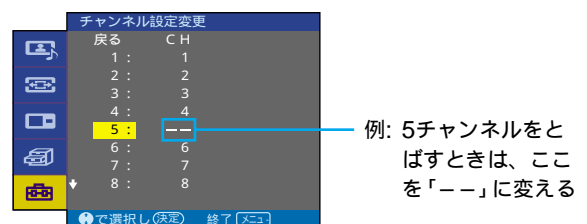
放送のないチャンネルをとばすには

チャンネル+/−ボタンでチャンネルを選ぶときや、チャンネルを一覧表示する（☞19ページ）ときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

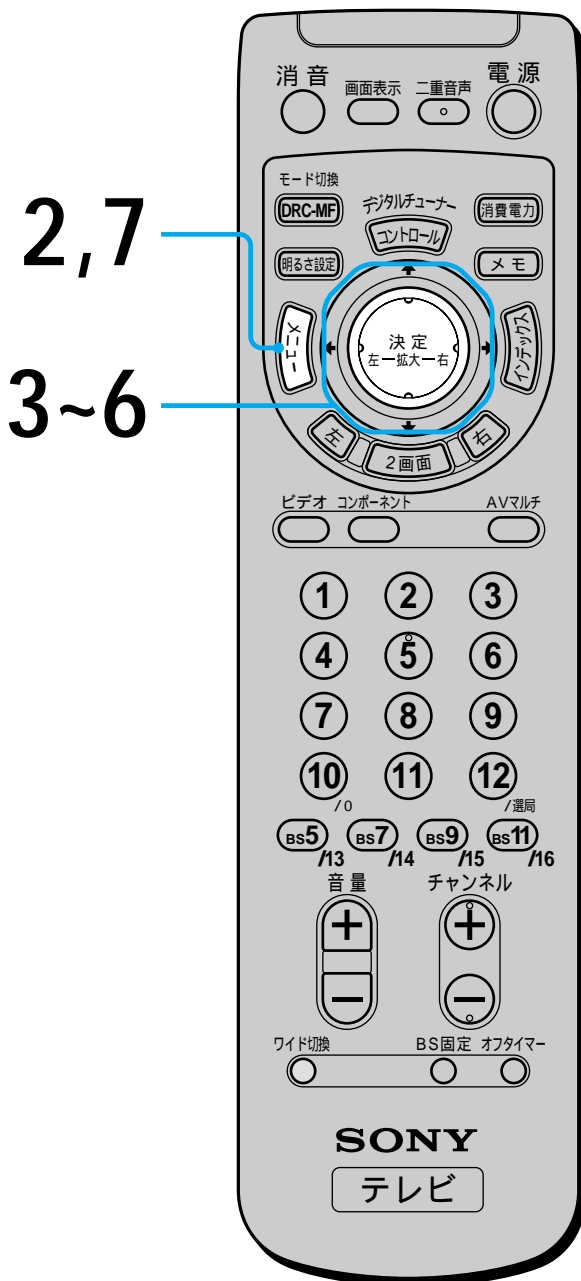
3 ↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓でとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓で「CH」を「– –」に変えて、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

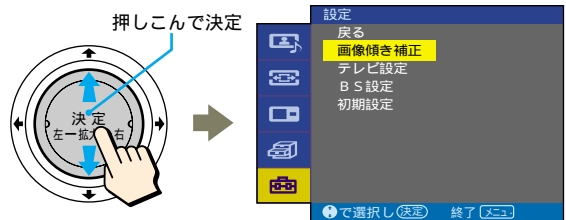
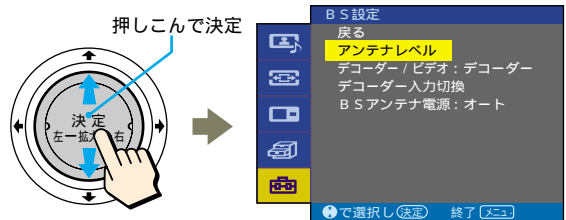
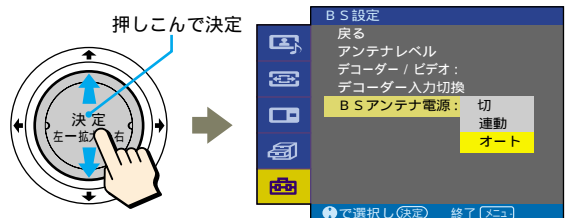
手順5: BSアンテナの設定をする

BS放送を見るときは、BSアンテナ電源の設定と、BSアンテナの向きを調整してください。

BSアンテナ電源を設定する

BSアンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、テレビなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、BSアンテナへの電源供給を設定します。

1 電源を入れ、BS放送を映す。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「BSアンテナ電源」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

テレビの接続と準備

次のページにつづく

手順5:
BSアンテナの設定をする（つづき）

6 マンションなどの共同受信システムのときは

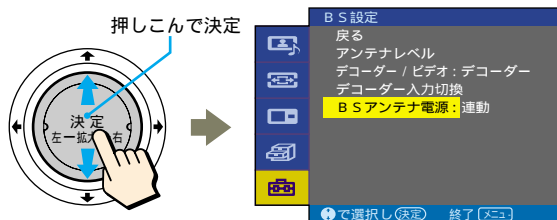
↑/↓で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

BSアンテナをつないでいるときは

↑/↓で「連動」または「オート」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

BSが映ったり消えたりするときは、「連動」を選んでください。

設定	BSアンテナへの電源供給のしかた
切	電源を供給しない。
連動	テレビの電源が入っているときはつねに電源を供給する。テレビの電源が切れているときは供給しない。
●オート	テレビの電源が入っているときに、テレビがBSアンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。テレビの電源が切れているときは供給しない。

●：お買い上げ時の設定

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

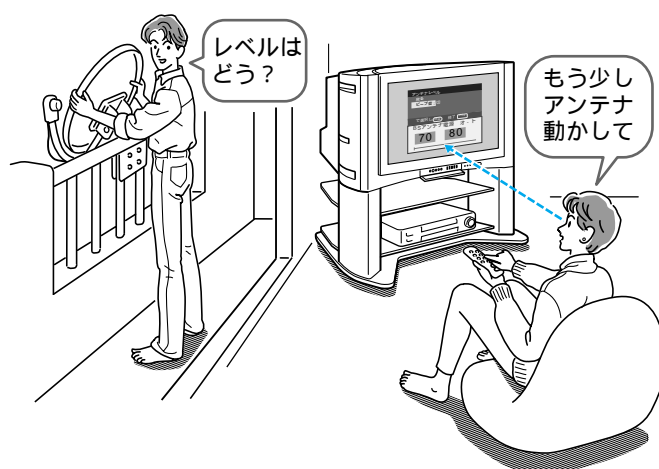
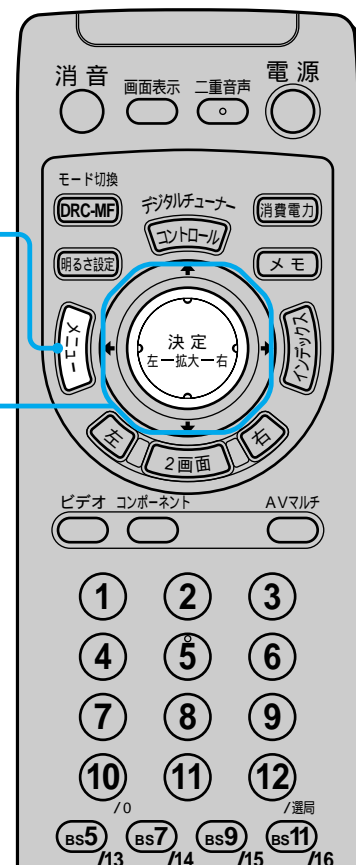
ご注意

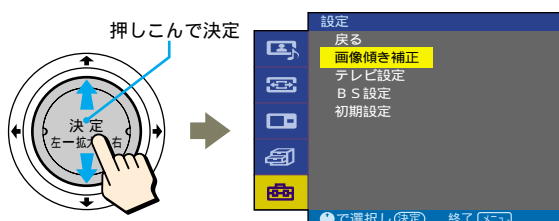
- 「オート」にしていても、BSアンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「連動」にしてください。
- 1本のBSアンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、このテレビと他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、このテレビを「オート」に、他の機器を「連動」にしてください。このようにしないと、テレビの電源を切ると他のテレビやビデオ機器からBSアンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

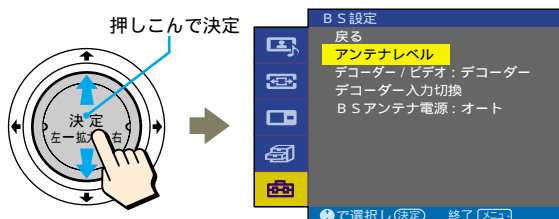
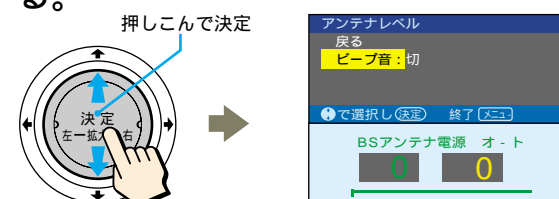
BSアンテナの向きを調整する

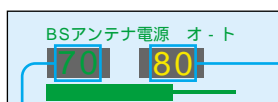
BSアンテナをテレビに直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面の画像とレベル表示を見て、もう1人がレベル表示が最大になるように、BSアンテナを動かしながら調整します。
向きや角度については、BSアンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

「BSアンテナ電源」が「切」になっているときは、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞49ページ）。

1 **電源を入れ、BS放送を映す。**

2 **メニューボタンを押す。**

3 **↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **↑/↓で「アンテナレベル」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **BSアンテナを動かして調整する。**

受信中のアンテナレベルが、できるかぎり最大の数値になるように、アンテナの向きを調整し固定します。

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1 **「BSアンテナの向きを調整する」の手順5のあと、↑/↓で「ビープ音」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

2 **↑/↓で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **手順6で連続した最も高い音階の音になるよう、BSアンテナを調整する。**

ちょっと一言

• 1つのBSチャンネルで調整すれば、他のBSチャンネルの調整は不要です。

次のページにつづく

手順5:
BSアンテナの設定をする（つづき）

デコーダー入力を設定する

お買い上げ時は、すべてのＢＳチャンネルが「オート」に設定され、BSデコーダー/ビデオ4入力端子につないだBSデコーダー（WOWOW）などのスクランブルを自動的に判別しているため、**設定しなおす必要はありません。**あえて、設定を変更する場合は下記の手順で操作してください。

ちょっと一言

MUSE-NTSCコンバーターをBSデコーダー/ビデオ4入力端子につなぐときは、☞77ページの設定をしてください。

1 テレビでBS放送を映す。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「デコーダー入力切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓でチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 ↑/↓で「テレビ」、「オート」または「デコーダー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

設定	内容
テレビ	受信した映像・音声をそのまま映す
オート	BSデコーダー（WOWOW）などのスクランブルを自動判別
デコーダー	BSデコーダー/ビデオ4入力端子からの映像・音声を映す

8 他のBSチャンネルを設定するときは、手順6と7をくり返す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

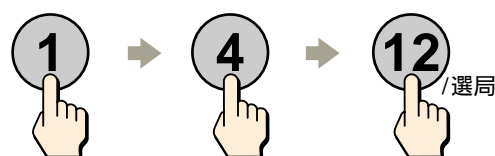
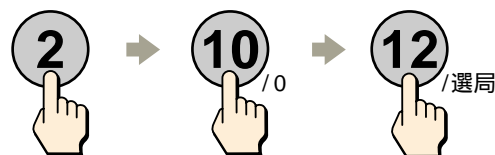
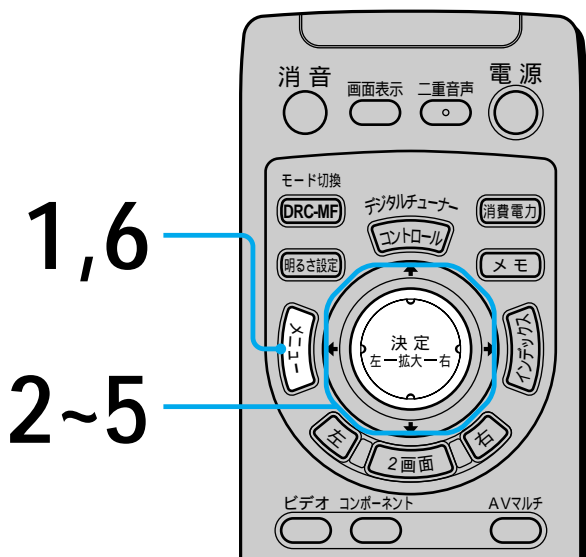
数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］

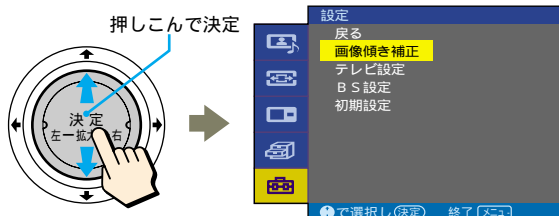
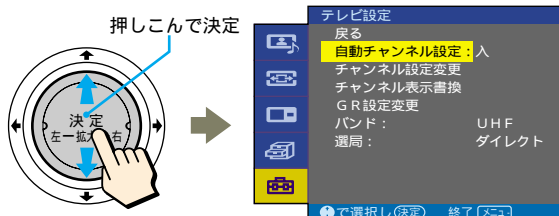
お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。
「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大16局です。

そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が16局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫/選局を押して、チャンネルを選びます。0は⑩/0を使います。

ちょっと一言

- BS放送は、「10キー選局」に変えても、リモコンのBS5〜11ボタンを押して、直接選べます。
- ⑫/選局を押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。

例）14チャンネル

20チャンネル

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「選局」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「10キー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すには

手順5で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞45ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順3の後に下記の操作をした後、手順4以降を行ってください。
  1 ↑/↓で「バンド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
  2 ↑/↓で「CATV」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
  3 手順4以降を行う。

テレビの接続と準備

次のページにつづく

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］（つづき）

チャンネル＋/−ボタンで選ぶ放送を設定するには

お買い上げ時は1〜12チャンネルとBS5、BS7、BS9、BS11が順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

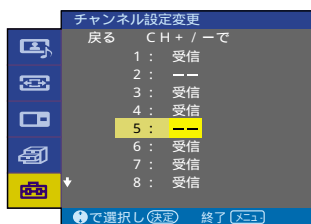
1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

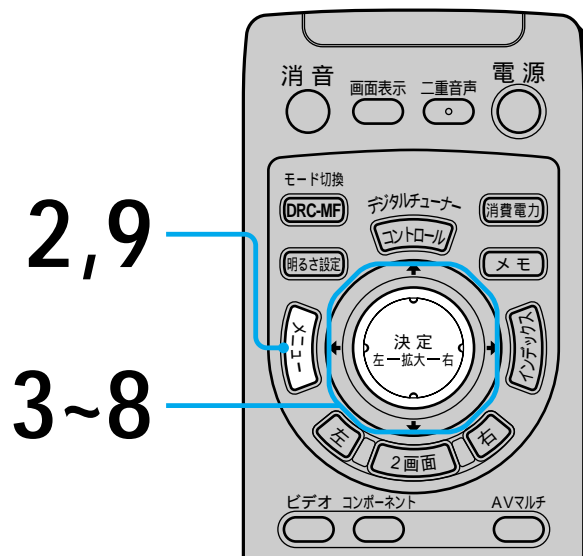
5 ↑/↓で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

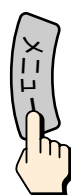
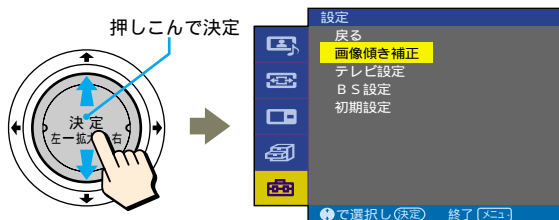
6 ↑/↓で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「− −」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ゴーストの少ない画像にする［ゴースト・リダクション］

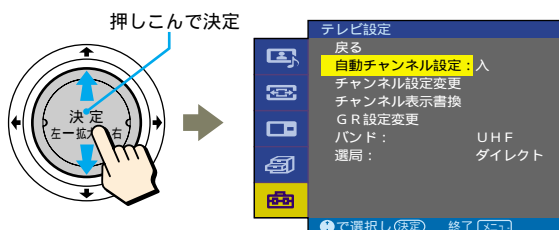
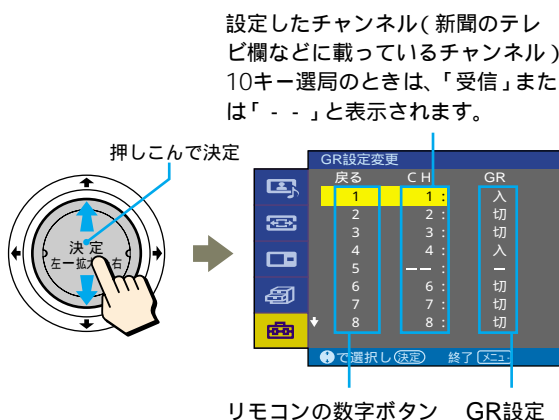
このテレビでは、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

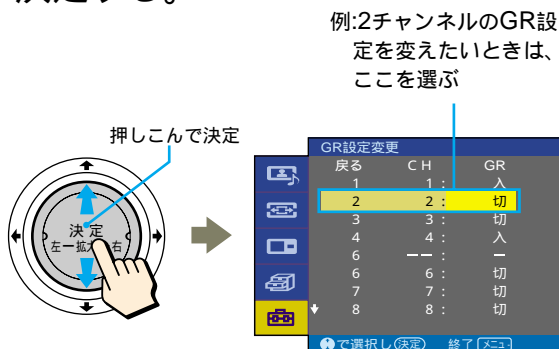
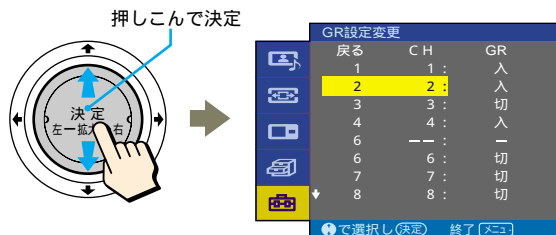
ご注意
- BS放送にはゴーストがないので、設定の必要はありません。
- ビデオ機器の再生画像などテレビにつないだ機器の映像に対しても設定できません。

1 通常のテレビ（VHF/UHF）放送を映す。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「テレビ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「GR設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）
10キー選局のときは、「受信」または「ーー」と表示されます。

リモコンの数字ボタン　GR設定

6 ↑/↓で設定を変えたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

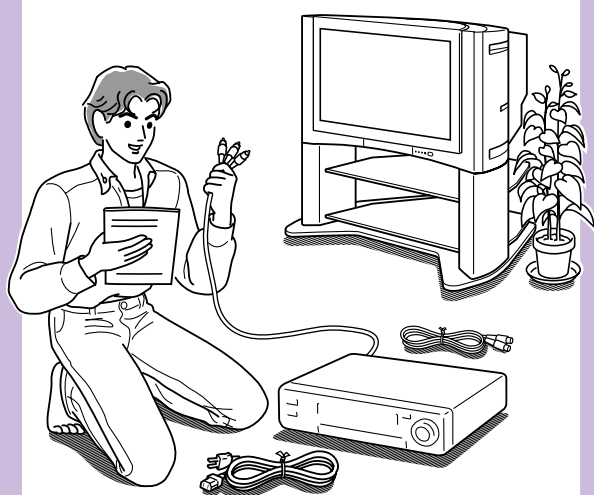
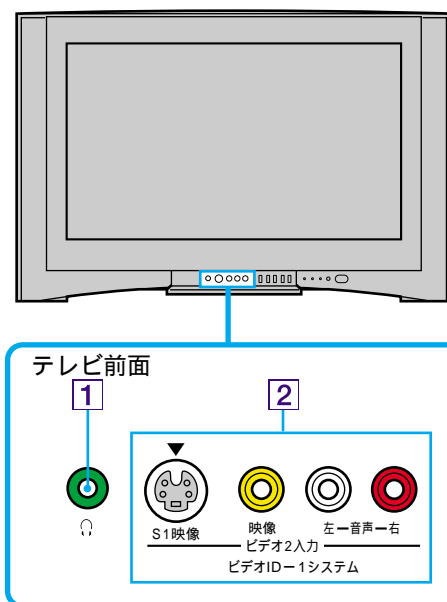
例:2チャンネルのGR設定を変えたいときは、ここを選ぶ

7 ↑/↓で「入」または「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 複数のチャンネルを設定するときは、手順6と7をくり返す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

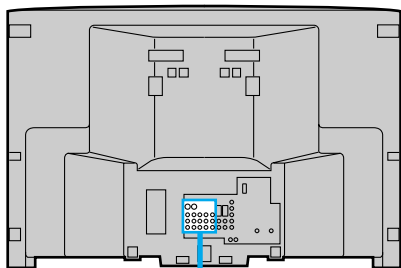
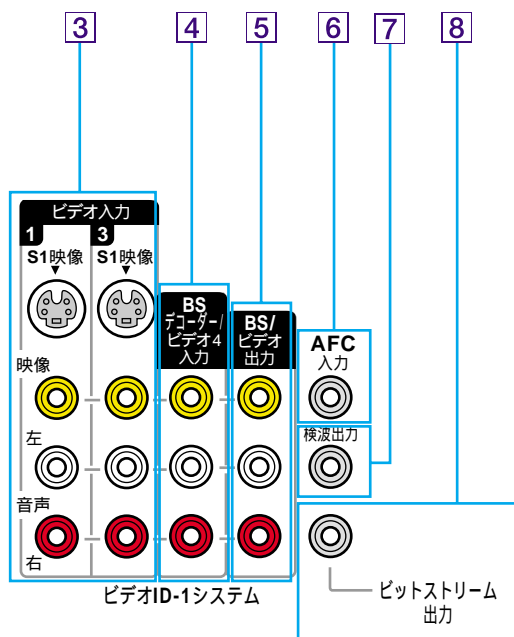
ご注意

- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が十分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ー ゴーストが大きすぎるとき
  - ー ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - ー 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - ー 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞15ページ）のときは左画面のみ、インデックス画面（☞19ページ）のときは親画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。

他機との接続

ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
テレビを見るための接続と準備については、「テレビの接続と準備」（☞37～55ページ）をご覧ください。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 ヘッドホン端子（☞18ページ）
ヘッドホンをつなぎます。

2 ビデオ2入力端子（S1映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞74ページ）
テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

☞のページに詳しい説明があります。

3 ビデオ1、3入力端子（S1映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞60～63、68、76ページ）

ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

4 BSデコーダー/ビデオ4入力端子（映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞70～72ページ）

以下の設定により、端子の働きが異なります。設定のしかたについては、☞61ページをご覧ください。

「デコーダー」に設定したとき（☞72ページ）

BSデコーダー入力端子として働きます。
BSデコーダー（WOWOW）やMUSE-NTSCコンバーターの映像/音声出力端子につなぎます。

「ビデオ4」に設定したとき（☞61ページ）

ビデオ4入力端子として働きます。
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

5 BS/ビデオ出力端子（映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞60～63ページ）

ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
VHF/UHF、BS、ビデオ1～4入力*、AVマルチ入力の信号を出力します。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、「（設定）」メニューで「初期設定」を選び、「ビデオ出力設定」で「ビデオ1あり」にする必要があります（☞61ページ）。
また、ビデオ4入力の信号のときは、BSデコーダー/ビデオ4入力端子をビデオ入力端子として働くように設定する必要があります（☞61ページ）。

ご注意

- BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときは、スクランブルを解除した信号を出力します。
- コンポーネント入力端子につないだ機器の映像信号は出力しません。

BS固定（☞34ページ）のときのご注意

以下の信号を出力します。

- **BS固定が「切」のとき**:
  テレビに映っている映像と音声を出力します。
- **BS固定が「入」のとき**:
  テレビに映っている映像と音声には関係なく、BS固定したBSチャンネルの映像と音声を出力します。
  BS固定したBSチャンネルが二か国語放送など二重音声番組のときは、二重音声ボタン（☞33ページ）で出力する音声を選べます。なお、テレビのスピーカーから聞こえる音声は、二重音声ボタンで音声を切り換えると一緒に切り換わります。

多画面のときのご注意

- 2画面（☞15ページ）のときは、左画面の信号を出力します。
- インデックス（☞19ページ）のときは、親画面の信号を出力します。

6 AFC入力端子（☞77～80ページ）

MUSE-NTSCコンバーターなどハイビジョン機器のAFC出力端子につなぎます。

7 検波出力端子（☞70～72、77～79ページ）

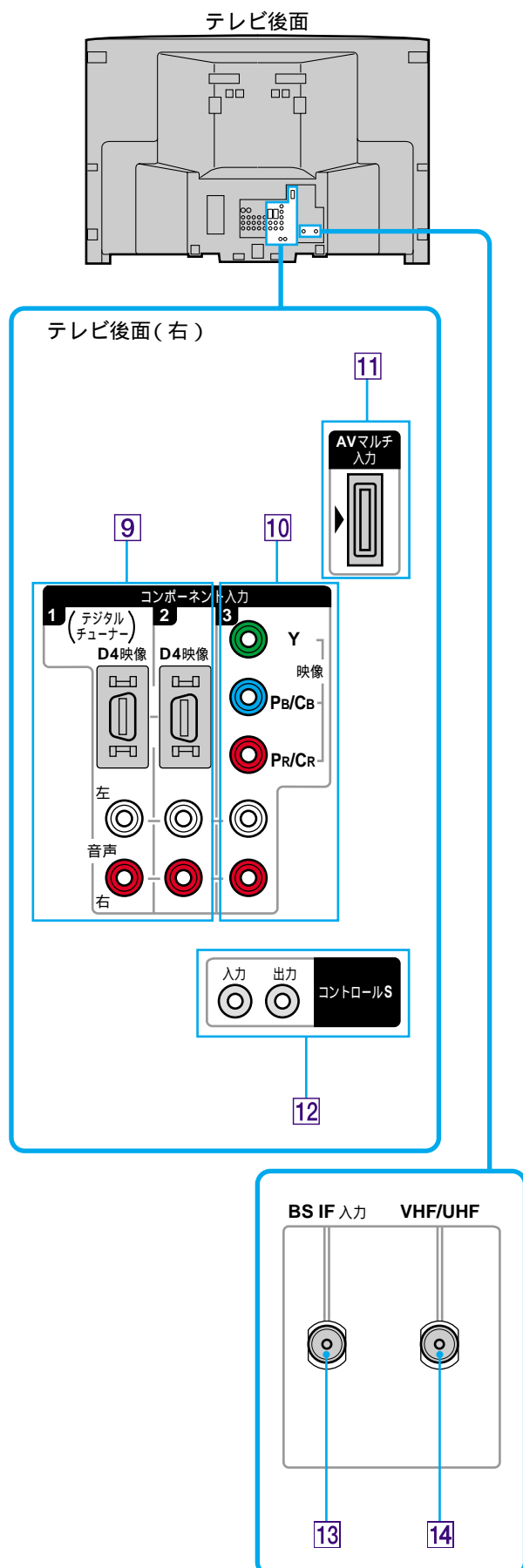
BSデコーダー（WOWOW）などのFM検波入力端子につなぎます。

8 ビットストリーム出力端子（☞70～71ページ）

BSデコーダー（WOWOW）などのビットストリーム入力端子につなぎます。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

9 コンポーネント1、2入力端子（D4映像/音声）（☞64、65、68、75、80ページ）

D4映像入力端子*

BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナー、ビデオ機器などのD映像出力端子につなぎます。

* D端子について詳しくは、「映像信号フォーマットについて」（☞91ページ）をご覧ください。

音声入力端子

BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナー、ビデオ機器の音声出力端子につなぎます。

D4映像入力端子での入力信号切換について（HDモード）

通常は、お買い上げ時の設定「HDモード：オート」のままでお使いください。

D4映像入力端子に入力される以下の2種類の信号を自動的に判別して、テレビ画面に映すためです。

- **デジタルハイビジョン放送**（有効走査線数1080本）：D4映像入力端子にBSデジタルチューナーなどのデジタルハイビジョン放送機器がつながっているとき。このテレビでは、750pの画像方式を1125iの画像方式に変換します。
- **従来のハイビジョン放送**（有効走査線数1035本）：D4映像入力端子に従来のハイビジョン（ベースバンド）機器がつながっているとき。デジタルハイビジョンの識別制御信号がない映像信号は、有効走査線数1035本の画像で表示します。

なお、「(各種切換)」メニューで「HDモード」を選び、「HDモード:1080」や「HDモード:1035」に設定できます。このときは、設定していない方の信号は正しく映りません。

10 コンポーネント3入力端子（Y PB/CB PR/CR 映像/音声）（☞75、79ページ）

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子
DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR）、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
DVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

コンポーネント3入力端子にハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐときは（☞79ページ）
「HDモード」を「HDモード:1035」に設定して、接続してください。「(各種切換)」メニューの「HDモード」を「1080」（お買い上げ時の設定）のままで接続すると、正しく映像が映りません。これは、デジタルハイビジョンの有効走査線数が1080本であるのに対し、従来のハイビジョン（ベースバンド）が1035本になっているためです。

11 AVマルチ入力端子（☞73ページ）

別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250*[1]）を使って、“プレイステーション 2”、“プレイステーション ”（PS one）または“プレイステーション ”のAVマルチ出力端子につなぎます。RGB、Y/CB/CR接続になり、高画質な映像でゲームを楽しめます。

*[1] 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

12 コントロールS端子（☞64〜67ページ）

入力端子
他機のコントロールS出力端子につないで、他機からテレビを操作できます。

出力端子
他機のコントロールS入力端子につないで、テレビにリモコンを向けて他機を操作できます*[2]。
または、ソニー製BSデジタルチューナーとの接続で、「ソニー・デジタルチューナーコントロール」の設定をすると、テレビのリモコンでBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。

*[2] テレビの電源が入っているとき、またはスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときに限ります。テレビの電源が入っていない（スタンバイ/オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

13 BS IF入力端子（☞41、42ページ）

BSアンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。BSアンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

14 VHF/UHFアンテナ端子（☞40、41ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

コンポーネント1、2、3入力端子につないだ機器の画像の色合いについて（カラーマトリクス）

コンポーネント1、2、3入力端子につないだBSデジタルチューナー、デジタルCSチューナーおよびDVDプレーヤーなどの出力が、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の各信号フォーマット*[3]のとき、映像が自然な色あいになるように設定できます。
通常はお買い上げ時の設定のままでお使いください。色あいが不自然になったときには、設定し直してください。
「(各種切換)」メニューで「カラーマトリクス」を選び、コンポーネント1、2、3の各入力ごとに、480p、1080i、720pの信号フォーマットを選んで、「Y/CB/CR」または「Y/PB/PR」で、自然な色あいになる方に設定してください。
お買い上げ時は、「480p」は「Y/CB/CR」、「720p」は「Y/PB/PR」、「1080i」では「Y/PB/PR」に設定されています。

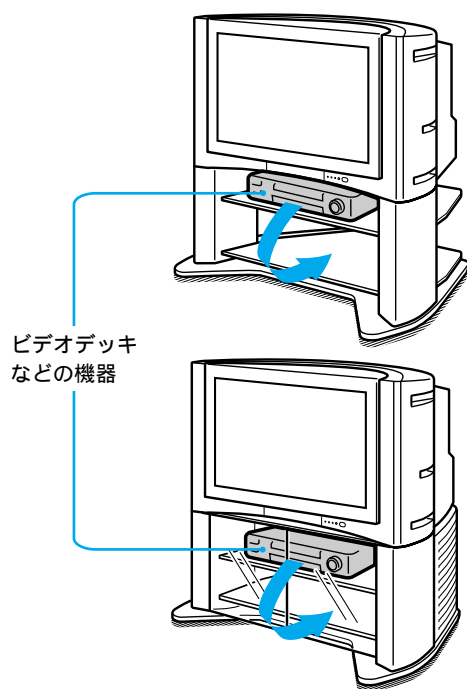
*[3] 詳しくは、「映像信号フォーマットについて」（☞91ページ）をご覧ください。

他機との接続

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

ビデオデッキなど一部の機器をテレビスタンドの上段などテレビに近い場所に設置すると、テレビがビデオデッキなどから干渉を受けやすくなるため、画像の乱れや画面上のノイズの原因になることがあります。このときは、ビデオデッキなどをスタンドの下段に設置してください。

画像の乱れやノイズが気になるときは、ビデオデッキなどの機器をスタンドの下段に設置してください。

S1映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、下の表の端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

つなぐ機器	つなぐ端子
レーザーディスクプレーヤー *1	映像
ビデオデッキ*2 ビデオカメラの再生	S1映像
BSデジタルチューナー*3	S1映像
デジタルCSチューナー*3	S1映像
DVDプレーヤー*4	S1映像
テレビゲーム	S1映像

*1 三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

*2 TBC（タイムベースコレクター）内蔵ビデオデッキでNTSC標準信号化できる場合も含みます。

*3 D映像出力端子付きのBSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナーのときは、テレビのコンポーネント1または2（D4映像）入力端子につないでください（☞64、65、68ページ）。
D4映像入力端子に入力される映像信号について詳しくは、「映像信号フォーマットについて」（☞91ページ）をご覧ください。

*4 コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは、テレビのコンポーネント入力端子につないでください（☞75ページ）。

テレビのビデオ1～3入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 **ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **↑/↓で「S映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **S1映像入力端子から入力された画像を見るときは**
↑/↓で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

映像入力端子から入力された画像を見るときは
↑/↓で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

テレビのBSデコーダー/ビデオ4入力端子にビデオ機器をつなぐときは

ビデオ4入力端子として働くように、以下の設定をしてください。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **↑/↓で「デコーダー/ビデオ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **↑/↓で「ビデオ4」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ビデオ1入力の信号をBS/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。
そのため、BS/ビデオ出力端子につないだビデオ機器などで、ビデオ1入力の映像や音声を楽しむときなど（☞81ページ）は、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS/ビデオ出力端子から出力されます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **↑/↓で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

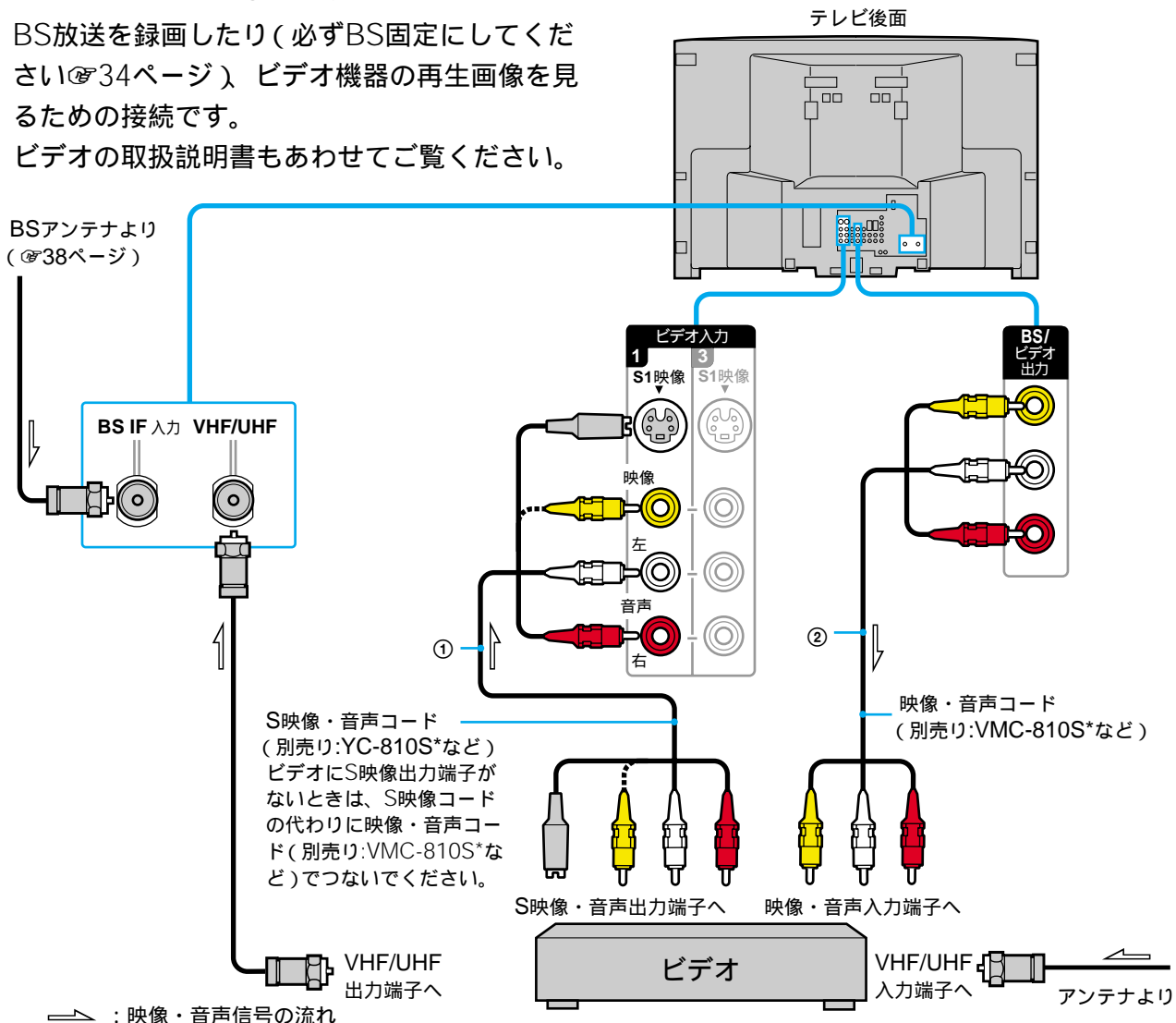
4 **↑/↓で「ビデオ出力設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **↑/↓で「ビデオ1あり」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

次のページにつづく

BSチューナーのないビデオのとき

BS放送を録画したり（必ずBS固定にしてください☞34ページ）、ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

①ビデオの再生画像を見るための接続です（☞22ページ）。

②BS放送をビデオに録画するための接続です（☞34ページ）。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

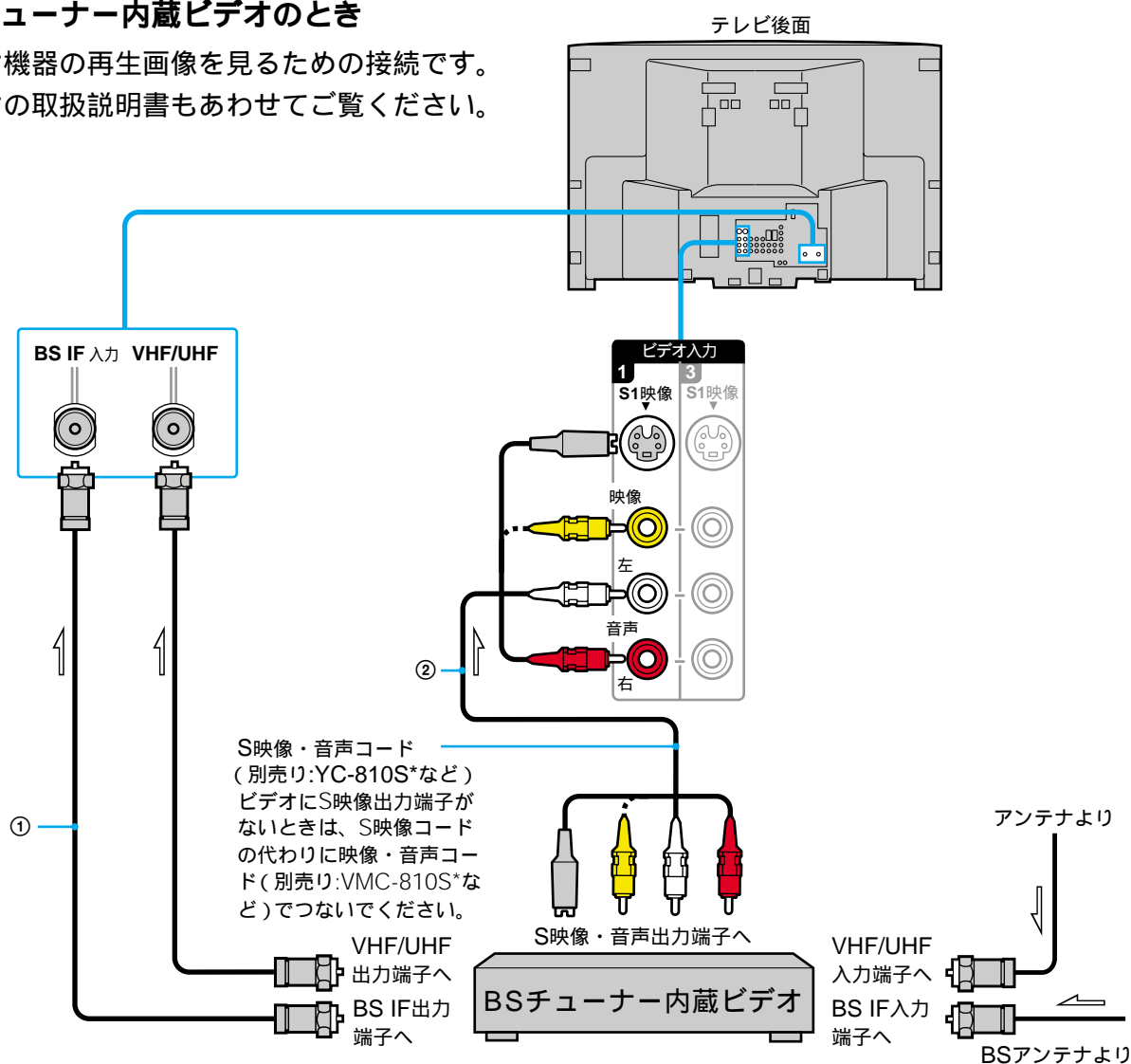
ビデオを見るには

ビデオボタンを押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

ご注意

- BS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞34ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、テレビで受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
BS固定をしないと、チャンネルを選んだり、インデックス画面を操作したときなどに、画像が乱れることがあります。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞61ページ）。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

①テレビとビデオの両方のBSチューナーを使うときの接続です。ビデオ内蔵のBSチューナーでBS放送を裏録画しながら、テレビ内蔵のBSチューナーで他のBS放送を見ることができます。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞22ページ）。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ビデオを見るには

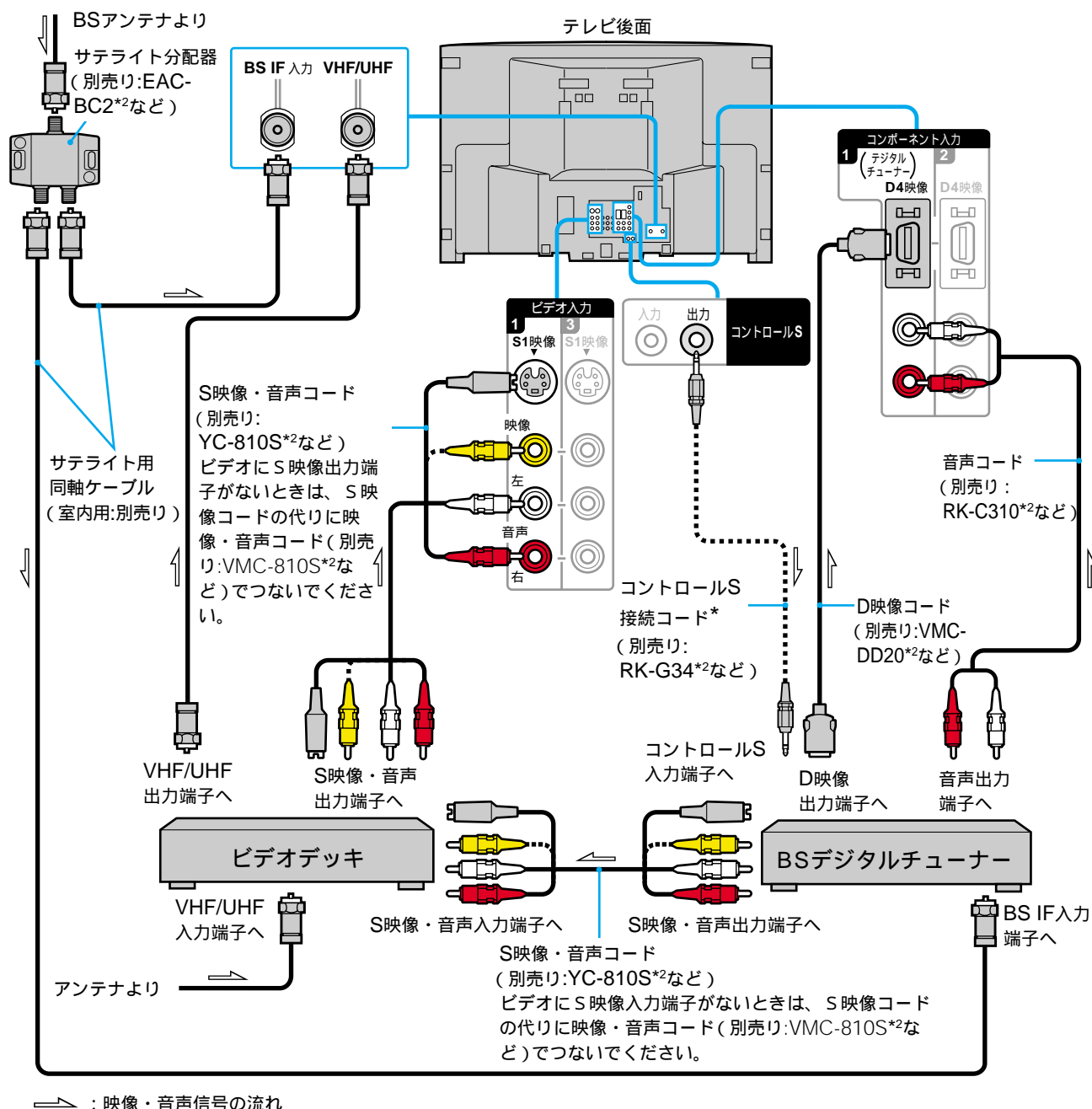
ビデオボタンをくり返し押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

ご注意

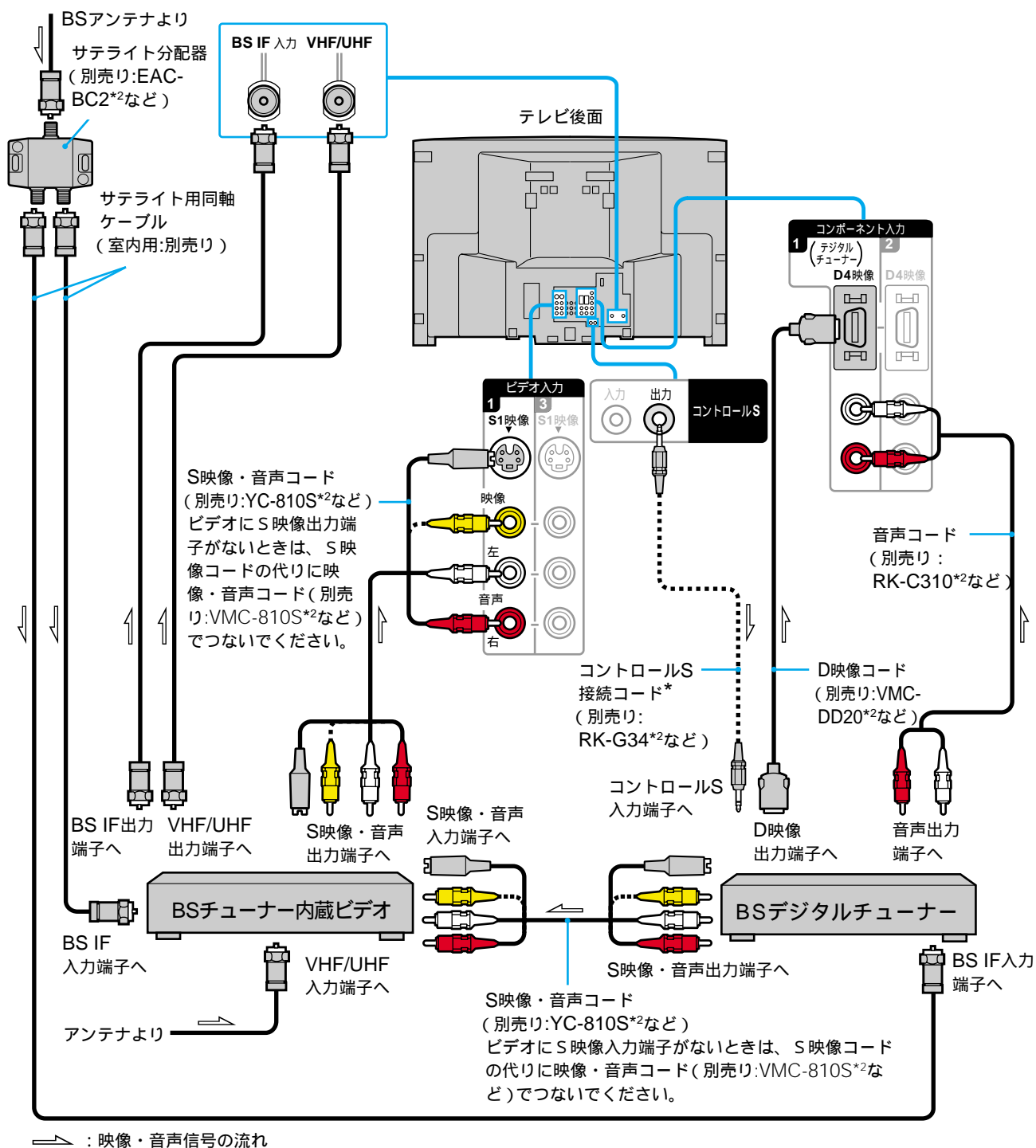
テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞61ページ）。

BSデジタルチューナーをつなぐ

2000年12月から放送が開始されたBSデジタル放送を見るには、BSデジタルチューナーが必要です。BSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき

* ソニー製コントロールS入力端子付きのBSデジタルチューナーをつなぐときの接続です。テレビのリモコンをテレビに向けてBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。(☞66ページ)。
また、テレビの電源が入っているときや、スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、BSデジタルチューナーのリモコンをテレビに向けてBSデジタルチューナーを操作することもできます。テレビ本体の電源が入っていない（スタンバイ/オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

*2 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

BSアンテナより
サテライト分配器（別売り:EAC-BC2*2など）
BS IF 入力　VHF/UHF
テレビ後面
サテライト用同軸ケーブル（室内用:別売り）
コンポーネント入力
1（デジタルチューナー）D4映像
2 D4映像
ビデオ入力
1 S1映像
3 S1映像
映像
左
音声
右
入力　出力　コントロールS
S映像・音声コード（別売り:YC-810S*2など）
ビデオにＳ映像出力端子がないときは、Ｓ映像コードの代わりに映像・音声コード（別売り:VMC-810S*2など）でつないでください。
音声コード（別売り：RK-C310*2など）
コントロールS接続コード*（別売り:RK-G34*2など）
D映像コード（別売り:VMC-DD20*2など）
BS IF出力端子へ
VHF/UHF出力端子へ
S映像・音声出力端子へ
S映像・音声入力端子へ
コントロールS入力端子へ
D映像出力端子へ
音声出力端子へ
BSチューナー内蔵ビデオ
BSデジタルチューナー
BS IF入力端子へ
VHF/UHF入力端子へ
S映像・音声出力端子へ
BS IF入力端子へ
アンテナより
S映像・音声コード（別売り:YC-810S*2など）
ビデオにＳ映像入力端子がないときは、Ｓ映像コードの代わりに映像・音声コード（別売り:VMC-810S*2など）でつないでください。

⟹：映像・音声信号の流れ

* ソニー製コントロールS入力端子付きのBSデジタルチューナーをつなぐときの接続です。テレビのリモコンをテレビに向けてBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。(☞66ページ)。
また、テレビの電源が入っているときや、スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、BSデジタルチューナーのリモコンをテレビに向けてBSデジタルチューナーを操作することもできます。テレビ本体の電源が入っていない（スタンバイ/オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

*2 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

他機との接続

BSデジタルチューナーをつなぐ（つづき）

BSデジタル放送を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、BSデジタルチューナーをつないだコンポーネント1入力（「コンポーネント1（D端子）」）を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

テレビのリモコンでデジタルチューナーの操作をするには

ソニー製コントロールS端子付きのBSデジタルチューナーをコンポーネント1入力につないだときは、テレビのリモコンをテレビに向けて、BSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。「ソニー・デジタルチューナーコントロール」の設定をしてください。

ご注意
テレビのリモコンではソニー製BSデジタルチューナーのチャンネルの選択、チューナー電源を切るなど以外はBSデジタルチューナーの操作はできません。基本的な操作以外は、BSデジタルチューナーのリモコンをテレビに向けてBSデジタルチューナーを操作してください。

1 コントロールS端子をつなぐ（☞64、65ページ）。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

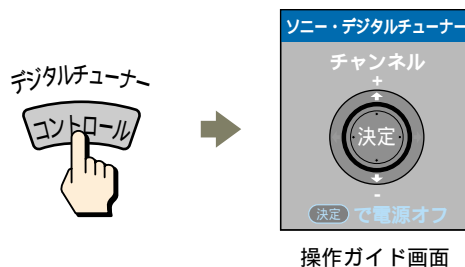
3 ↑/↓で「(設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

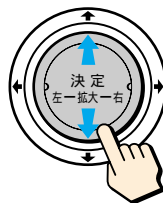
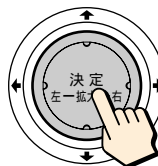
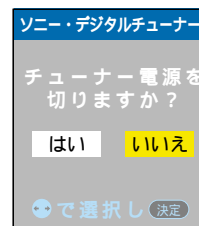
4 ↑/↓で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「ソニー・デジタルチューナーコントロール」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓で「あり」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

8 テレビのリモコンのデジタルチューナーコントロールボタンを押す。
BSデジタルチューナーの電源が入り、コンポーネント1入力に入力が切り換わって、「ソニー・デジタルチューナー」の操作ガイド画面が数秒間表示されます。

操作ガイド画面

“ソニー・デジタルチューナー”操作ガイド画面で、テレビのリモコンをテレビに向けて、以下の基本的な操作ができます。

リモコン操作をすると	以下のようになります。
↑/↓を押すと 	ソニー製BSデジタルチューナーのリモコンのチャンネル+/−ボタンと同じようにチューナーのチャンネルを選べます。 押すたびに、チャンネルが変わります。押したまま、連続でチャンネルを変えることはできません。
真ん中を押しこむと 	以下の表示が出ます。 ←/→で「はい」を選び、真ん中を押しこんで決定すると、コンポーネント1入力につないだソニー製BSデジタルチューナーの電源が切れます。

操作ガイド画面を消すときは

もう1度デジタルチューナーコントロールボタンを押す。

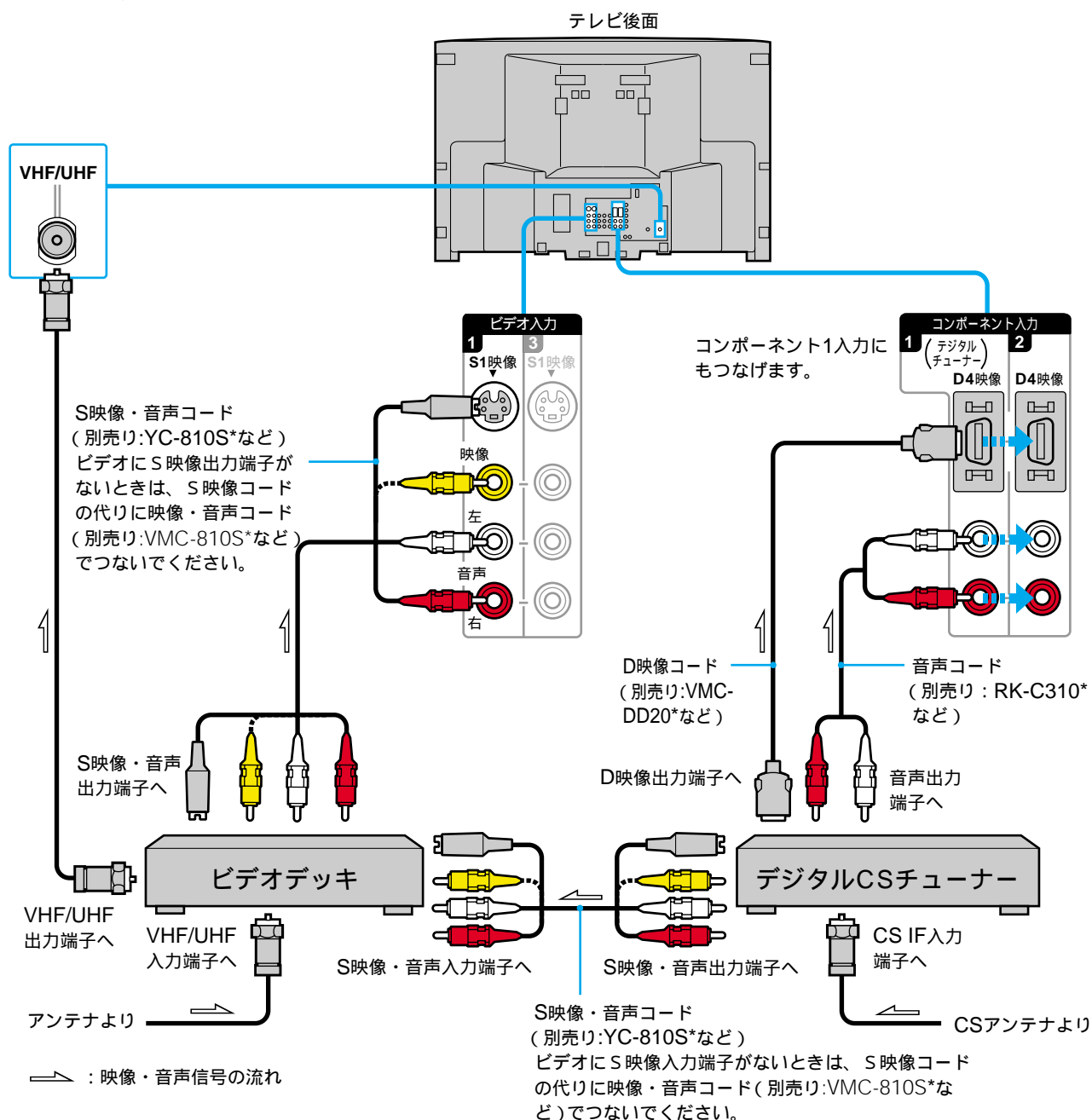
ご注意

- 「ソニー・デジタルチューナーコントロール:あり」の設定をすると、デジタルチューナーコントロールボタンを押したとき、操作ガイド画面が出ます。コントロールS端子の接続をしていないと、操作ガイド画面が出てもソニー製BSデジタルチューナーを操作できません。
- 1画面のときは、操作ガイド画面が消えても上記の操作ができます。2画面のときは、操作ガイド画面が表示されているときのみ、上記の操作ができます。

ちょっと一言

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、リモコンのデジタルチューナーコントロールボタンを押すと、自動的にテレビの電源が入ります。同時にソニー製BSデジタルチューナーの電源が入り、コンポーネント1入力に切り換わります。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

デジタルCS放送を見るには

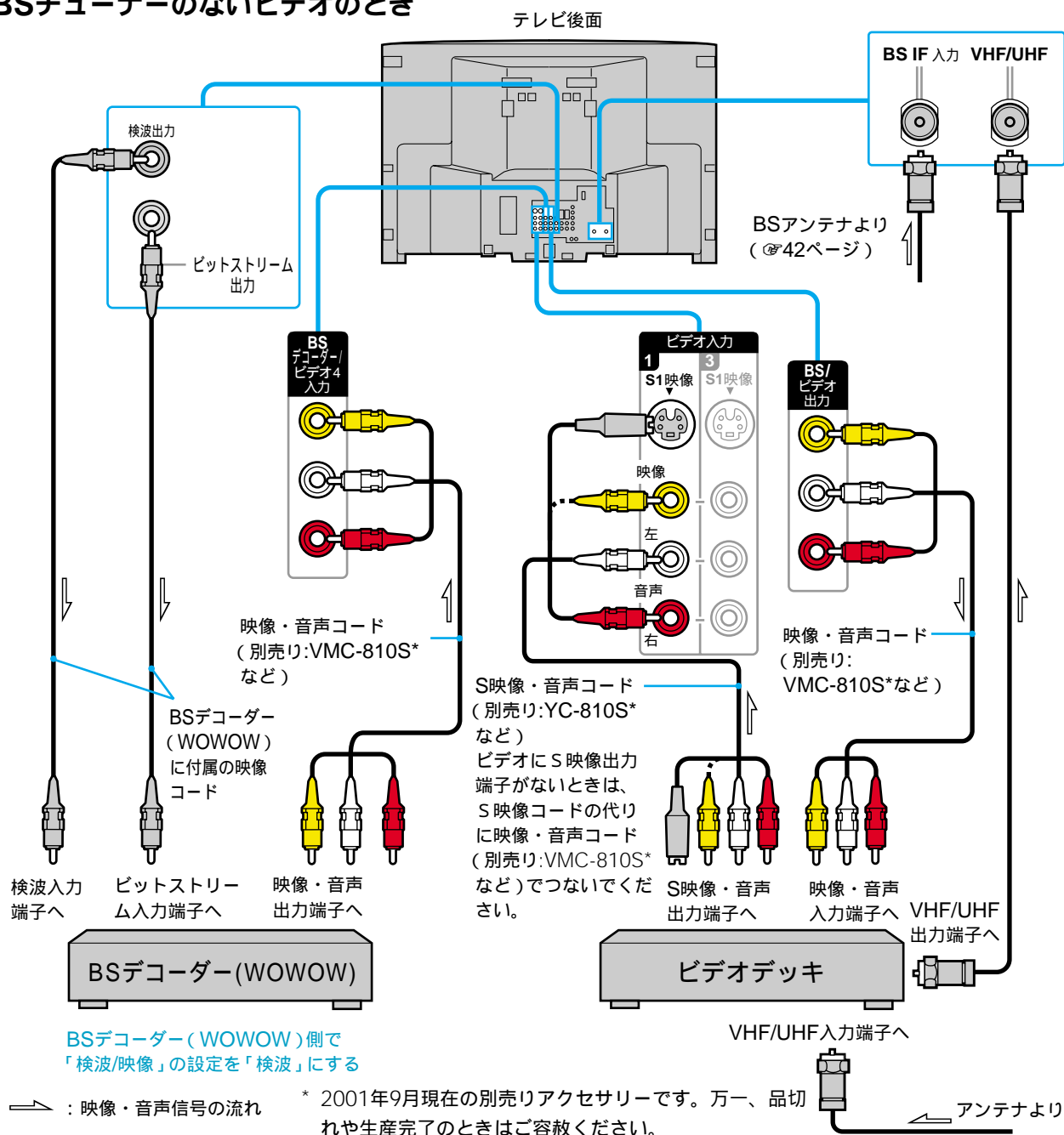
コンポーネントボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント1（D端子)」、「コンポーネント2（D端子)」のいずれか）を表示させる。

詳しくは、☞22ページをご覧ください。

デジタルCS放送を見るには

ビデオボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ

WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。WOWOWを見るには、☞72ページをご覧ください。
WOWOWと受信契約をすると送られてくるBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書もあわせてご覧ください。また、BSデコーダー（WOWOW）とMUSE-NTSCコンバーターの両方をつなぐときは、☞78ページもあわせてご覧ください。

ご注意

- WOWOWを録画するときは、テレビ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- WOWOWも含めたBS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞34ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、テレビで受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
BS固定をしないと、チャンネルを選んだり、インデックス画面を操作したときなどに、画像が乱れることがあります。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ずテレビのBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ4入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

テレビ後面

BS IF 入力　VHF/UHF

BS デコーダー/ビデオ4 入力

ビデオ入力
1 S1映像　3 S1映像
映像
左
音声
右

検波出力

ビットストリーム出力

映像・音声コード
（別売り:
VMC-810S*など）

S映像・音声コード
（別売り:YC-810S*など）
ビデオにＳ映像出力端子がないときは、Ｓ映像コードの代りに映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。

映像コード
（別売り:
VMC-10*など）

BS IF
出力
端子へ

BSデコーダー（WOWOW）側で「検波/映像」の設定を「検波」にする

映像・音声
出力端子へ

S映像・音声
出力端子へ

検波入力
端子へ

ビットスト
リーム入力
端子へ

VHF/UHF
出力端子へ

BSデコーダー(WOWOW)

BSチューナー内蔵ビデオ

ビットストリー
ム入力端子へ

検波入力
端子へ

映像・音声
出力端子へ

映像・音声
入力端子へ

検波出力
端子へ

ビットスト
リーム出力
端子へ

BS IF入力
端子へ

VHF/UHF
入力端子へ

映像・音声コード
（別売り:VMC-810S*など）

アンテナより

BSアンテナより

BSデコーダー（WOWOW）に付属の映像コード

：映像・音声信号の流れ

＊ 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ご注意

- WOWOWを録画するときは、ビデオ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- ソニー以外のBSチューナー内蔵ビデオデッキの中には、上記の接続でWOWOWを録画できないビデオがあります。そのときは、ビデオデッキのメーカーのお客様窓口へご相談ください。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ずテレビのBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ4入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（つづき）

BSデコーダー/ビデオ4入力端子にBSデコーダー（WOWOW）をつなぐときは

お買い上げ時は、デコーダー入力端子として働くように設定されているため、**設定し直す必要はありません。**
ビデオ4入力端子としてビデオデッキなどをつないでいた代りに、新たにBSデコーダー（WOWOW）をつなぎ直したときは、設定し直してください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「デコーダー/ビデオ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「デコーダー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

WOWOWを見るには

BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れて、テレビのリモコンのBS5ボタンを押す。

St.GIGAを聞くには

BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときにSt.GIGAを聞くときは、BSデコーダー（WOWOW）側で、音声を独立音声に切り換えてください（テレビで音声は切り換えられません）。ただし、St.GIGAを聞くには、WOWOWとは別に受信契約が必要です（ノンスクランブル放送のときを除く）。
また、 BSデコーダー（WOWOW）をつながなくても、 St.GIGAがノンスクランブルで放送しているときは、下記の操作を行うとSt.GIGAを聞くことができます。

1 テレビのリモコンのBS5ボタンを押す。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「TV/独立音声」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「独立」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言
2001年9月現在、St.GIGAはBS5チャンネルでのみ放送されています。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション ”(PS one) および“プレイステーション ”をつなぐ

“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”（PS one）および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もあわせて、お読みください。

ご注意
“ プレイステーション 2 ”の一部の機種では、マルチAVケーブル（VMC-AVM250*）で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号（RGB）がコンポーネント映像信号（Y Cb/Pb Cr/Pr）に固定されるため、画面が乱れることがあります。このテレビのAVマルチ入力端子は、このコンポーネント映像信号に対応していますが、「AVマルチ入力」が「AVマルチRGB」に選択されているとDVDが正しく再生されません。AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチY/CB/CR」を表示させ、入力を切り換えてください。
詳しくは、“ プレイステーション 2 ”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

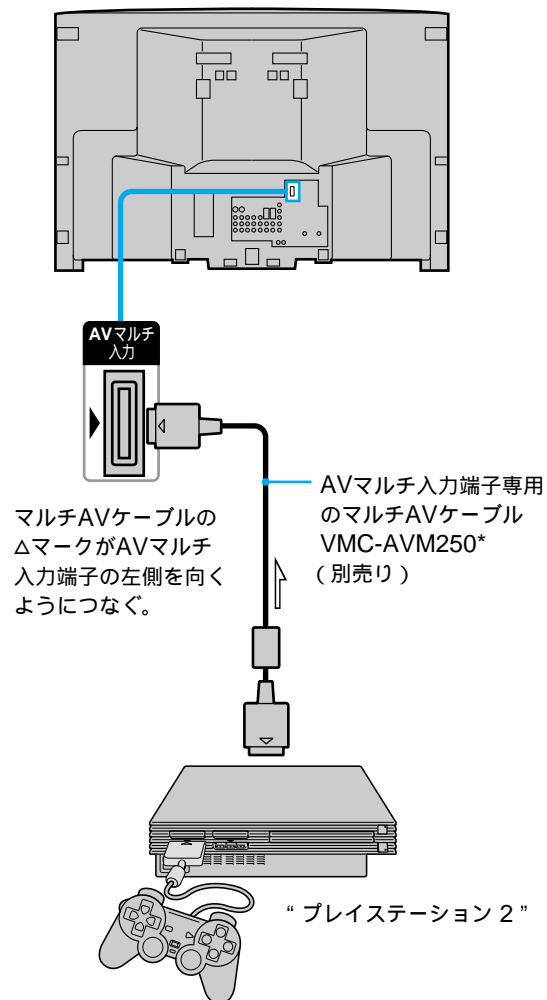
株式会社　ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-000-929
携帯電話・PHSでのご利用は 03-3475-7444
受付時間：10:00〜18:00（土日祝日を除く）

“ プレイステーション ”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
また、“ PS one ”は同社の商標です。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

別売りのマルチAVケーブルでつなぐときは

RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

ご注意
ソフトウェアによっては、AVマルチ入力端子のRGB接続またはY/CB/CR接続に適していないものもあります。

“ プレイステーション 2 ”を使うには

“ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面にある「コンポーネント映像出力」と同じ設定になるように合わせます。AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」または「AVマルチY/CB/CR」を表示させる。
詳しくは、☞23ページをご覧ください。

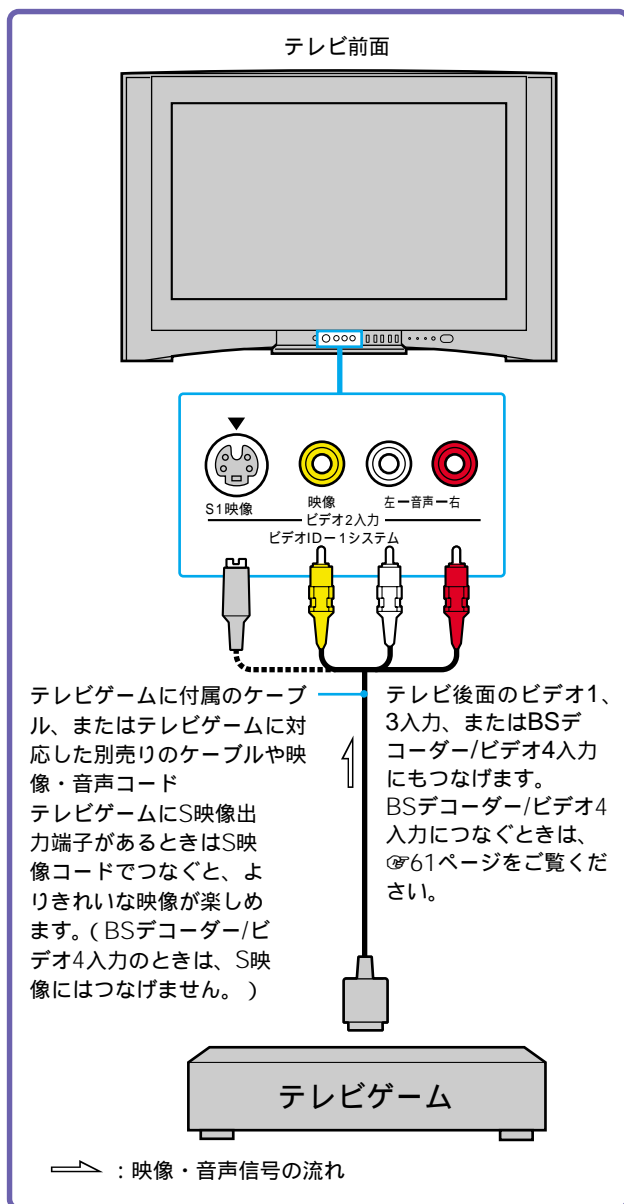
“ プレイステーション ”（PS one）および“ プレイステーション ”を使うには

AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」を表示させる。
詳しくは、☞23ページをご覧ください。

次のページにつづく

他機との接続

その他のテレビゲームなどをつなぐ

テレビ前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もあわせてお読みください。

テレビゲームをするには

ビデオボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力 (「ビデオ1」〜「ビデオ4」のいずれか) を表示させる。
詳しくは、☞23ページをご覧ください。

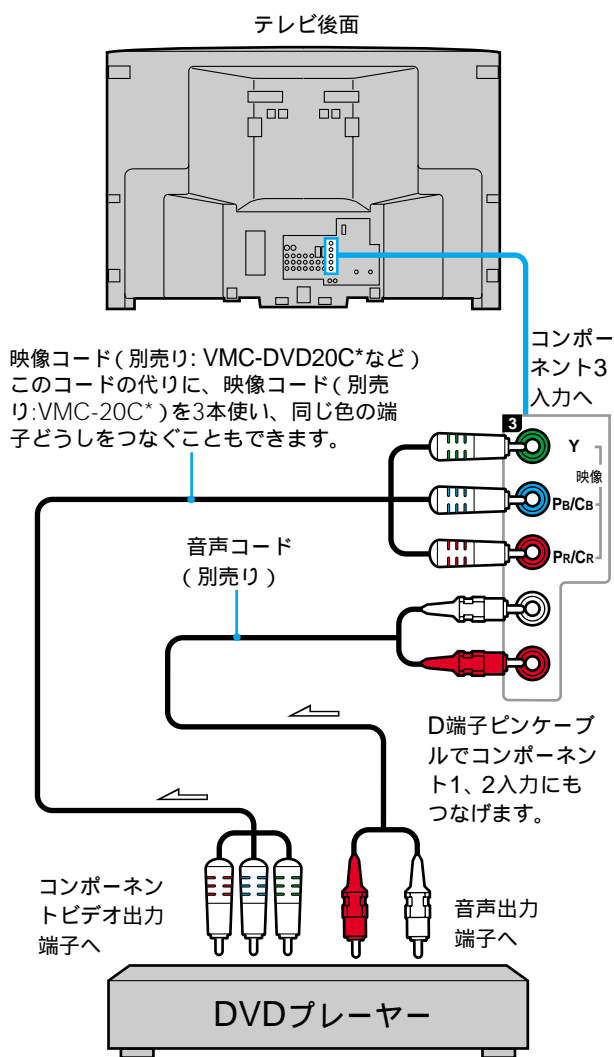
ご注意

電子的なライフルやガン (銃) などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、テレビの画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーはテレビのコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントビデオ出力端子にD端子のないDVDプレーヤーのときは

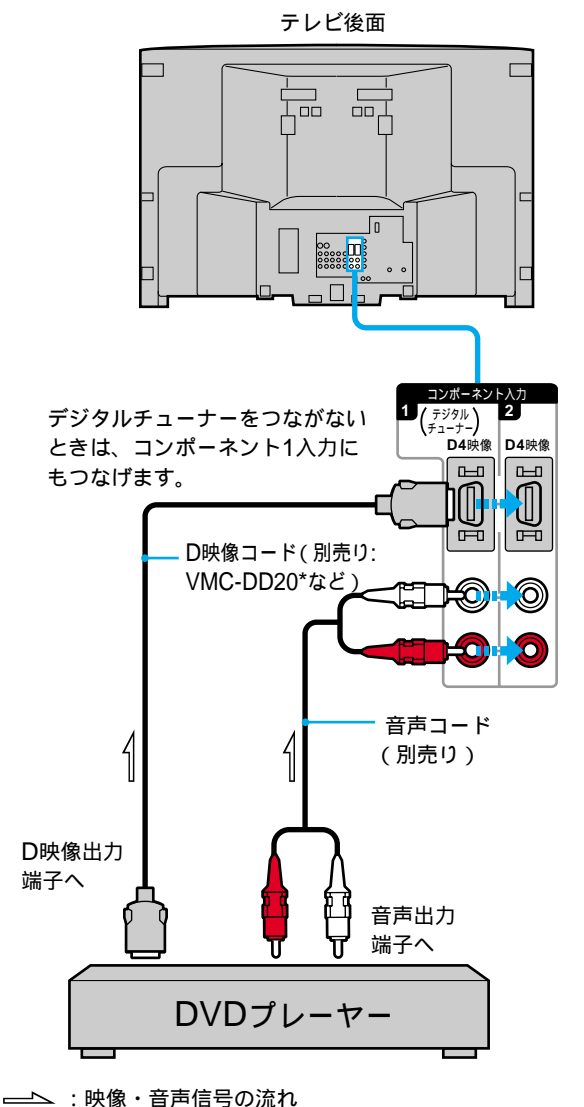
コンポーネントケーブルでつなぐとき

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ映像端子は、メーカーにより色や名前が異なります。右表のようにつないでください。

DVDプレーヤーの映像端子	テレビの映像端子
Y端子	Y端子
C_B、B-Y、P_B端子	P_B/C_B端子
C_R、R-Y、P_R端子	P_R/C_R端子

⟹：映像・音声信号の流れ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

D端子ケーブルでつなぐとき

⟹：映像・音声信号の流れ

D映像コードの代わりに、映像コード（別売り: VMC-DP20*など）を使ってY端子、C_B端子、C_R端子とD端子をつなぐこともできます。

DVDを見るには

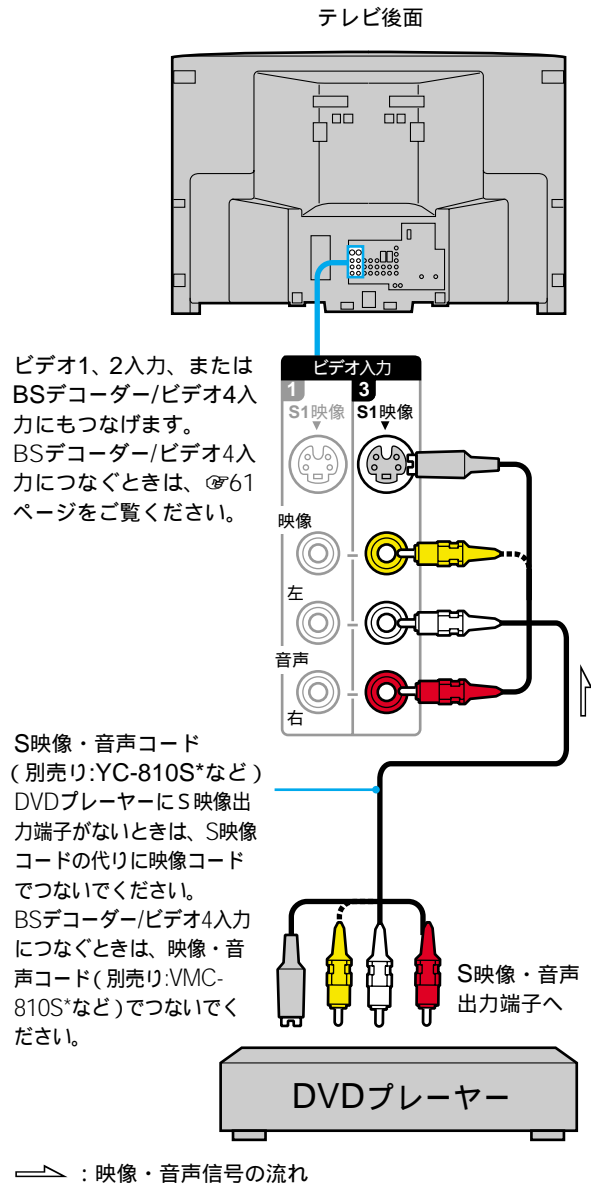
コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント1（D端子）」、「コンポーネント2（D端子）」、「コンポーネント3」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

次のページにつづく

DVDプレーヤーをつなぐ（つづき）

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

ビデオボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。

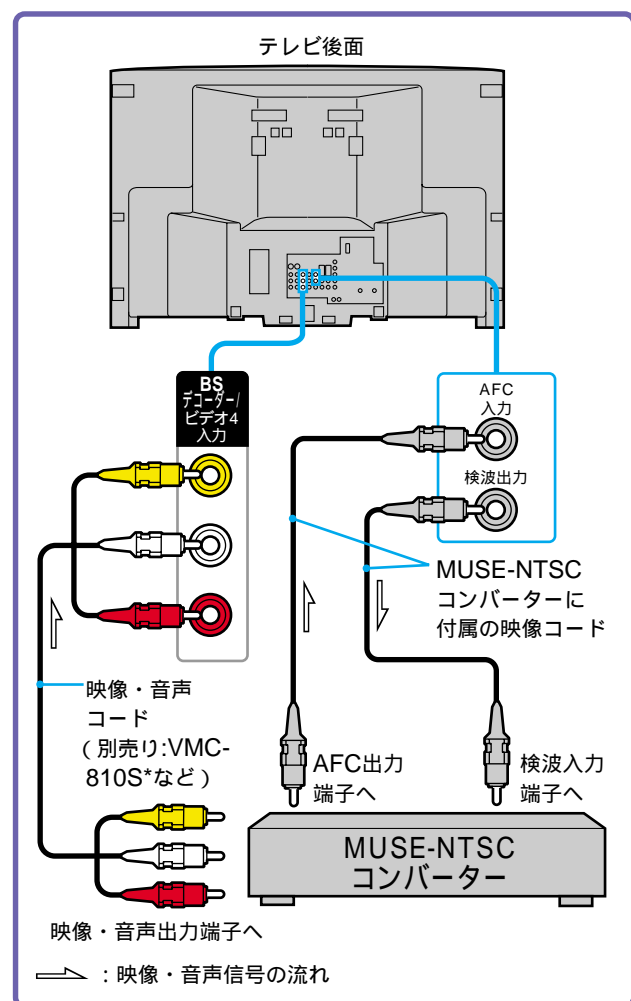
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

MUSE-NTSCコンバーターをつなぐ

通常のテレビ放送と同等の画質（NTSC）で、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見られます。
MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書も必ずご覧ください。

本機リモコンのBS9ボタンでハイビジョン放送を見るには

BSデコーダー（WOWOW）をつながないときは、以下の接続と設定をしてください。テレビのリモコンのBS9ボタンで、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見ることができます。
MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の両方をつなぐときは、☞78ページをご覧ください。

1 テレビでBS放送を映す。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「（設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「BS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で「デコーダー入力切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ↑/↓で「BS9」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 ↑/↓で「デコーダー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 ↑/↓で「BS5」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

9 ↑/↓で「テレビ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

10 メニューボタンを押して、メニューを消す。

11 MUSE-NTSCコンバーターで、画面モードを「フル」にする。
MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書もご覧ください。

12 テレビのリモコンのBS9ボタンを押す。
ハイビジョン放送が映ります。

ご注意
MUSE-NTSCコンバーターによっては、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見るときにオートワイドが正しく働かないことがあります。このときは、ワイド切換ボタンをくり返し押して、画面モードを選んでください。

ちょっと一言
お買い上げ時は、すべてのBSチャンネルの「デコーダー入力切換」が「オート」に設定されています。「オート」にすると、BSデコーダー/ビデオ4入力端子につないだ機器から入るWOWOWなどBS放送のスクランブルを、自動的に判別して映します。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

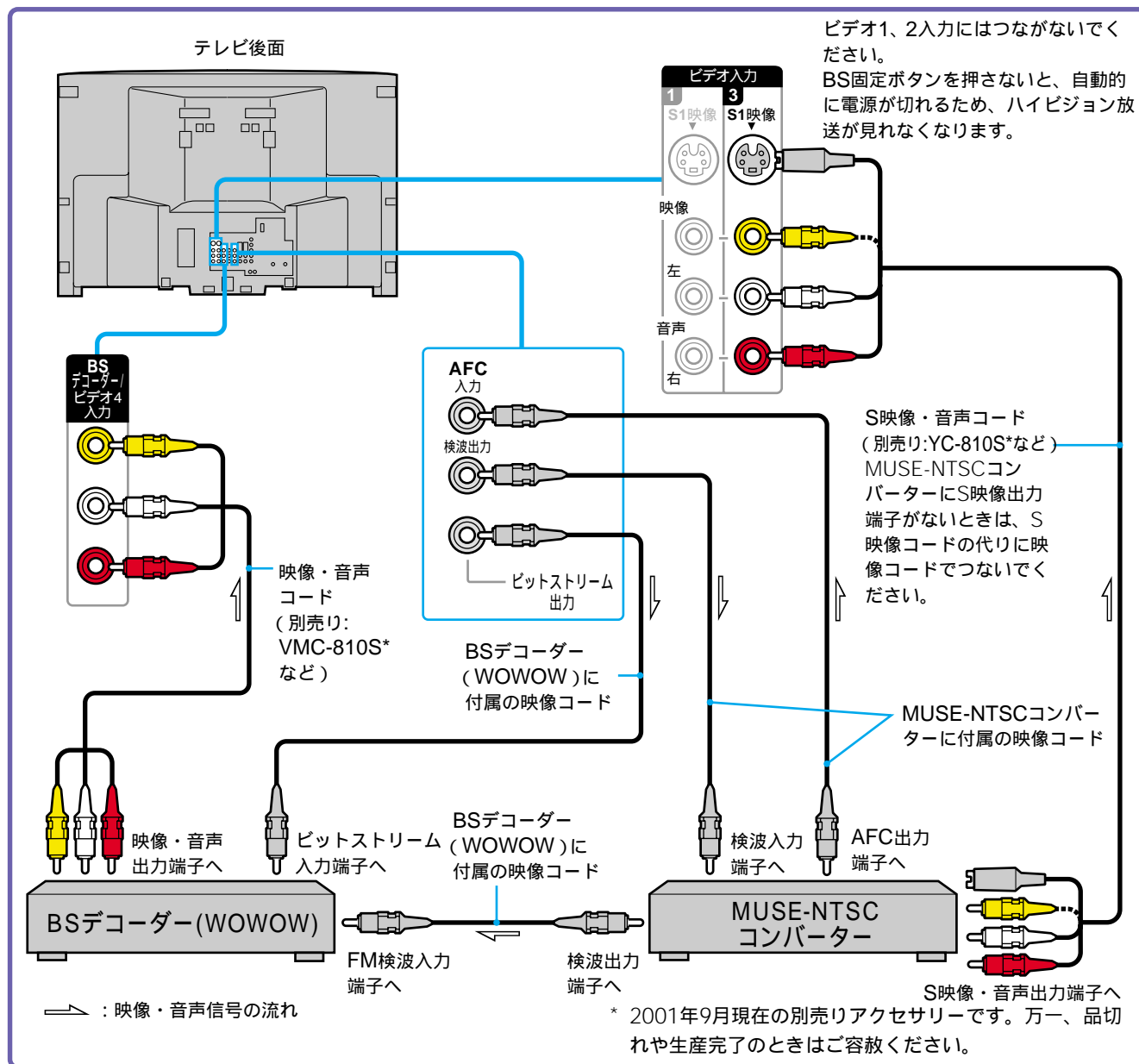
他機との接続

次のページにつづく

MUSE-NTSCコンバーターをつなぐ（つづき）

MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の両方をつなぐときは

以下の接続をしてください。また、MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書も必ずご覧ください。

＊ 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ハイビジョン放送を見るには

1 テレビのリモコンのBS9ボタンを押す。

2 ビデオボタンをくり返し押して、MUSE-NTSCコンバーターをつないだ「ビデオ3」を表示させる（☞22ページ）。

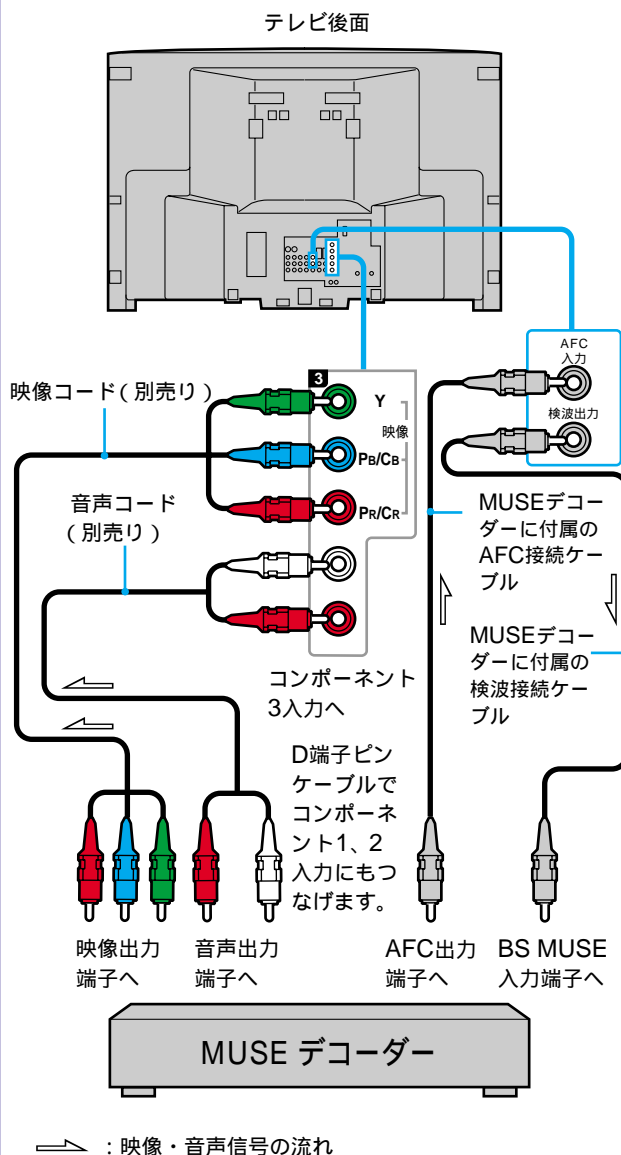
3 MUSE-NTSCコンバーターで、画面モードを「フル」にする。
詳しくは、 MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- この接続では、テレビのリモコンのBS9ボタンを押すだけでは、ハイビジョン放送は映りません。MUSE-NTSCコンバーターがビデオ入力端子に接続されているためです。
- MUSE-NTSCコンバーターによっては、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見るときにオートワイドが正しく働かないことがあります。このときは、ワイド切換ボタンをくり返し押して、画面モードを選んでください。
- ビデオ1、2入力端子にMUSE-NTSCコンバーターをつないだときは、手順1でBS9チャンネルを選んだあと必ずBS固定ボタンを押して「BS固定：入」にし、「ビデオ1」または「ビデオ2」に入力を切り換えてください。
BSチューナーの電源が自動的に切れるため、ハイビジョン放送が見れなくなります。

MUSEデコーダーをつなぐ

ハイビジョン（ベースバンド）放送をより高画質で見ることができます。
MUSEデコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントケーブルでつなぐときは

D端子ピンケーブルでつなぐときは

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

MUSEデコーダーをつなぐ（つづき）

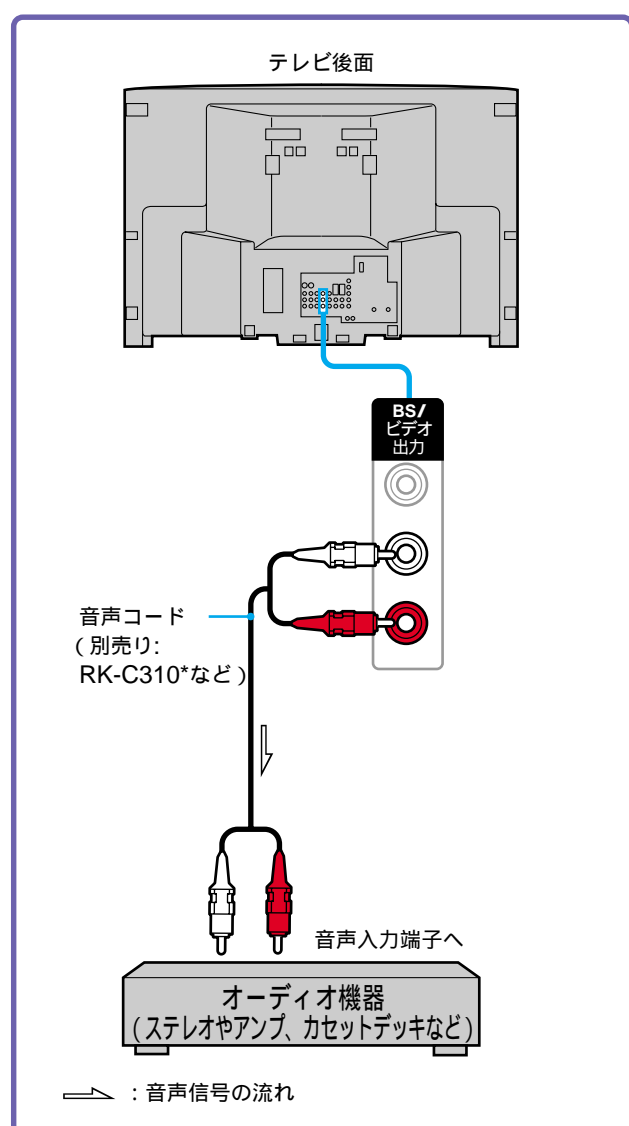
ハイビジョン放送を見るには

1. MUSE**デコーダーで、テレビをつないだ入力を選ぶ。**
2. **テレビのリモコンの**BS9**ボタンを押す。**
3. **コンポーネントボタンをくり返し押して、**MUSE**デコーダーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント**1（D**端子）」、「コンポーネント**2（D**端子）」、「コンポーネント**3**」のいずれか）を表示させる（☞**22**ページ）。**
   詳しくは、MUSEデコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言
テレビのコンポーネント1、2入力端子（D4映像*）にMUSEデコーダーをつないでいるときは、お買い上げ時の設定「HDモード：オート」のままでお使いください。入力信号を自動的に判別して、テレビの画面に映します。
詳しくは、☞58ページをご覧ください。

* D4映像について詳しくは、「映像信号フォーマットについて」（☞91ページ）をご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ

つないだオーディオ機器でテレビの音量を調整したり、つないだスピーカーからテレビの音声を聞いたりできます。
オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

- コンポーネント入力とAVマルチ入力につないだ機器の音声信号も出力できます。ただし、映像信号は出力されません。
- お買い上げ時は、ビデオ1入力につないだ機器の信号は出力しない設定になっています。ビデオ1入力につないだ機器の映像および音声を出力するときは、「(設定)」メニューで「初期設定」を選び、「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」にしてください(☞61ページ)。

ご注意

テレビの音量や音質の設定を変えても、オーディオ機器の音量や音質の設定は変わりません。

BS固定(☞34ページ)のときのご注意

以下の信号を出力します。

- **BS固定が「切」のとき**:
  テレビに映っている映像と音声を出力します。
- **BS固定が「入」のとき**:
  テレビに映っている映像と音声には関係なく、BS固定したBSチャンネルの映像と音声を出力します。
  BS固定したBSチャンネルが二か国語放送など二重音声番組のときは、二重音声ボタン(☞33ページ)で出力する音声を選べます。なお、テレビのスピーカーから聞こえる音声は、二重音声ボタンで音声を切り換えると一緒に切り換わります。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

その他

ここでは、テレビが正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

テレビ本体の型名：

ケーブイ　ディーエックス　ケーブイ　ディーエックス
KV-28DX750, KV-32DX750

画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

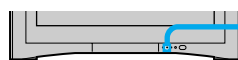
リモコンの型名：

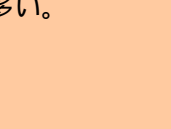
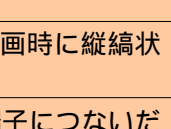
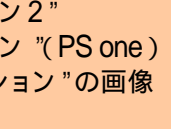
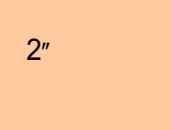
アールエム　ジェイ
RM-J250

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

このテレビには自己診断表示機能がついています。これはテレビに異常が起きたときに、スタンバイ/オフタイマーランプの点滅およびその回数でテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。ご相談の内容によっては、修理が必要な場合があります。

スタンバイ/オフタイマーランプ（赤）

1 スタンバイ/オフタイマーランプの点滅回数を数えてください。3秒おきに点滅します。
たとえば、2回点滅→3秒あき→2回点滅…この場合の点滅回数は2回です。
2 テレビ本体の電源スイッチで電源を切り、電源コンセントを抜いてから、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅回数を知らせてください。

テレビの症状と対処のしかた

症状		対処のしかた
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	• 電源コードをしっかりつないでください。 • テレビ本体の電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞45ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（スタンバイ状態になった）。	• テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後（2画面では操作画面、メモでは左画面、インデックス画面では親画面の放送終了後）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。 • オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞36ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞22ページ）。 • S映像入力のときは、「（各種切換）」メニューで「S映像」を「入」にしてください（☞61ページ）。 •“プレイステーション2”をAVマルチ入力につないでいるときは、“プレイステーション2”のコンポーネント出力の設定とテレビのAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください。（☞23ページ）
BS放送が映らない／乱れる	**BS放送が映らない/画像が乱れている。**	**BSアンテナを直接つないでいる場合** • 「（設定）」メニューで「BS設定」を選び、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞49ページ）。 • BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • アンテナの大きさが適切かを確認してください。 • アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 • アンテナの方向・角度を調整してください（☞50ページ）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** • 「（設定）」メニューで「BS設定」を選び、「BSアンテナ電源」を「切」にしてください（☞50ページ）。 • サテライト分波器でVHF/UHFとBSを分波してください（☞41ページ）。 • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** • BSアンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** • BSの放送時間を確認してください。 • 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、晴れていても、BSを送信する放送衛星会社の地域で雨や雪が降っても映りが悪くなることがあります。 • テレビの近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 • BS専用のケーブルを使ってください（☞42ページ）。 • アンテナコネクター（バルーン）を使っていないかを確認してください。 • WOWOWなどのスクランブル放送でないかを確認してください。
	BS放送のチャンネルが切り換わらない。	• BS固定にしていないかを確認してください（☞34ページ）。
	WOWOWが映らない。	• WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。 • BSデコーダー（WOWOW）は、テレビのBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。 • 「（設定）」メニューで「BS設定」を選び、「デコーダー/ビデオ」を「デコーダー」にしてください（☞72ページ）。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
きれいに映らない	**画像が二重、三重になる。**	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 • 「（設定）」メニューで「テレビ設定」を選び、「GR設定変更」で「GR」を「入」にしてください（☞54ページ）。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • アンテナの寿命を確認してください（通常3〜5年、海辺では1〜2年）。
	斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞11ページ）。 • 「（画質/音質）」メニューで、画質を調整してください。 • 「消費電力:減」のときは、画面が暗くなります（☞12ページ）。
	画面がまぶしい。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞11ページ）。
	画面の一部に色むらがある。	• テレビをマンションの壁、金属スタンド、ビデオデッキまたはスピーカーなどから離して置いてください。 • テレビをしばらく見た後、テレビの向きを変えると色むらが発生することがあります。このときは、地磁気の影響を受けています。1度電源を切り、約30分後にテレビを見る向きにしてから電源を入れ直すと、自動消磁回路が働き、地磁気の影響が軽減されます。
	画像が傾いている、上下にかたよっている。	• 「（設定）」メニューで「画像傾き補正」を選び、「傾き補正 回転」と「傾き補正 上下」を調整してください（☞43ページ）。
	縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
	ビデオの再生/録画時に縦縞状のノイズが出る。	• ビデオヘッドが干渉しています。できるだけビデオをテレビから離して置いてください。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”“プレイステーション ”(PS one)や“プレイステーション”の画像がずれる。	• 「（各種切換）」メニューで「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞24ページ）。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”の画像がきれいに映らない。	• “プレイステーション2”をAVマルチ入力につないでいるときは、“プレイステーション2”のコンポーネント出力の設定とテレビのAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください。（☞23ページ）

症状		対処のしかた
音が出ない／雑音が多い	**画像は出るが、音が出ない。**	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 「（設定）」メニューで「初期設定」を選び、「オートステレオ」を「切」にしてください（☞33ページ）。
メニューが選べない／表示が消えない	**メニューで選べない項目がある。**	• 黒く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
	「BSアンテナ電源を確認してください」の表示が消えない。	**BSアンテナをつないでいるときは** ①42ページの内容を確認してください。それでも表示が消えないときは、テレビの電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。 ②表示が消えたときは、もう一度、受信設定してください（☞49ページ）。そのときに、「（設定）」メニューで「BS設定」を選び、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてから行ってください。 **マンションなど共同受信システムのときは** ①42ページ下の手順1～2にしたがって操作し、手順3で「BSアンテナ電源」を「切」にしてください。 ②それでも表示が消えないときは、テレビの電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ワイド画面が切り換わる	**オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。**	• CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面をテレビが判断しているためです（☞13ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞13ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的にワイド画面に切り換わります。ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、「（画面モード）」メニューで「オートワイド設定」を選び、「オートワイド」を「切」にしてください（☞25ページ）。
テレビから異音がする	**「ピシッ」というきしみ音が出る。**	• 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、テレビに影響はありません。
	電源を入れたときにブーンという音がする。	• 地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能の動作音です。ソニーのテレビは、トリニトロン管を使用しているため、音が大きく感じられることがありますが、異常ではありません。ご安心ください。
	テレビの電源を切った直後にテレビの後ろからパチパチ音がする。	• テレビ内部で発生する静電気が原因で、テレビに影響はありません。
画面が一瞬光る	**暗い部屋で電源を入れたときに、画面周辺が一瞬光って見える。**	• ブラウン管内で、電源が入る際に発生する高電圧のために、ブラウン管内の蛍光部が光るためです。テレビの性能その他に影響はありません。

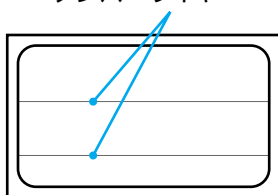
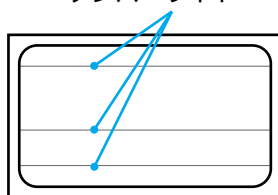
次のページにつづく

症状		対処のしかた
リモコンが働かない	**リモコンで操作できない。**	• 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • テレビ本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、テレビ本体の電源スイッチを押してください。 • リモコンをテレビのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具またはテレビの位置を調整してください。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞52ページ）** • 「（設定）」メニューで「テレビ設定」を選び、「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞52ページ）** • 「（設定）」メニューで「テレビ設定」を選び、「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 • 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 • チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。

ブラウン管表面のお手入れについて

ブラウン管表面が汚れているときは、市販のガラスクリーナー、または研磨剤の入っていない中性洗剤を水で薄め、柔らかい布に含ませ固く絞ってから、拭き取ってください。
表面を傷つけることがあるため、固い布の使用や、から拭きはやめてください。また、塩素系や塩酸などの酸性洗浄液や、クレンザーや歯磨粉など研磨剤入りの洗浄剤も使わないでください。

画面に細い横線が出たら（ダンパーワイヤー）

画像によっては、極めて細い水平線が見えることがあります。これは、ダンパーワイヤーと呼ばれる線材の影で、位置は下図に示されているとおりです。ダンパーワイヤーはトリニトロン管内部のアパチャーグリルの振動を抑えるために取り付けられており、より高画質な映像をお楽しみいただけるように工夫されたものです。

保証書とアフターサービス

このテレビは日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。ただし、ブラウン管代およびブラウン管の交換にともなう技術料、出張料は2年間無料です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KV-28DX750, KV-32DX750
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム
受信方式　NTSC方式
受信チャンネル　VHF 1〜12チャンネル
UHF 13〜62チャンネル
CATV C13〜C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
BS1、3、5、7、9、11、13、15
ブラウン管*　KV-28DX750:FDトリニトロン102度偏向28型
KV-32DX750:FDトリニトロン102度偏向32型
* テレビの型（28型など）は画面寸法を表すものではなく、ブラウン管の外径対角寸法を基準とした大きさの目安です。
画面寸法　KV-28DX750:57.5×32.4、66cm対角
KV-32DX750:66.2×37.3、76cm対角
（幅×高さ、対角径）
使用スピーカー　ウーファー 10cm 丸（1）
フルレンジスピーカー（4×12cm楕円）（2）
音声出力　実用最大：ウーファー 10W、
ミッドハイレンジ 5W×2（JEITA）

入出力端子
アンテナ端子　VHF/UHF、BS IF 75Ω F型コネクター
（コンバーター用電源出力、DC15V最大4W）
ビデオ1、2、3入力端子
S1映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上
BSデコーダー/ビデオ4入力端子
映像: ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル
500mVrms
入力インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント1、2入力端子
D4映像:
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント3入力端子
映像: ピンジャック
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上
AVマルチ入力端子　12ピン
BS/ビデオ出力端子　映像: ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100%変調時、またはBS放送の最大出力–12dB時の数値です。
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上
検波出力端子　ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
ビットストリーム出力端子
ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
AFC入力端子　ピンジャック、75Ω
コントロールS入出力端子
ミニジャック

電源部・その他
消費電力　KV-28DX750:185W
KV-32DX750:190W
消費電力（リモコン待機時）: KV-28DX750/KV-32DX750共通です。
BS固定が「切」: 0.08W
BS固定が「入」: 15W
年間消費電力量**　KV-28DX750:205kWh/年
KV-32DX750:210kWh/年
** 年間消費電力量とは:省エネルギー法に基づいて、型サイズや受信機の種類別の算定式により、一般家庭での平均視聴時間（4〜5時間）を基準に算出した、一年間に使用する電力量です。
最大外形寸法　KV-28DX750:78.6×52.3×51.6cm
KV-32DX750:88.2×59.0×54.9cm
（幅×高さ×奥行き）
質量　KV-28DX750:約48.2kg
KV-32DX750:約66.7kg
電源　AC100V、50/60Hz
付属品　リモートコマンダー　RM-J250（1）
乾電池　単3形（2）
アンテナ接続ケーブル（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために（1）
安全点検のおすすめ（1）

別売りアクセサリー
テレビスタンド　KV-28DX750:SU-S28DX*、SU-B28DX*、SU-FV29*
KV-32DX750:SU-S32DX*、SU-B32DX*
ステレオヘッドホン
MDR-AV305*
テレビラック固定ベルト
BLT-R10*
* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。
BSアンテナなど
接続ケーブルなど

- このテレビは「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。
- このテレビは米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。
BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル

BSアンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。
テレビのリモコンのDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRC4倍密（標準）モード」は、走査線を通常のNTSC映像の2倍の1050本にして、1フィールド目で走査線の525本全部（本来の1フレーム分）を1/60秒で描き、次のフィールドは、1フィールド目の間を525本で飛び越し走査します。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

検波

放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

ゴースト

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路

テレビで使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

識別制御信号

識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
－横縦比を4：3にする信号が入ったテレビ放送
－D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

シネマビジョン

画面の横縦比が2.35:1になっている映像ソフトのことです。一般的には黒帯に字幕が入る映画などに使われています。

スクランブル

映像、音声の信号を暗号化することです。民間BS放送（WOWOWなど）では、契約者以外は視聴できないように、電波にスクランブルをかけて（暗号化して）送信しています。スクランブルのかかった放送を視聴するためには、スクランブルを解除する機器（デコーダーなど）が必要です。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。このテレビはテレビチューナーおよびBSチューナーを内蔵しています。

デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション（DRC-MF）

テレビ放送やビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、通常のNTSC映像の4倍の情報量で映し出す「DRC4倍密（標準）モード」と、順次走査を行い、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。

デジタルCS放送

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

独立音声放送

民間BS放送（St. GIGAなど）の中には、1つのチャンネルで映像の音声とは別に、音声だけの放送が行われている場合があります。これが独立音声放送です。

ハ行

ビスタビジョン

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

ビットストリーム

BS放送で送られてくる電波のデジタル信号（音声とデータ）です。データ信号は、文字放送などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。
テレビのリモコンのDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRCプログレッシブモード」は、走査線525本の順次走査を行い、静止画の文字やグラフィック、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた映像にします。

次のページにつづく

用語集（つづき）

数字・アルファベット順

BSデジタル放送

2000年12月から本放送が開始された放送衛星を使って、デジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。
BSデジタル放送を受信するには、別途BSデジタルチューナーが必要となります。

BSデコーダー（WOWOW）

WOWOWなど民間BS放送の電波にかかったスクランブルを解除する機器です。

D端子

デジタルCS放送、BSデジタル放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。

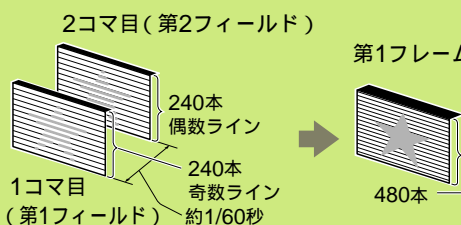
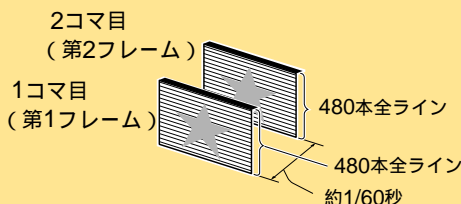
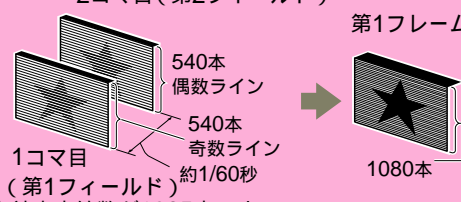
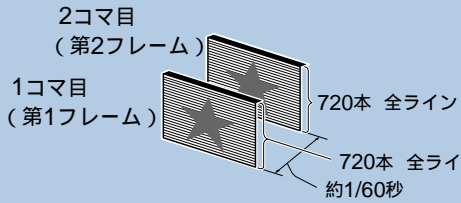
ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。このテレビはID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、テレビのビデオ1〜3入力端子、およびBSデコーダー/ビデオ4入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

MUSE-NTSC（M-N）コンバーター

MUSE方式のハイビジョン放送を現行の放送方式（NTSC）に変換するための機器です。画質は現行の放送方式（NTSC）と同等になります。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

S1方式（S1映像）

S映像のC端子へ直流5Vを重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。このテレビはS1方式に対応しています。S1映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、テレビのS1映像入力端子につなぐと、S1方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

映像信号フォーマットについて

日本国内の映像信号フォーマット（画像方式）は、走査線数と走査方式によって、以下の4種類があります。

映像信号フォーマット	映像の種類	対応するD端子
525i（480i） 525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。通常のテレビ放送（VHF/UHF）の信号です。 2コマ目（第2フィールド） 240本 偶数ライン／1コマ目（第1フィールド） 240本 奇数ライン 約1/60秒／第1フレーム 480本 **このテレビでは、内蔵の高画質回路［DRC-MF］によって、525iの画像も、きめ細かくて質感のあるリアル高画質で楽しめます。（☞10ページ）**	• 通常のテレビ放送（VHF/UHF） • BSアナログ放送 • ビデオ1〜4入力の映像 • AVマルチ入力の映像 • コンポーネント1〜3入力*の以下の映像 – BSデジタル標準テレビ放送（525i） – デジタルCS放送 – DVDプレーヤーの映像	D1端子 D2端子 D3端子 D4端子
525p（480p） 525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。 2コマ目（第2フレーム） 480本全ライン／1コマ目（第1フレーム） 480本全ライン 約1/60秒	• コンポーネント1〜3入力*のBSデジタル標準テレビ放送（525p） • コンポーネント1〜3入力*のDVDプレーヤーの映像（プログレッシブ出力映像）	D2端子 D3端子 D4端子
1125i（1080i） 1125本（1080本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。 2コマ目（第2フィールド） 540本 偶数ライン／1コマ目（第1フィールド） 540本 奇数ライン 約1/60秒／第1フレーム 1080本 現行のハイビジョン放送は、有効走査線数が1035本です。	• コンポーネント1〜3入力*のBSデジタルハイビジョン放送（1125i） • コンポーネント1〜3入力*の従来ハイビジョン機器の映像（ベースバンド）	D3端子 D4端子
750p（720p） 750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。このテレビでは、750pの映像信号を1125iの映像信号に変換します。 2コマ目（第2フレーム） 720本 全ライン／1コマ目（第1フレーム） 720本 全ライン 約1/60秒	• コンポーネント1〜3入力*のBSデジタルハイビジョン放送（750p）	D4端子

（　）内は有効走査線数で数えたときの別称です。また、iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。

つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。特に、BSデジタルチューナーの出力設定については、BSデジタルチューナー側の取扱説明書をご覧ください。

* コンポーネント1、2入力はD端子からの映像です。

走査線

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

有効走査線数

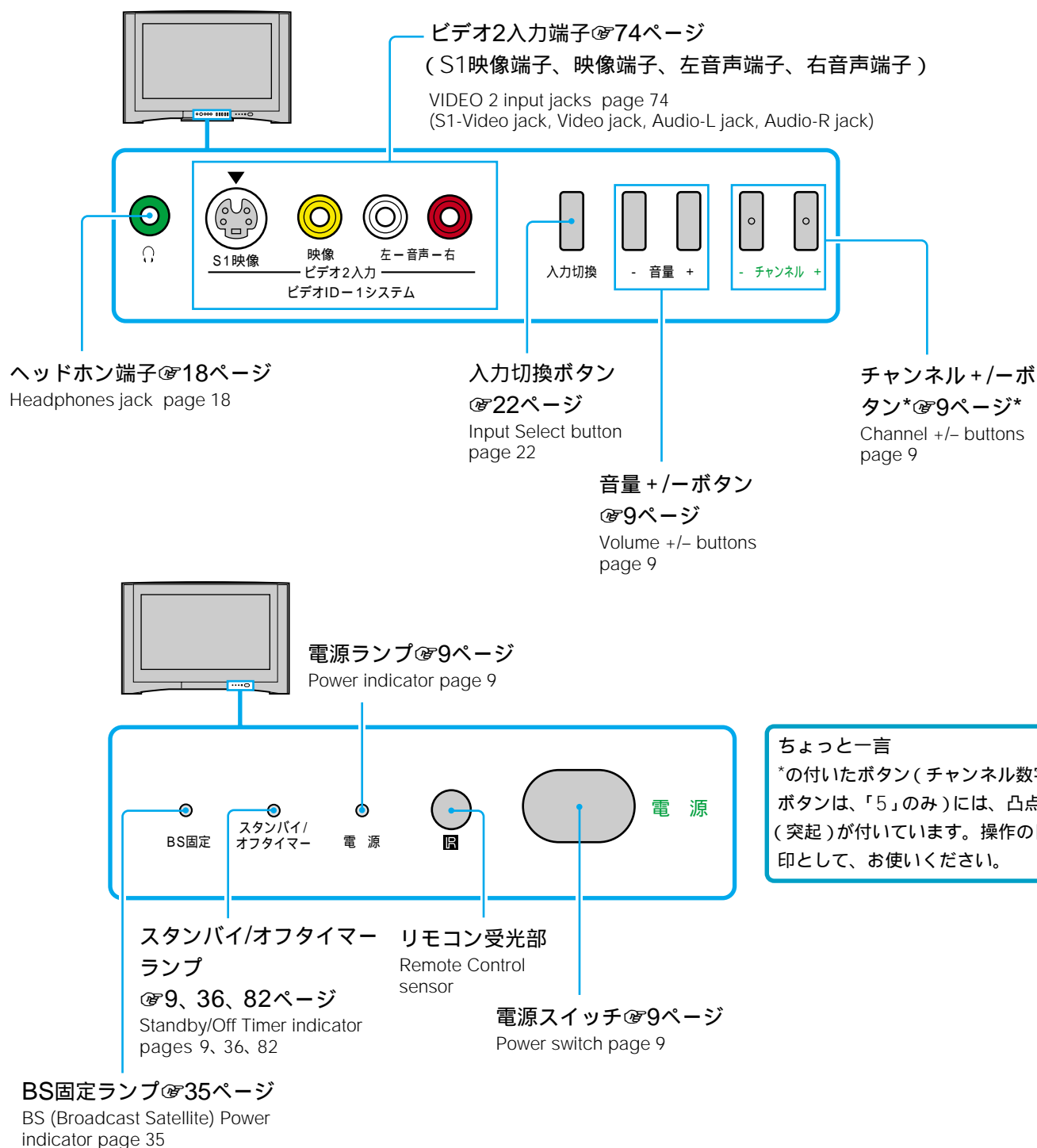
走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ放送やBS放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。現行のハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン（HD）放送では、1125本中1080本となっています。なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

D端子（コンポーネント1、2入力）

デジタルCS放送、BSデジタル放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。**このテレビにはD4入力端子（コンポーネント1、2入力）が付いてます。**

各部の名前/
Identifying parts and controls

テレビ前面/TV Front Panel

ちょっと一言
*の付いたボタン（チャンネル数字ボタンは、「5」のみ）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

リモコン/Remote Control

画面表示ボタン☞8**ページ**
Display button page 8

消音ボタン☞8**ページ**
Mute button page 8

DRC-MF**モード切換ボタン**
☞10**ページ**
DRC-MF Mode Selection button page 10

明るさ設定ボタン☞11**ページ**
Brightness Mode button page 11

メニューボタン☞27**ページ**
Menu button page 27

↑/↓/←/→/決定/左拡大/右拡大
☞17、27**ページ**
↑/↓/←/→/Select/Left Enlarge/Right Enlarge pages 17, 27

入力切換用ボタン☞22**ページ**
ビデオボタン
コンポーネントボタン
AVマルチボタン
Input Select buttons page 22
Video button
Component button
AV Multi button

BS**チャンネルボタン**
☞9、34**ページ**
BS (Broadcast Satellite) Channel buttons pages 9, 34

音量＋/ーボタン☞9**ページ**
Volume +/– buttons page 9

ワイド切換ボタン☞14**ページ**
Wide Mode Select button page 14

二重音声ボタン*☞33**ページ**
Audio Mode (Bilingual) button page 33

電源スイッチ☞9**ページ**
Power switch page 9

デジタルチューナーコントロールボタン☞66**ページ**
Digital Tuner Control button page 66

消費電力ボタン☞12**ページ**
Power Saving button page 12

メモ☞21**ページ**
Memo button page 21

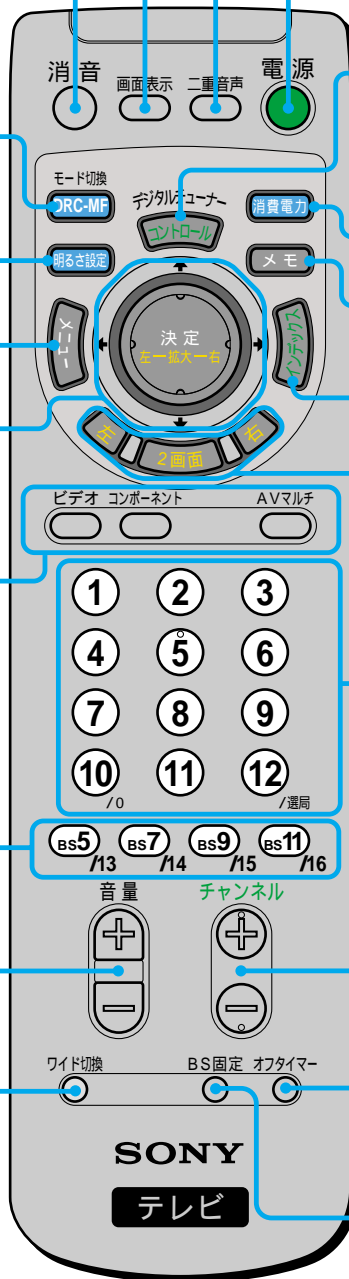
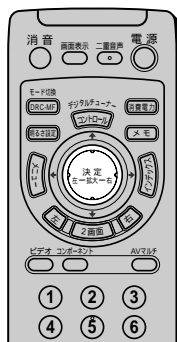
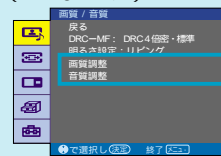
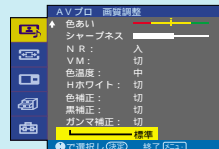
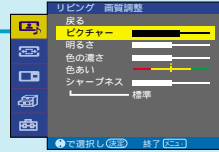
インデックスボタン☞19**ページ**
Index button page 19

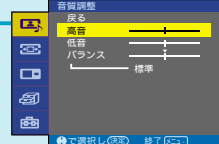
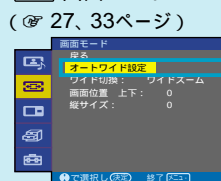
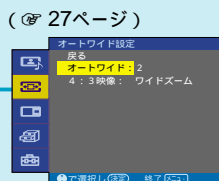
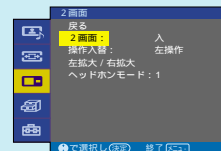
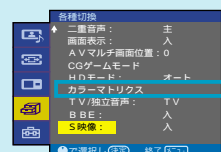
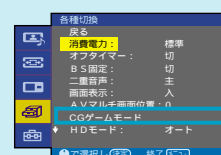
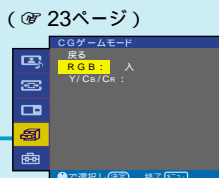
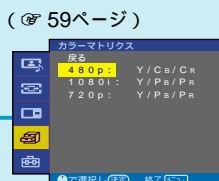
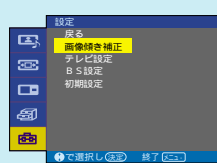
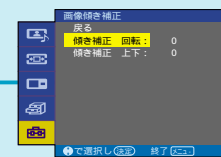
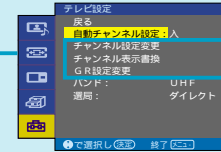
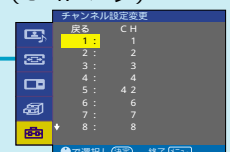
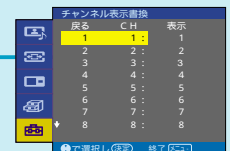
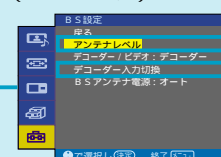
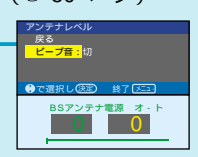
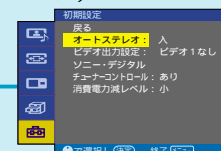
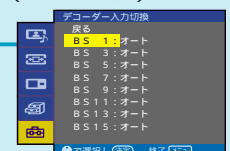
2**画面/左/右ボタン**☞15、16、17、18**ページ**
Picture-and-Picture/Left/Right Picture Operation buttons pages 15、16、17、18

チャンネル数字ボタン*
☞9**ページ**
Channel Number buttons page 9

チャンネル＋/ーボタン*
☞9**ページ**
Channel +/– buttons page 9

オフタイマーボタン☞36**ページ**
Off Timer button page 36

BS**固定ボタン**☞34**ページ**
BS Channel Lock button page 34

その他

メニュー一覧

- メニューは↑/↓/←/→で選び、真ん中を押しこむかまたは→で決定します。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 黒く表示される部分は選べません。

索引

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

数字・アルファベット順

数字

アルファベット

廃棄時にご注意願います。

2001年4月施行の家電リサイクル法では、お客様がご使用済みのテレビ（ブラウン管方式）を廃棄される場合は、収集・運搬料金と再商品化等料金をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

● ナビダイヤル……………… 0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311

● Fax ………………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金 9:00～20:00
土・日・祝日 9:00～17:00

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan